

機動戦士ガンダム 宇宙世紀vol.4

総括編



U.C.ガンダム資料館

宇宙世紀0079~0153

歴史を駆け抜けたガンダムの勇姿

6 Y.TOMINO FILMS HISTORY

U.C.

0093

0087

0079

A.D.

1988

1987

1986

1981

1979

TV



機動戦士
ガンダムZZ

TV



機動戦士
Zガンダム

MOVIE TV



機動戦士
ガンダム

MOBILE SUIT GUNDAM

0153

0123

1999

1993

1991

TV



機動戦士
Vガンダム

MOVIE



機動戦士
ガンダムF91

MOVIE



機動戦士ガンダム
逆襲のシャア

ガンダム大地に立つ！

それは、少年たちにとって生存への脱出だった

1979 機動戦士ガンダム





君は生きのびることが

できるか



新たな戦乱の口火を

切った黒いガンダム

1985

機動戦士Zガンダム

そして、Zの鼓動が宇宙を駆ける





君は
刻の涙をみる



シャングリラの

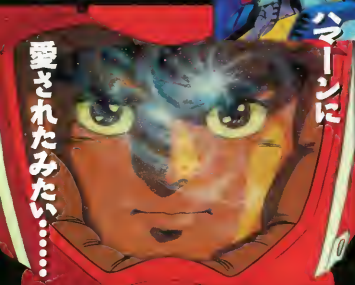
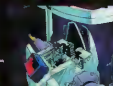
少年の一人な気持ち

それが戦場を揺さぶった

そして、戦士再び…

1986 機動戦士ガンダムZZ





Mobile Suit GUNDAM



シャアがアムロが、

ふたたび

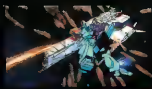
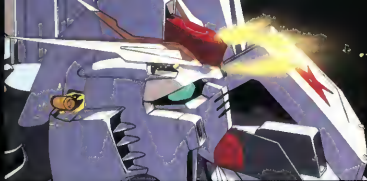
宇宙を戦場に対決する

機動戦士ガンダム
逆襲のシャア



人の革新が見えるが！





そのとき私は、父ジオンの

もとに召されるであらう



新たな宇宙が招いた

新たな機動兵器

1991

機動戦士ガンダムF91

エゴがぶつかる戦場でガンダムは光の影を身にまとう





セシリーに
決まっているじゃないか



ユリの花なんだよ



勝利の名を持つ

モビルスーツ
白い機動兵器は、

宇宙に光の翼を広げ、

少年は天使たちの昇天を目撃する。

1993
機動戦士Vガンダム





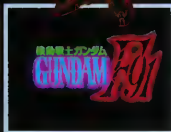
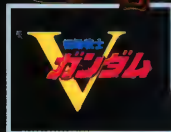
祈りでは人の業を消すことは



できないのでしょうか



GUNDAM TITLES



MOBILE SUIT
機動戦士ガンダム
宇宙世紀vol.4
総括編
GUNDAM

序章 本書の構成について

本書は、ガンダム20周年にあたり、1979年『機動戦士ガンダム』から1993年、『機動戦士Vガンダム』まで、サンライズによって制作されたテレビ版4本、映画2本、計6本の富野由悠季監督のガンダムシリーズを総覧するものです（総集編映画はテレビに含めました）。

富野監督は最初のテレビシリーズから一貫して『ガンダム』ワールドを構築してきました。

今年は20周年であることから、さまざまな形でガンダムの総覧本が出ます。すでに2月末時点で何種類かそのような本が出版されています。ガンダムを富野監督以外の作品や外伝的なものまで含めて総合的に扱ったものはありません。『富野ガンダム』をまとめるという切り口での本はまだない、と思い企画に乗ることにしました。

構成を担当することになって、まず最初に思ったのは、「自分がやるなら、単なるカタログ本にはしたくないな」ということでした。もちろんカタログ本にはそれなりの価値もあり楽しさもありますが、あまりに客観情報に

引き寄せすぎた類書を増やしても仕方ありません。せっかくチャンスがあるのだし、アニメックから出すというときに、『富野ガンダム6本』でどういう展開が可能か模索したいと考えました。

間違っても良いから、何かこのテーマでものを言うとするば、どんなことがあるだろうか。アニメの絵はどの出版社も共通に使えるものだけど、何かこだわることはできないのか。

こういう作業を通じて、富野監督は6本のガンダム作品でどんなことを考え、形にしてきたのかにも迫り、富野監督が感じてきたものに、何か触れる部分があれば良いな、という願い、欲も生まれてきたわけだ。

一方で、本作りをいろんな意味で「効率的に」行わなければならない、という大命題もありました。いつでも「ものづくり」は条件との戦いです。でも逃げずに全貌を見つめながら各個撃破することが肝要です。だって、ガンダムはそういう目線と姿勢で制作され、そういうことを実現する人々たちを主人公とした物語ですから。

全体を各ガンダム毎の章だてとし、共通のテーマとサイクルを与え、作品毎に転がすことであるリズムとメリハリを持たせられるのではないか、という構成論にしたのは、その辺にも理由があります。テーマ毎に6作品を貫いて語ることもできますが、ここはむしろ年代順に追っていくことで、ある流れも見つけられるのではないか、ということです。

アニメック名物「大事典シリーズ」で取り上げていないガンダムも実はあるということが判明。キャラとメカは設定資料を入れ、作品俯瞰のカッチリした文章でサンドイッチ、実物検証したい方へは作品リストとビデオリストがフォローするという、どこかしらアニメックらしさも意識した現在の形に最終的には落ち着きました。

文章に関しては、最初のサンプルを見てすぐに今回のメインライターである藤津亮太さんにすべてお任せすることになりました。マスコミに長く身を置かれた方で、非常に的確かつ具体的得た文章は、私のものよりも充実度が高く、今回お買い得な部分だと思えます。

どうか6作品をまとめて読むことで、富野監督が何を語ってきたかに思いをはせてください。機会があれば、フィルムも見てください。その時代時代で、監督が感じたことにウソはなく、歳を取るにつれ経験を積み再発見することの多さと、「ものづくり」への情熱に、ご自身で何かお感じになることがあり、実生活にも何か反映があるでしょう。

本書がその呼び水になれば、これに勝る喜びはありません。

ここで富野監督に、このように作品づくりを続けてこられたことに対して、また私たち自身の「ものづくり」へのエネルギーの源泉となっていただけたことに対して、改めて20周年の感謝の意を表したいと思います。

おつかれさまでした。

そして、ありがとうございます。

「新作」、楽しみにしています。

1999年2月

本書スタッフを代表して

永川竜介

機動戦士ガンダム 宇宙世紀vol.4

総括編

U. C. ガンダム資料館
3

序章●本書の構成について
20

第1章●機動戦士ガンダム
23

第2章●機動戦士Zガンダム
53

第3章●機動戦士ガンダムZZ
85

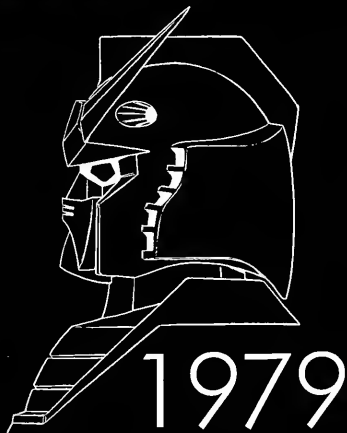
第4章●機動戦士ガンダム 逆襲のシャア
115

第5章●機動戦士ガンダム F91
141

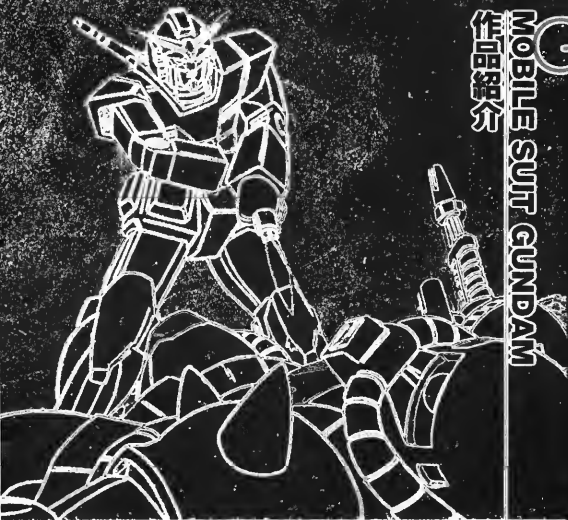
第6章●機動戦士Vガンダム
169

第7章●U. C. ガンダム総論
199

第1章 機動戦士ガンダム



G MOBILE SUIT GUNDAM 作品介绍



79年4月からO.A.ガンダムシリーズの原点、原型となった作品である。この作品で設定、ドラマなどにおいて画期的な試みが行われたことは、さまざまな検証の通りであり、それは後に、ガンダムのような作品が続く新しい地平を準備した。また、こうした後の作品への影響もさることながら、「無敵超人ザンボット3」「無敵鋼人ダイターン3」を経た富野監督の、ロボット物の作劇、演出術の一つの総まとめという側面もある。

テレビ版は後に再編集され劇場版三部作として公開された。配給は、当時アニメ公開の実績を持たなかった松竹。関係者は会見で「東映のヤマト、東宝のルパンと並ぶようになりたい」と語った。その真意は置いて、結果として初代ガンダム以降もOVAの再編集など含め5本の劇場版が公開され、松竹アニメの一つの顔となったのは事実である。

舞台設定

宇宙世紀0079年。地球から最も遠い、月の裏側に位置するコロニー、サイド3がジ



オン公国を名乗り地球連邦に独立戦争をしかけた。この戦場で、モビルスーツ（MS）と呼ばれる人型の兵器が初めて使用された。これは、電波障害を起こしレーダーを無効にするミノフスキー粒子が戦場で使われ、有視界で白兵戦を行う必要性が生じたために開発された兵器であった。

この独立戦争の中、連邦軍の新造戦艦ホワイトベースに乗り込み、戦わざるを得なかった少年少女がいた。サイド7でジオンの攻撃を受けた彼らは、その後もただひたすら生き延びるために、ふりかかる火の粉を払っていく。その中には、連邦軍が初めて実用化したMSガンダムに搭乗する少年アムロ・レイの姿もあった。アムロは戦場で、敵味方のさまざまな人物と出会いながら、少しずつ成長していくのだった。

物語の後半では「ニュータイプ」という概念が導入される。これは宇宙を生活環境としたときに、洞察力などが研ぎ澄まされ、物事の本質を捉えることのできる人間が生まれると説明されている。このアイデアはやがてシリーズとして増殖していく作品群の中でも重

要なテーマとして受け継がれていく。

物語

人類が増えすぎた人口を宇宙にあるスペースコロニーに移民させるようになって半世紀余りが過ぎたU.C.0079年。コロニーの一つ、サイド3はジオン公国を名乗り、地球連邦に独立戦争を挑む。ジオンはMSザクを戦線に投入したほか、コロニーを地球に落下させる作戦を実行したものの勝敗を決することはできず、戦争は膠着状態に陥った。

そんなある日、建設途中のコロニー、サイド7にザクが潜入した。彼らがそこで目撃したのは連邦が開発したMSガンダムの姿だった。功名心にかかれたザクのパイロットは奇襲を強行。サイド7の中で戦闘が始まる。

サイド7に住んでいた少年アムロ・レイは、その戦闘に巻き込まれた。避難中に、幼友達のパラウ・ボウの家族が戦場で死ぬのを目の当たりにしたアムロはガンダムに乗り込み、不慣れながらもザクを倒すのだった。

サイド7の住民は入港していた新造戦艦ホ



ワイトベース（WB）に避難した。ジオンの奇襲で正規兵がほとんど死んでしまったWBは、民間人の力を借りないとサイド7から脱出できない状態に陥っていた。ガンダムを操るアムロは、そのままガンダムのパイロットをやらされることになる。

サイド7を偵察していたのは、ジオン軍のエース、シャア・アズナブルであった。自ら出撃した彼は、ガンダムの武装、装甲の厚さなどに驚嘆する。彼は、WBを追撃し、大気圏突入時に攻撃をかけて、北米のジオン領へと誘導することに成功する。

地上に降りたWBを迎え撃つのはザビ家の本弟、ガルマ・ザビ。だが、ガウ攻撃空母で出撃した彼はシャアの奸計にはまり、WBの前に誘い出され、集中砲火を浴びて散る。

ガルマの死は、ザビ家長男のギレン総帥によって政治宣伝に使われる。シャアはガルマを守りきれなかったことを理由に左遷。そして、ユーラシア大陸を西進するWBの追撃任務は、ランバ・ラルに託されるのだった。

故郷での母との再会そして離別。ランバ・ラル隊との戦闘と、その合間にふれあったラ

ンバ・ラルとクラウレ・ハモンの記憶。WBの補給に訪れたマチルダ・アジャン中尉との交流。アムロは自分への評価の不满からWBを飛び出すなど周囲と衝突しつつも、戦場でさまざまな経験を重ねていく。

一方、連邦軍はレビル將軍の指揮下、マクベ大佐の確保する鉱物資源採掘基地を攻めるオデッサ作戦を発動し、これに勝利。地球上の勢力地図を大きく塗り替える。

オデッサ作戦後、WBはジャブローへ向かう。水中用MS、MAで攻撃を仕掛けてきたのは、再び戦場に帰ってきたシャアであった。ジャブローに到着したWBは、正式に連邦軍に編入され四部隊として宇宙にあがる司令をうける。そこに総攻撃をかけてくるジオン軍。シャアもMSズゴックで出撃し、再びアムロと対する。また、シャアはジャブローに潜入した際に、今はセイラ・マスと名乗りWBに乗り込んでいる妹アルテイシアと再会し驚愕、WBを降りると命じる。二人はジオン独立を唱えザビ家に暗殺された、ジオン・ズム・ダイクンの忘れ形見だったのだ。

宇宙に出たWBは中立コロニー、サイド6

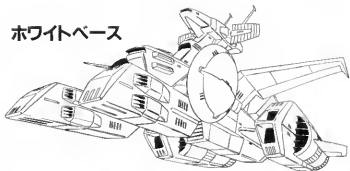


に立ち寄る。アムロはそこで、サイド7の戦火の中で別れた、父テムと再会するが、彼は酸素欠乏症でもはや正常な判断力を失っているのだった。心の中で別れを告げるアムロ。そして、アムロは湖のほとりでニュータイプ少女、ララアと運命的な出会いをする。

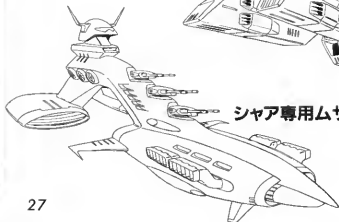
連邦軍はジオンの拠点であるソロモンを陥落させる。その中で、ニュータイプとして急速に目覚めていくアムロは、ララアと惹かれ合う。だが、シャアを愛していたララアは苦悩しながらも、ついにはシャアの盾となりガンタムのビームサーベルに焼かれるのだった。ギレンは、和平交渉を焦った父デギン公王が連邦に接触しようとしたことを知りつつ、ソーラ・レイ作戦で、デギンもろとも連邦軍の三分の一を殲滅。だが、彼は妹のキシリアに、父殺しの罪を問われ、ア・バオア・クー決戦の最中に殺害される。

シャアはMSジョングでガンダムと死闘を演じていた。互いにMSを失い生身で向かい合うシャアとアムロ。セイラはそれを止めようとするが、爆発で三人は散り散りとなる。シャアは自らの復讐に決着をつけるためキ

ホワイトベース



シャア専用ムサイ





シリアを暗殺して姿を消し、アムロは、ニュータイプ能力を使って、セイラやほかのWBのクルーをア・バオア・クーから脱出するように誘導する。そして、一人残されたアムロを脱出へと導いたのは、ララアと、そしてWBに乗り込んでいた子供たちだった。アムロは仲間の待つランチへと還っていく。

時代背景

この年の重要な作品として、前年「未来少年コナン」を発表した宮崎駿の「ルパン三世カリオストロの城」を筆頭にあげても、異論を唱える人は少ないだろう。一方、ヤマトシリーズもいまだ健在で、テレビ版「宇宙戦艦ヤマト2」の続編である「宇宙戦艦ヤマト 新たなる旅立ち」をテレビシリーズでOA、また、その路線を踏襲する「宇宙空母ブルーノア」も製作された。松本零士アニメでは映画「銀河鉄道999」もヒット。「ドラえもん」の放送開始もこの年のことだ。

サンライズ作品は、「ザ☆ウルトラマン」「サイボーグ009（新）」がOA。ロボット

物としては「未来ロボタルトニアス」や「闘士ゴーディアン」があり、タツノコプロは「科学忍者隊 ガッチャマンF」「タイムボカンシリーズ ゼンタマン」を放映した。こうしてラインナップを見ると、ヤマトが掘り起こした中高生（やそれ以上）のファンを意識しつつも、そのニーズにすばり応える作品は見あたらない。このあたりが、初代ガンダムが低視聴率であったものの、根強い人気を得た理由であろう。

この年発売の人気商品といえば「ウォークマン」が筆頭だ。YMOが「ソリッドステイト・サバイバー」を発表し、NEC（当時、日電）のPC-8001が人気になるなど、次なる時代の予感、新しい感性の世代が育ってきている実感が満ちた年でもあった。そういえば、大友克洋の「ファイヤーボール」、村上春樹の「風の歌を聴け」もこの年の発表だ。リドリ・スコット監督は「エイリアン」を発表。その陰鬱なビジュアルとギーガーのエイリアンのデザインが、後のSF映画に大きな影響を与えたことも忘れられない。

国際情勢ではソ連のアフガニスタン侵攻が

ミノフスキー物理学の 生まれた日

話題に。この問題は、翌年の西側諸国のモスクワ五輪ボイコット事件へとつながっていく。

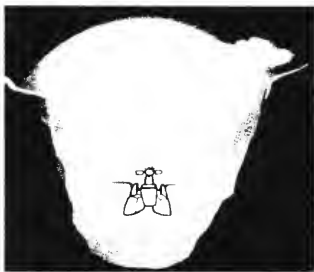
MSの接近戦を演出するために考えられた電波妨害粒子。静止質量はほとんどゼロで、正粒子と反粒子があり、二つが一定の間隔をおいた立方格子状に並ぶ。この粒子の電磁波作用などによって電波が阻害され、ガンダムの世界では2次大戦初期の無線事情とほぼ同じ状況にある。

「ミノフスキー粒子戦慄濃度散布」や「ミノフスキー粒子が濃い」というセリフは、こうした設定を踏まえてのものなのである。

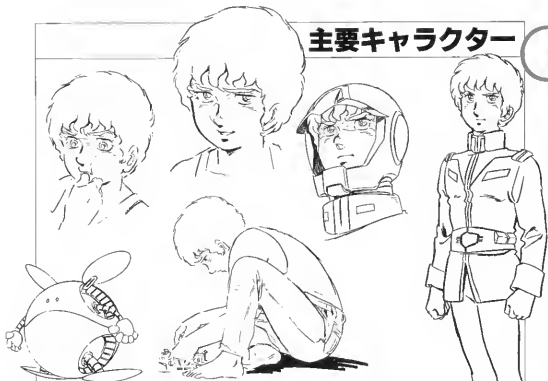
当初は電波障害のためだけの設定だったのだが、地上に降りたホワイトベースが空中浮揚した瞬間、その『SF考証』のためにミノフスキー粒子を使うこととなった。そして、そのアイデアの延長線上で、小型核融合炉の開発、ビームサーベルやメガ粒子砲など、現実の技術だけでは説明しにくい部分を、ミノフスキー粒子で説明することになったという。

こうして、ミノフスキー粒子の応用は広がり、

ミノフスキー物理学と呼ばれる架空の学問まで生み出すことになったのだ。



主要キャラクター



ハロ

手先の器用なアムロが、フラウのために組み立てたベットロボで、かなり優秀な性能だ

主人公 アムロ・レイ

機械いじりの好きな、内向的な少年だったが、サイド7の空襲がきっかけで、父の埋めしたMSガンダムに乗り込む。生き延びることだけに真剣であったが、いつしか歴戦の勇者として成長していく。アムロの精神的な成長こそ、人類が目指すニュータイプへの革新だったのかもしれない



親子関係

アムロは幼い頃に母と別れ、仕事がちな父には放任で育てられていた。つまり、彼は本人の望むと望まずに関わらず、両親を一度失っていたのだ。そして、彼はWBの旅の中で、もう一度両親と出会い、今度は自らの意志で彼らに別れを告げる。それは乳離れというよりも、子供時代には戻れないことを確認する、哀切な行為であった。だからこそラストシーンで、アムロは帰れる場所があることを「嬉しい」と言えるのである。

シヤアは父親の思想を受け継いだ、父親が早世したために、彼は父親のモデルを自分の中に持てなかった。もっとも、それは「逆襲のシヤア」で初めて明らかになるのだが。



母と別れた幼少のアムロ





アムロの母であるが、宇宙の暮らしを拒否し地球に住む。息子とは再会するが母子が理解し合うことがなかった

カマリア・レイ



テム・レイ



連邦軍のMS開発担当者で、ガンダム計画の責任者。アムロの父であるが、仕事一筋で家族をかえりみない性格。アムロとは意外な再会をする



カイ・シデン

サイド7の難民のひとりであったが、WBに乗り込み兵士となる。世の中を捻ねた目で見る少年で、協調性は皆無であったが、戦いの中で大きく成長する



ブライト・ノア

訓練士官としてWBに転進していたが、正規乗員が死亡して責任者となる。生真面目な性格だが、アムロたち少年兵が最大限の力を発揮できる指導者だった



ハヤト・コバヤシ

アムロの隣に住む少年で、仲は良くなかった。ガンタンクに乗りアムロの支援を続けるライバルであったが、戦いの中で一人前の戦士として成長した



リュウ・ホセイ

WBの訓練生であったが、戦闘員の中核となる。ブライトの良き相談相手であり、アムロの良き理解者として活躍。WBを命懸けで守った



セイラ・マス

ミライ・ヤシマ

サイド7で医者の勉強をする少女であったが、ジオンの遺児でシャアの妹でもあった。当初オペレーターとして乗り組むが兄を探す目的からMSパイロットに転向し戦闘要員になる

三人とも親を失ったが、明るく元気。その鋭い感性と機転利便の生活がニュータイプとして活性化した

カツ

キッカ

アムロのガールフレンドで世話好きな少女。最後まで戦闘要員にはならず、子供たちの親代わりを続けた

名家の令嬢であったが父の戦死によりサイド7に居住していた。明るく性格でWBのお嬢さん的な働きをする。脱出時より操舵手を務め回避運動には勘の冴えを見せる少女

レッツ

フラウ・ボウ

レビル大将

ウッティ大尉

ジャブローの技術士官でマチルダの婚約者。WBを命をかけて守り抜いた

マチルダ・アジャン

レビルの命を受けWBを援助した補給部隊責任者。マチルダの死はアムロを大人にする

歴戦の勇者であり、WBをニュータイプ部隊と予感する。レビルの庇護がなければWBは力尽きたろう

オスカ

バオロ・カシアス

WBの初代艦長。シャアの奇襲により負傷する。少年たちの未来を信じて戦死

マーカー

オスカと二人で交通要員のいない激戦をこなした。この二人がWBの目であり魂であった

ワッケイン

ルナツーの指揮官であり軍規によりWBを拘束するが、バオロ艦長の助言により、解放する

ララァ・スン

覚醒したニュータイプ少女。シャアに拾われ、ジオンの切り札としてアムロと対決する。ララァの存在がシャアとアムロに大きな影響を残し続ける



シャア・アズナブル

ジオンの赤い彗星と称されるエースパイロット。亡きジオンの遺児であるが、ザビ家に養育されており名を変え、顔を隠して兵士となる。連邦のV作戦を察知した事により、ガンダムと最後まで戦う



敵

ジオンは、少ない国力でいかに連邦に勝利するかを徹底した国である。そこでは、兵士の士気をあげる大義として、ジオン・ダイクンが唱えた「人の革新論」を利用したのである。そこでは人の革新論は、宇宙に出た人類は優良であり、地球に住む人類より優れているというふうに卑小化して語られたが、一般兵はこれに説得力を感じたからこそ、あの緒戦の勝利は可能になったのだと思う。

兵士の忠誠を支える論理として、歴史のないザビ家への個人崇拝ではなく、ジオン・ダイクンを利用したところに、ザビ家の政治手腕がうかがえる。もっとも、それはジオン・ダイクンにとって不幸なことであった。





キシリア・ザビ

ギレン・ザビ

引退し公王となったデギンの長男で、ジオン公国軍総帥。実質的な実権はギレンが持ち、彼の野望が一年戦争を救いようのない泥沼に引き込んだといえる。冷徹な性格で、兄弟すら手駒として扱う。



デギン・ザビ

ジオンの興した民主国家を独裁政権にし地球連邦軍に独立戦争という名の侵略戦争を仕掛けてきた。デギンの子孫はそれぞれの分野のエキスパートだ。



デギンの長女であり、突撃機動軍を率いる。ギレンやドズルを出し抜き実権を握ろうと画策していた。野望達成の為にギレンを射殺。



イセリナ・エッシェンバッハ

ジオンに占領されたニューアーク市長の娘。占領軍司令官のガルマと恋仲であり、ガルマの仇としてアムロに銃口を向ける。

ゼナとミネバ

ソロモン放鹫時に脱出したドズルの愛妻と娘。ミネバはザビ家最後のひとりだ。



ドズル・ザビ

勇猛果敢な宇宙攻撃軍を指揮するザビ家の次男。シャアの上司であったが、ガルマの死によりシャアを放逐。直情型の人間であったが、現場の将兵には人気があった。

ガルマ・ザビ

ザビ家の末弟。士官学校時代からの親友であるシャアに敗かれ、WBの砲火に敵る。期にも兄にも甘やかされたお坊ちゃん育ちが仇となった。



デニム

サイド7襲撃の指揮を取るが、若いシンをコン・アローで捕す。ガランの発案となる。

ジーン

シャアの部下で、襲撃任務中に功を挙げ、サイド7を攻撃し、ガンダムの初戦果となった。



マ・クベ



キシリア直属の戦術家。地球鉱物資源を確保する為に奔走する。ガンダムと直接対決もするがその戦いは、アムロを激怒させ敗れ去る。

デニムとジーンをきく三人でサイド7の襲撃任務にたがく。侵入口に待機し運用のMSの存在をシャアに伝える。



スレンダー

ハモンとランバ・ラル

グリラ戦を得意とするランバ・ラルは、シャアとセイラを地球へ亡命させたジンバ・ラルの息子である。ガルマの仇討ち部隊としてWBを攻撃し、アムロの最大のライバルとなるが、壮絶な最後を遂げる。



ガイア



マッシュ

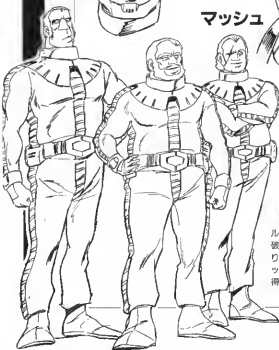


オルテガ



フラナガン・ブーン

キシリア配下の潜水艦部隊の指揮官として、復活したシャアの最初の作戦を補佐。民間人に化けてWBに侵入したり自らMAで出撃したりする行動派の軍人。



黒い三連星

ルウム戦役で、レibel将軍を破り捕虜にした歴戦のMS乗り。三位一体で攻撃するジェットストリーム・アタックが得意技でアムロも苦戦する。

木星帰りのニュータイプ。キシリアとギレンの思惑に翻弄されアムロと戦うも敗れた悲劇の戦士。



シャリア・フル

主要MSとメカ

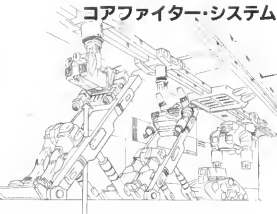
コア・ファイター

ガンダムタイプMSのコクピットを脱出させる物であったが、その性能が予想以上で、軽戦闘機として運用可能



胴体内部の操縦席を共通化した為に、三台のガンダムタイプMSは、立体的な運用が可能になっている

コアファイター・システム



ガンダム

ミノフスキー電子波での戦術で敗退した連邦軍が、MSサクに対抗して開発した新型MS。サイド7から運び出された試作品ながら、全ての性能においてサクを圧倒する。ガンタンクガンキャノンとコンビネーションを組めば最強の運用が可能となる

ガンダム

従来のロボットものに不可欠な合体の要素を、パーツと脱出力フェルにもなる軽戦闘機の「合体」と合理的に説明（設定）したことがまず画期的であった。そして、そのリアルさはデザイン、スペックだけでなく、整備や、コンピュータシミュレーションのシーンをちゃんと描出するというシナリオ、演出にこそ支えられていたことを忘れてはいけない。とはいうものの、スーパーロボット物の香りが残るガンダムハンマー、ビームジャベリンなどが忘れられている昨今の傾向は、ちょっと残念ではある。昨今のGガンダムやガンダムWのクレン味ある武装からすれば、あまり違和感がないようにも見えると思うが。

ガンペリー

白兵戦用のMSを地上で運用する為の支援メカ。兵員輸送や攻撃機としても使える多目的飛行機である

ガンキャノン専用ビームライフル

ガンダムハンマー

ハイパーバズーカ
巨大なバズーカで宇宙でも使える

ガントク

ある意味では、連邦の試作MS。コアブロックを使っているだけでMSというより移動砲台ではない

ガンキャノン

ガンダムに先立って開発されたMS。火力と装甲は勝るものの機動性能はやや劣る。中距離支援には最適なMS

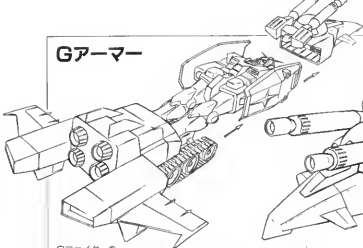
GM

ボール

GMだけでは絶対数の足りない連邦が作業ボットを強化改造し砲塔を取り付けたもの

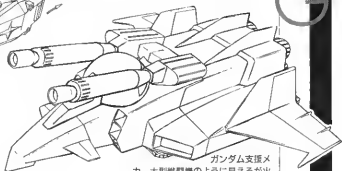
ガンダムの生産タイプ。高価なコアブロックを廃し、量産した物でガンダムの運用結果がフィードバックされている連邦軍MS

Gアーマー



Gファイターを前後に分割してガンダムを内部に収納した飛行形態。目的地まで飛行し、分離したガンダムが戦術するのが運用の基本である

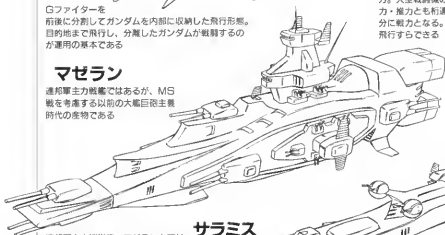
Gファイター



ガンダム支援メカ。大型戦闘機のように見えるが火力・推力とも桁違いで、単独でも十分に戦力となる。MSを上に乗せて飛行すらできる

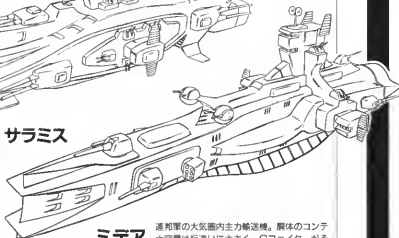
マゼラン

連邦軍主力戦艦ではあるが、MS戦を考慮する以前の大艦巨砲主義時代の産物である



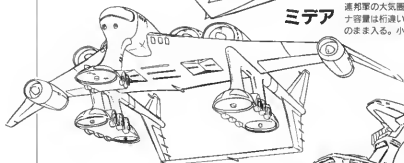
サラミス

連邦軍主力巡洋艦。マゼランと同じく大気圏突入能力はない。艦隊戦であれば、数で圧倒できた連邦も、MS戦では不利であった



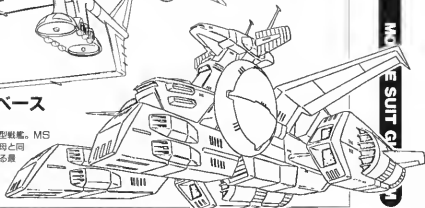
ミデア

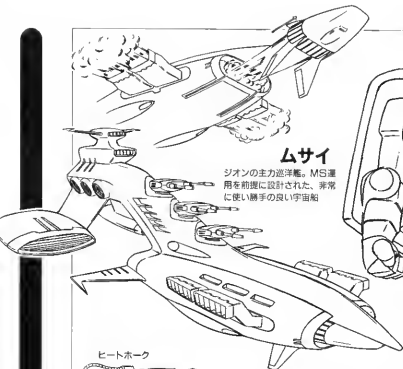
連邦軍の大気圏内主力輸送機。胴体のコンテナ容量は桁違いに大きく、Gファイターがそのまま入る。小部隊なら一機の補給で足りる



ホワイトベース

V作戦の一環として建造された新型戦艦。MS運用を前提にだけに運用は空母と同等に扱われる。大気圏突入ができる最初の宇宙船でもあった。その形状からジオンに木馬と呼ばれる





ムサイ

ジオンの主力巡洋艦。MS運用を前提に設計された、非常に使い勝手の良い宇宙船

ヒートホーク



ミサイルポッド



MS-06ザク

ジオン公国が機密で開発した新兵器。その機動性と汎用性は今までの戦術を一変させ、独立戦争へ踏み切る背景となった



ザク・バズーカ

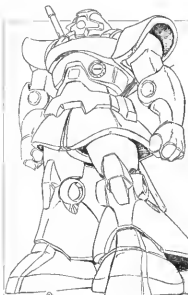
MS-05旧ザク



ジオン軍

ガンダムがリアル性（ヒーロー性）の間に生まれたとするなら、ジオンのMSはモンスター性（つまり怪獣の類であること）を父に、ミリタリー性を母に生まれたといえる。ガンダムと対照的な曲線の多いデザイン、大きな爪、そしてモノアイなど、いずれもモンスター性を際立たせる要素ばかりである。MSジオングの足を持たない変則的なデザインも、モンスター性の名残といえないこともない。こうした怪獣的ケレン味を持つMSにも関わらず、兵器として演出して見せたからこそガンダムの独自の世界観が成立したのだ。ガンダムを支えたのはリアルだけでは語りきれない、ジオンのMSのデザインなのである。

開戦前まで量産されていたMS-05、旧式になったとはいえ後方支援や補給で使、まだ使用されている機体である



MS-07 グフ

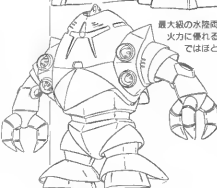
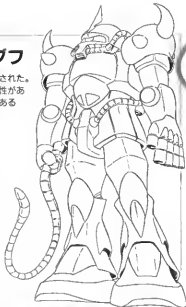
対MS用を前提として開発された。白兵戦ではザクよりも機動性があったが、汎用性にやや難がある

MS-09 ドム

局地戦用重MS。両足のホバーにより素早い移動を可能にした。宇宙用はMS-06Rリックドムと呼ばれる

MSM-07 スゴック

水陸両用MSながら、地上での戦闘力が優秀なMS



最大級の水陸両用MS。火力に優れるが、地上ではほとんど機動能力がない

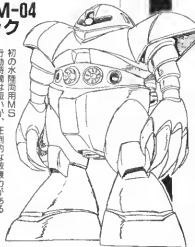
MSM-10 ソック

ジオンでは初めてビームライフルを装備した対戦末期に量産されたMS

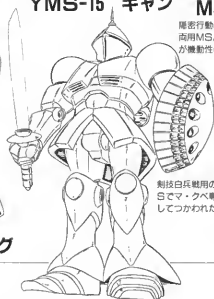


MSM-04 ゴック

初の水陸両用MS。行動時間は短い。圧倒的な破壊力がある

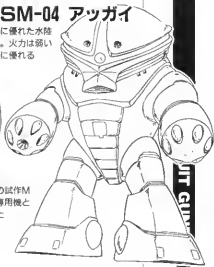


MS-14 ゲルググ



YMS-15 ギャン

隠密行動に優れた水陸両用MS。火力は弱い。機動性に優れる



MSM-04 アッグアイ

剣技白兵戦用の試作MSでマ・クベ専用機としてつかわれた

MA原型 アッサム

移動砲台として分類されるが、空中移動をしてガンダムと互角に戦った

グラブロ

水中用MA。その優れた機動力にガンダムも苦戦を強いられた

ビグロ

高速宇宙機動MA。その加速にはアムロすら失神した

ブラウ・プロ

ニュータイプ用MA。まだ実験段階で、複数の助手を使わずに戦える程度。2号機はシャリアブル機

エルメス

ニュータイプ用MAの完成形態のひとつ。ラファ専用

ザクレロ

宇宙戦闘用に開発途中で廃棄処分となった。活躍する間もなく撃破される

ジオング

ニュータイプ専用MSとしてシャアに与えられた。樹がないので80パーセントの完成率の機体

ザンジバル

ジオン初の、大気圏突入が可能になった宇宙機動巡洋艦

ビグ・サム

ソロモン守衛に使われた最大級のMA。歩く戦艦並の機動力と火力があった

グワジン

ジオンの主力戦艦。グワジンはキシリア艦だが同型艦は荷官クラスにしか配属されなかった

G

MOBILE SUIT GUNDAM

機動戦士ガンダム

総括



「機動戦士ガンダム」は、後に続くあらゆるガンダムの原点となった作品だ。これは単に、一番最初に製作されたから結果として原点になった、というわけではない。作品の中にさまざまな要素が整合性を持って盛り込まれていたからこそ、初代ガンダムを種として、さまざまなガンダムが花を咲かせることができたのである。極論してしまえば、これ以降のガンダムシリーズは全て、初代ガンダムの中の要素を拡大し、反復し、複雑化させたものといっても差し支えないだろう。

Zガンダムは、富野監督が発表した文章の通り「ガンダムはリアルな物語であろうという視聴者の意見に従った」作品であった。ガンダムの中では点景だった政治劇や、個人の情念をクロローズアップし、そこに立脚して物語世界を作った。

ガンダムZZは、MS戦の持つアクション性の追及と、ティーンエイジャーが仲間と一つの体験をするという「学園物」的側面をピックアップした。ガンダムが「学園物」というと違和感を感じる人がいるかもしれない。だが、初代ガンダム・ブームの頃のアニメ誌



の特集で「ガンダムは金八先生だった!?」というアオリをつけたものがあつたことからわかる通り、十代の視聴者にとって無意識のうちに、WBとは一種の通過儀礼の場（つまり、身近に例えるなら学校）として受け止められていたのである。

このキャラクターとの同世代感こそが、ガンダムのアニパロやピンナップ「麗しのアルティシア」を受け止める土壌となっていた。SF設定面での考証ばかりが話題になる伝説的ムック「ガンダムセンチュリー」に、脚本の松崎健一氏がWBでの風呂場覗きをめぐるドタバタを描いた小説を掲載したのも、そんなニーズがあつたからであろう。

そして、初代ガンダムから始まる物語を総決算した逆襲のシャア。ここでクローズアップされたのは、人の革新というニュータイプ論。そして、通過儀礼を経過して大人になつたはずのアムロとシャアに、もう一度、最終回のようにララアを扶んで戦わせる映画でもあつた。また、ガンダムZZで袋小路に入つた感のあつたMSのデザインが、原点を思わせるシルエットに回帰したことも重要である。

これは、ガンダムらしきといった時に、Zガンダムのテイストは無視できないながらも、最終的に帰着くのはやはり初代ガンダムでしかないという証明にも思える。

そして、新たなガンダムサガの幕開けとなるはずだったF91。これは、初代ガンダムで描かれた青春群像と、成長譚という本筋をもう一度再現しようとした作品であつた。これは富野監督が「前のガンダム以上に懇切丁寧に入れなければならぬ」という部分を全部入れた」と語っている通りである。

また演出面でも、15m前後のMSが人間のいる空間に現れたらどのように見えるのかを、映画の前半で徹底して描いているのが印象的だ。初代ガンダムで、シエルターから出たアムロが奇襲をかけるザクの巨大さに圧倒されるシーン。そして、その巨大感を強調するようには落ちてくるザクマシンガンの葉莖。F91の冒頭から始まる奇襲シーンは、第1話で描かれたザクの延長線上に位置している。

現時点で富野ガンダムの最後の作品となつているVガンダムは、最も初代ガンダムから遠い作品であるように見えるが「子供なのに



どうして戦えてしまうのか」という視点で斬ると、初代ガンダムとの類似が見えてくる。

「守るべきものもないのに」戦っていたアムロと、親の教育と本人の能力で13歳とは思えぬ働きをするウツソ。戦争に対する積極的な動機の不在と、それによって体験することになる不幸、というモチーフがこの2作に通底しているのだ。また、Vガンダムのヒロインであるシャクティが、インド系であったララアを思わせる名前とルックスをしていることも付記しておく。

このように初代ガンダムが提示したテーマは、その後のシリーズの中に姿を変えつつもしっかりと息づいている。しかし同時に、後のシリーズ作品と比べて、初代ガンダムは明らかに一線を画した雰囲気がある。

それは、過渡期の作品であるが故だ。後のガンダムシリーズはいずれもガンダムによって定着した文法に従っている。つまり「ガンダム以降」と括られうる作品なのだ。それに対して初代ガンダムは、ガンダムの文法を確立していく過程そのものなのだ。

よく指摘されるように、初代ガンダムの中

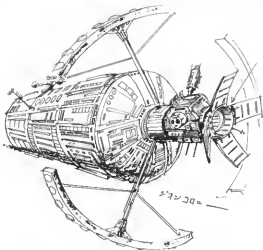
にはそれ以前のスーパーロボットの文法が色濃く残っている。ガンダムはこれを単純に排するのではなく、合理的に説明の付く物は理論づけて採用し、そうでないものは捨て去っていた。この作業の過程であればこそ、トリプル・ドムのジェットストリームアタック、サイコミュによるオールレンジアタックといった、ケレン味にあふれたネーミングを持つ名勝負が、ランバ・ラル隊との戦いのようなミリタリー色の強い戦いと違和感なく溶け込んでいたのである。

これは、ドラマ面でも同様である。例えばWBのバイロットである、アムロ、カイ、ハヤト、リュウ、セイラ。こうして5人をあげると、「超電磁ロボ コン・バトラーV」的5人組のフォーマットの名残が感じられる。だが、この5人はチームのように動かない。彼らはヒーローではなく、多数いるWBの中のクルーの一員に過ぎないからである。

「ガンダム神話」(猪俣謙次著)によると、ガンプラの発売は放送終了の半年後だったという。そして、その熱狂的人気を背景とした劇場版のヒット。この二つが、ガンダムの文法

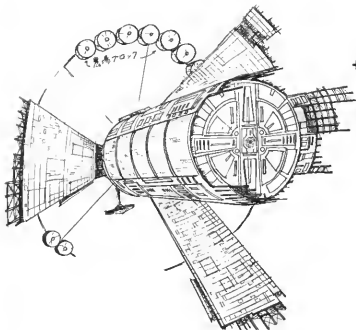


サイド3



の仕上げとなった。何故なら、作品の内容的な革新性に加え、ティーンを対象としたアニメがビジネスになるという要素が加わった時に初めて「ガンダム以降の作品」が生まれる土壌が確立したからである。

サイド7





機動戦士ガンダム スタッフリスト

STAFF

企画 日本サンライズ

総監督 富野喜幸

原作 矢立 肇 富野喜幸

音楽 渡辺岳夫 松山裕士

OP「翔べ! ガンダム」 EO「永遠にアムロ」 歌/池田 鴻

キャラクターデザイン 安彦良和

メカニカルデザイン 大河原邦男

美術設定 中村光毅

アニメーションディレクター 安彦良和

プロデューサー 関岡 渉(名古屋テレビ)

大熊伸行(創通エージェンシー)

浜江靖夫(日本サンライズ)

製作 名古屋テレビ 創通エージェンシー

日本サンライズ

動画チェック 浜津 守

土井道明

アニメーター スタジオZ 長崎重信

中村プロ 西城 明

アニメ・フレンド 青鉢芳信 ほか

背景 アートメイクワン

東郷俊寿 那須野原幸子

加藤明美

アップル

アイプロ

美術 アートメイクワン

アップル

仕上 ディーン

シャフト

特殊効果 土井道明

撮影 旭プロダクション

斎藤秋男

平田隆文

編集 鶴淵友彰

小谷地文男

現像 東京現像所

音響監督 松浦典良(オーディオ・プランニング・ユー)

効果 松田昭彦



録音 整音スタジオ

整音 日向国雄

製作進行 雲住政引

草刈忠良

望月真人

滝口雅彦

植田益朗

八木岡正美

神田 豊

深田節雄

設定制作 円井 正

アシスタントプロデューサー 神田 豊

CAST

アムロ・レイ 古谷 徹

ブライト・ノア 鈴置洋孝

セイラ・マス/キッカ・キタモト 井上 瑶

ミライ・ヤシマ/カツ・ハウイン 白石冬美

フラウ・ボウ/レツ・コファン 織岡るみ子

ハヤト・コバヤシ 鈴木清信

カイ・シデン 古川登志夫

リュウ・ホセイ 飯塚昭三

マチルダ・アジャン 戸田恵子

レビル将軍 松村康道

シャア・アズナブル 池田秀一

ラファ・スン/イセリナエツシェンバツハ 潘 恵子

デキン・ザビ 永井一郎

ギレン・ザビ 田中 崇

キシリア・ザビ 小山茉美

ドズル・ザビ 長堀芳夫

ガルマ・ザビ 森 功至

ウッディ大尉 田中秀幸

スレッガー・ロウ 玄田哲章

カムラン・ブルーム 塩沢兼人

カマリア・レイ 沢田敏子

ミハル・ラトキエ 間嶋里美

クラウレ・ハモン 中谷あゆみ

ランバ・ラル 広瀬正志

シャリア・ブル 広川太一郎



機動戦士ガンダム 放映リスト

話	放映日	サブタイトル	脚本	演出(絵コンテ)	作画監督(作画)
1	'79 4/7	ガンダム大地に立つ!!	星山博之	貞光紳也(岸谷 稔)	安彦良和
2	'79 4/14	ガンダム破壊命令	松崎健一	藤原良二(岸谷 稔)	安彦良和
3	'79 4/21	敵の補給艦を叩け!	荒木芳久	小鹿英吉(岸谷 稔)	安彦良和
4	'79 4/28	ルナツー脱出作戦	山本 優	貞光紳也	富沢和雄
5	'79 5/5	大気圏突入	星山博之	藤原良二(岸谷 稔)	青鉢芳信
6	'79 5/12	ガルマ出撃す	山本 優	小鹿英吉(山崎和男)	安彦良和
7	'79 5/18	コアファイター脱出せよ	荒木芳久	藤原良二	安彦良和
8	'79 5/26	戦場は荒野	松崎健一	貞光紳也	山崎和男
9	'79 6/2	翔べ! ガンダム	星山博之	小鹿英吉(岸谷 稔)	安彦良和
10	'79 6/9	ガルマ敵る	山本 優	藤原良二	安彦良和
11	'79 6/16	イセリナ恋、のあと	荒木芳久	貞光紳也	大泉 学
12	'79 6/23	ジオンの脅威	松崎健一	横山裕一郎(岸谷 稔)	中村一夫
13	'79 6/30	再会、母よ...	星山博之	藤原良二	安彦良和
14	'79 7/7	時間よ、止まれ	富野喜幸	貞光紳也(岸谷 稔)	山崎和男
15	'79 7/14	クルス・ドアン の島	荒木芳久	岸谷 稔(貞光紳也)	鈴木一行
16	'79 7/21	セイラ出撃	山本 優	岸谷 稔	青鉢芳信
17	'79 7/28	アムロ脱走	松崎健一	藤原良二(岸谷 稔)	安彦良和
18	'79 8/4	灼熱のアッザム・リーダー	松崎健一	貞光紳也	中村一夫
19	'79 8/11	ランバ・ラル特攻!	星山博之	行田 達(岸谷 稔)	安彦良和
20	'79 8/18	死闘!ホワイベース	山本 優	藤原良二(岸谷 稔)	富沢和雄
21	'79 8/25	激闘は憎しみ深く	荒木芳久	行田 達(岸谷 稔)	山崎和男
22	'79 9/1	マクベ 包囲網を破れ!	松崎健一	貞光紳也	安彦良和
23	'79 9/8	マチルダ救出作戦	星山博之	藤原良二	中村一夫
24	'79 9/15	追撃! トリプル・ドム	山本 優	関田 修(岸谷 稔)	安彦良和
25	'79 9/22	オデッサの激戦	荒木芳久	貞光紳也	富沢和雄
26	'79 9/29	復活のシャア	松崎健一	藤原良二(岸谷 稔)	安彦良和

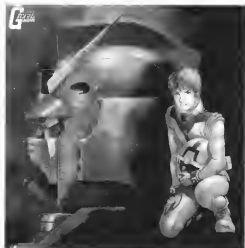


話	放映日	サブタイトル	脚本	演出(絵コンテ)	作画監督(作画)
27	'79 10/6	女スパイ潜入!	星山博之	久野 弘(斧谷 稔)	山崎和男
28	'79 10/13	大西洋血に染めて	山本 優	関田 修(斧谷 稔)	中村一夫
29	'79 10/20	ジャブローに散る!	荒木芳久	貞光紳也(斧谷 稔)	安彦良和
30	'79 10/27	小さな防衛線	山本 優	藤原良二	安彦良和
31	'79 11/3	サンジバル、追撃!	星山博之	又野 弘(斧谷 稔)	安彦良和
32	'79 11/10	強行突破作戦	松崎健一	関田 進(斧谷 稔)	富沢和雄
33	'79 11/17	コンスコン強襲	山本 優	貞光紳也(斧谷 稔)	中村一夫
34	'79 11/24	宿命の出会い	星山博之	藤原良二	(多賀かずひろ)
35	'79 12/1	ソロモン攻略戦	松崎健一	久野 弘	(伊東 誠)
36	'79 12/8	恐怖!機動ビグ・サム	松崎健一	関田 修(斧谷 稔)	(山崎和男)
37	'79 12/15	テキサスの攻防	山本 優	貞光紳也(斧谷 稔)	中村一夫
38	'79 12/22	再会、シャアとセイラ	松崎健一	藤原良二	(長崎重信)
39	'79 12/29	ニュータイプ、シャリア・ブル	山本 優	久野 弘(斧谷 稔)	(多賀かずひろ)
40	'80 1/5	エルメスのララァ	荒木芳久	関田 修(斧谷 稔)	(鈴木一行)
41	'80 1/12	光る宇宙	松崎健一	貞光紳也	(青鉢芳信)
42	'80 1/19	宇宙要塞ア・バオア・クー	星山博之	藤原良二(斧谷 稔)	中村一夫
43	'80 1/26	脱出	星山博之	関田 修(斧谷 稔)	山崎和男



機動戦士ガンダム ビデオ・LDガイド

発売・販売 パンダイビジュアル(株)
※価格はすべて税抜です。



TV版
LO-BOX Part.1
36,000円
BELL-1201
1999年12月末までの期間
限定生産
※ビデオは未発売
©創通エージェンシー・サ
ンライズ



TV版
LO-BOX Part.2
36,000円
BELL-1202
1999年12月末までの期間
限定生産
※ビデオは未発売
©創通エージェンシー・サ
ンライズ



劇場版

LD

7,573円

BELL-391

*ビデオはソニーミュ

ージックエンタテイン

メントより発売

©創通エージェンシー

・サンライズ



劇場版II 哀戦士編

LD

7,573円

BELL-392

*ビデオはソニーミュ

ージックエンタテイン

メントより発売

©創通エージェンシー

・サンライズ



劇場版III めぐりあい宇宙編

LD

7,573円

BELL-393

*ビデオはソニーミュージック

エンタテインメントより発売

©創通エージェンシー

・サンライズ

ハロがいっぱい



初代



二世



Vハロ

ハロファンの人に贈るハロ講座。ダイターンに登場予定メカとして設定されたものの使われず、そのまま新番組ガンダムに使われたハロ。

初代は、アムロが製作したベットロボットですが、かなり高性能。さすがはテム・レイの息子。

新作Zでは、7年前の連邦軍エースを記念して某玩具会社がコピーして販売した量産玩具です。歩行機能等を外した玩具ですが、付加機能が付いていました。カミーユはグラナダ拾った玩具ハロを修復し、妙に愛着を持っていました。そのままZZにも出演しています。

逆襲のシャアでは、アムロが三代目ハロをはハサウェイに渡しています。これは暖房機能付き？Vガンダムでは、Z当時の玩具ハロを骨重品として入手したウツソの父が、改造を施したという設定です。このVハロは、風船にホログラムを写すという荒業で主人公の危機を救う大活躍を演じたのです。バタバタ耳がくるくる回るように改造されたのも大きな特徴といえるでしょう。

おまけにコアファイターの後部に座って、ナビもできるのですから、ウツソの父恐るべしですね。



Vハロの特徴は凶暴な事...ではなく耳に回転機能が追加され、キーボードもタッチタイプとなっている。



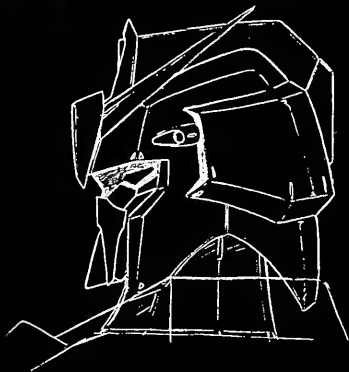
重力下で二足歩行ができるのは初代だけ

時計・ボイスコーダー・パソコン・通信機能満載で時間是小物入れにもなる優秀玩具



第2章

機動戦士Zガンダム



1985

Z

MOBILE SUIT Z GUNDAM

作品紹介

MOBILE SUIT Z GUNDAM

初代ガンダムから6年後に製作された正統な続編。富野監督のフィルムグラフィードという「重戦機エルガイム」の後番組にあたる。新たな主人公カミーユ・ビダンと、クワトロ・バジーナを名乗るシャア・アズナブルを軸に、地球連邦の内紛を描いた。番組スタートにあたって監督が発表した文章に「サブアタックタイトルは『逆襲のシャア』である。同時にこれがこの物語のテーマである」と書かれていたことが印象深い。

初代の放送に間に合わなかったガンブラ世代にとっては最初の「ガンダム」であることもあり、近年再評価の声も高い。

舞台設定

1年戦争が終結し、ほぼ8年の年月が流れたU.C.0087年が舞台。

戦後の再建が進む中、地球に住む人々は再び宇宙を顧みることなく、また地球の汚染も進行していた。そんな現状に反対するスペースノイドはエウロギを組織し、一方、連邦軍内には、ジオンの残党狩りなどを行う精鋭部



隊「ティターンズ」が組織されていた。

この二組織の衝突に絡んで、ジオンの再興をもくろむハマーン・カーン率いるジオン残党と、個人的野望を達成せんとするジュビトリスのパプティマス・シロッコが戦闘と政治的駆け引きを繰り広げる。一部隊が転戦していくスタイルの旧作と違い、全体像が捉えにくい内紛をその中心から描いた作品である。

人工的にニュータイプ有能力を持たされた強化人間という設定が加わったほか、さまざまな変形MS、MAも多数登場した。

物語

かつてサイド7と呼ばれたコロニー「グリーン・ノア」。グリーン・ノア1に住む高校生のカミーユ・ビガンは、港で出会ったティターンズの兵士と喧嘩になり、エウーゴとの関係を疑われて軍本部で取り調べをうける。

その頃、クワトロ・バジーナと名前を変えエウーゴに参加していたシャアはグリーン・ノア2に潜入し、ティターンズがガンダムMk-IIのテスト中なのを知る。やがてMk-II

IIをめぐる戦闘がグリーン・ノア1で始まり、カミーユはその混乱の中、Mk-IIを奪い、そのままエウーゴへと身を投じる。

エウーゴの巡洋艦アーガマに乗り込んだカミーユは、ティターンズの追撃の中、人質にとられた彼の母の死と、戦闘に巻き込まれた父の死を目撃する。また、そんなティターンズの戦いぶりに疑問を持った、エマ中尉は脱走しエウーゴに参加するのだった。

エウーゴは、その活動を広くアピールするためジャブロー侵攻作戦を発動させる。だが、エウーゴのモビルスーツが降下した時、既に連邦は撤退しており、ジャブローはもぬけの殻であった。自爆用の核爆発で壊滅するジャブローを辛くも脱出したエウーゴのメンバーは、かつてのガンダムのパイロット、アムロとも合流し、ガルタ型大型輸送機アウドムラで移動しつつ宇宙へ帰還する方法を探っていた。そんな中、立ち寄った香港でカミーユはフォウ・ムラサメと運命の出会いをする。

フォウはムラサメ研究所の強化人間だった。彼女は奪われた記憶を返してもらうために、サイコガンダムのパイロットとして戦っていた。



た。つかの間のふれあいと、それを引き裂く戦闘。アウドムラを追撃した彼女は、自軍のブースターを使ってカミーユを宇宙へ返そうとする。裏切りを咎められ、撃たれたフォウを心配しながらも、カミーユは宇宙へと帰還する。そんなカミーユを宇宙で待っていたのは、彼が基本部分を設計した新型モビルスーツ、Zガンダムだった。

一方、ティターンズは連邦議会を動かし、連邦軍全体のティターンズ化を進行させていた。また、エウーゴの拠点と思われる月都市やサイド2などを、コロニー落とし、毒ガスといった民間人の大量殺傷をいとわぬ手段で陥落させようとする作戦も行った。そんな中、エウーゴの指導者ブレックス准将がティターンズに暗殺された。彼は、いまわの際にシャアにエウーゴの指導者になれと言に残す。

地球圏の混乱の中、ハマーン率いるジオンの残党の拠点アクシズがアステロイドベルトから地球圏へと入ってくる。アーガマはアクシズとの接触を試みるが、結局アクシズと手を結んだのは、木星帰りの男、バブティマス・シロッコだった。

シロッコは圧倒的なカリスマの持ち主であった。彼の超巨大輸送船ジュビトリスに潜入したエウーゴのメンバー、レコアは後にエウーゴを裏切り、ティターンズとなりシロッコの下へと赴く。

エウーゴは、地球上での反連邦組織カラバとともにキリマンジャロのティターンズ基地を攻撃する。そこでカミーユは、彼を見ても誰か分からないほど強化されたフォウと再会する。一瞬、意識を取り戻したりもした彼女だが、戦闘のさなかにカミーユの盾となって散ったのだった。アムロとシャアはこの悲劇に、運命の繰り返しを味わう。

エウーゴは、タカールにある地球連邦議会を占拠する。そこで、シャアはジオンの子であることを明かし、ティターンズの専横と地球にしがみついていることの愚を訴える。ティターンズの指導者であるジャミトフは、この演説を機に地球を去り、ゼダンの門（旧ア・バオア・クー）に移る。

ティターンズはこのころ宇宙での戦闘の切り札となる、コロニーレーザーを完成させていた。このレーザーはティターンズのコロニ

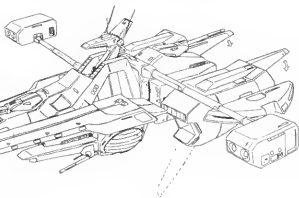


1、グリップス2を改造したものだっただ。

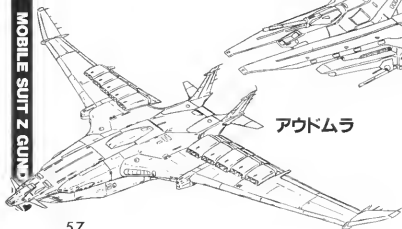
この脅威に対して、エウーゴはアクシズと再度接触、ジオンの再興を条件にグリップス2の破壊に協力を要請する。ハマーンに頭を下げるシャア。これにより、グリップス2の足をとめることに成功する。この一方で、ジャミトフと会談したハマーンは、ティターンズ側にジオン再興の意図がないことを見て取り、交渉は決裂。アクシズ軍は、アクシズそのものを質量弾としてゼダンの門にぶつける作戦を実行し、ティターンズは宇宙における拠点を失うことになる。

この頃、カミーユはティターンズの作戦で、カミーユを兄だと思い込まされた強化人間、ロザミアと出会う。だが、カミーユは彼女をどうすることもできなかった。サイコガンダム Mk-II に乗り混乱する彼女を前にして、フォウの「助けてあげて」という声を聞いたカミーユはコクピットを撃ち抜くのだった。戦闘は混迷を極めていた。シロッコは、ジャミトフを暗殺し、ティターンズの実権を掌握する。エウーゴは、アクシズ軍の手に落ちたグリップス2を手に入れようとし、それに成功

アーガマ



アウドムラ





時代背景

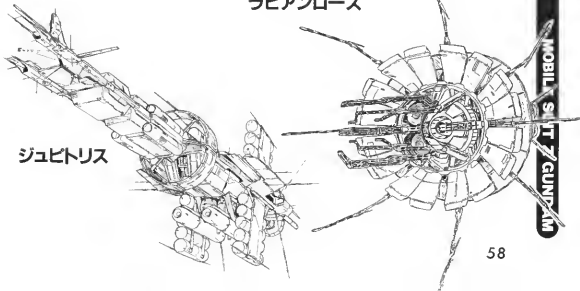
する。こうして、最後の決戦への布陣は整ったのだった。

グリプス2周辺に展開するエウーゴ艦隊に、ティターンズとアクシズ軍が攻撃をしかけ三つどもえの戦闘となった。エマはレコアと刺し違え、カミーユに「Zガンダムは人の意思を力にできる」と語り息をひきとる。

エウーゴはコロニーレーザーを発射し、ティターンズ艦隊に大きな損害を与える。ハマーンは、戦況を不利とみてアクシズを後退させる。シャアはハマーンとの戦闘の中で行方不明となるのだった。カミーユは、これまで死んでいった人々の力を借りて、ジ・オに乗ったシロツコを撃つ。だがその瞬間、カミーユ自身も崩壊してしまう。そんな彼を、幼なじみでパイロットのフアは静かにアーガマに導くのだった。

「Zガンダム」OA時にはほかにどんなロボットアニメがあったかというと、「超獣機神ダンクーガ」「忍者戦士飛影」、またサンライズ

ラビアンローズ



ジュビトリス

ガンダム・コクピットの変遷

ガンダムのコクピットは、コアファイターの操縦席を利用してしたが、コアブロックシステムを廃したMK-IIは、全周囲モニターとリアシートを採用することになった。

全周囲モニターは複数のカメラで捉えたMS周囲の映像をCG化し、シートを取り囲むモニターに表示する。またリアシートは、一本のアームで支えられ電磁石などのはたらきで通常のシートよりも衝撃を吸収するようになっている。また、

作品なら「青き流星SPトレイズナー」などである。また、ロボットは登場しないが、可愛い上器手司キアラが前面に出たSFアニメ「ダーティペア」もこの年である。いずれもティーンエイジャーのアニメファンを意識した作品で、「初代ガンダム」が結果的に切り開いた市場をさらに開拓しようとするものであった。

その一方で変形ロボ・オンパレードの「戦え！超ロボット生命体 トランスフォーマー」もOAされており、このあたりはある種のバランスが働いているようにも思える。

この年はほかに、「魔法のスター マジカルエミ」もOAされており、この作品を含むスタジオリエールの魔法少女路線は、前後数年にわたって人気を集めた。

世相に目を転じると、「ドラゴンクエスト」がこの年に発売されている。アニメーションの歴史と並べると、ゲームがいかに急激にエンターテインメントとして洗練され、現在に至ったかがよくわかる。

このほか電電公社の民営化(NTTの発足)男女雇用機会均等法の成立、ニュースステーションの放送開始などが話題になった。

このコクピットブロックはほぼ球形で、脱出ボッドも兼ねている。Zガンダム以降、このコクピットのスタイルが基本になる。なお、Vガンダムは小型の上、コアブロックシステムを採用したので、全周囲モニターは採用されていない。

Vガンダムでは、操縦桿に工夫がこらされ、スティック形式ではなく、手のひらの部分で握って使うための形状をしている。また、同機にはエアバッグも装備されている。

主要キャラクター

主人公

カミーユ・ビダン

Zガンダムのパイロット。従軍した精神の赴くままにMSに搭乗、エゥーゴに参加する事となる。無意味な戦いの最中、強化人間であるフォウと出会い、初めて互いに認め理解しあえる存在を知る。そして彼女との死別で人の哀しさを知ったカミーユは、ニュータイプ能力を正しい方向へと開花させようとしていた。だがシロッコとの決戦で精神を崩壊させられ、心を閉ざすのだった



ハロ



親子関係

母 ヒルダ・ビダン



父 フランクリン・ビダン

愛人にうつづをめぐす父と、仕事人間の母。だが、カミーユを養育させたのはそうした家庭環境以上に、その名前であった。女の名前を付けられたと思っているカミーユはそれを嫌い、反動で「男の証明」を手に入れようと空手などに熱中した。

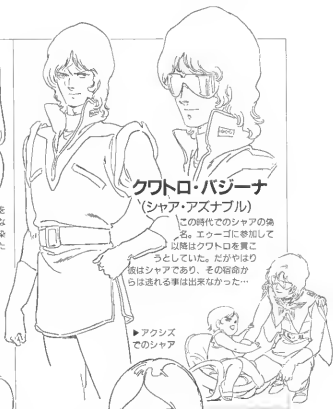
一方、フォウ・ムラサメは、強化人間を研究していたムラサメ研究所の4番目という意味。両親を失った彼女に与えられたかりそめの名前という設定が、彼女のアイデンティティの不安定さをそのまま現している。

望まぬ名をつけられた自分を好きになれるかどうか？ Zガンダムが描いた親子の間にはこの名前による自己承認というテーマが横たわっているのだ。



ファ・ユイリイ

カミーユを恋する女性。姉さん女房を気取るがカミーユにその想いは届かなかった。だが彼女は自身の手を血に染めながらも彼の為に生き抜くのだった



クワトロ・バジーナ (シャア・アズナブル)

この時代でのシャアの偽名。エウゴに参加して以降はクワトロを買こうとしていた。だがやはり彼はシャアであり、その宿命からは逃れる事は出来なかった...

▶アクシズでのシャア



レコア・ランド

元エウゴの活動家。女性として生きる余りシロッコの下に走る。エマとは対照的な人物である



エマ・シーン

元ティターンズの士官。ティターンズのやり方に反発してエウゴに参画。女性としての優しさに目覚めていく



アストナージ・メドソン

アイガマのメカニックマン。開も良き柔軟な思考の持ち主でもある

ブレックス・フォーラ

エウゴの創始者。シャアの良き理解者でもあった



ヘンケン・バックナー

ラーディッシュ艦長。エマを守るため壮絶な死を遂げる

エウゴの出資者。海軍提督は修正パンチ。アナハイム会長のバシリでもあった

ウォン



フラウ・コバヤシ ハヤト・コバヤシ



一年戦争後、結婚し辛
せを手にした彼の彼ら。
だが時代は、彼らを再
び戦火の中へと誘うの
であった…



ベルトーチカ・イルマ

勝ち気であるが、戦う意義を知る
女性。アムロに心引かれ、彼の復
活の手助けとなる。アムロが失っ
たものを持ち合わせている、強い
女性であった

カツ・レツ・キッカ

つねに3人組であった彼らは、
初めて別行動をする事となる。それを間違いだと
断言できる人間は一人もいない。だが、不幸であ
った事は事実であった…



アムロ・レイ



一年戦争の英雄。ララァを失っ
たショックが忘れられず、戦う
気力を失っていた。だがベルト
ーチカやカツの行動、そしてシ
ャアが存在が再び彼を戦士と
して目覚めさせるのだった



ミライ・ノア

ブライトの妻。
その優しさはホワ
イトベース時代と
同じく、大きく暖
かいものであった

カイ・シデン

ブライト・ノア

セイラ・マス

シァアとの結婚を捨て切
れないカイ。それもある
辛い事でもある。



シァアとい
う人間を最もよく知るセイラ。
彼女はまた彼れとい
ふのだろうか…



信念を貫
く事が最も
難しい時、
正しい道を選ん
だブライト。や
はり時代は彼らを
まだ必要としていた

敵

敵が見えにくい作品だ。それは現実認知の物語であれば当然の帰結であった。複数の思惑が交錯し、合従連衡と裏切りが錯綜する。主人公側のエウゴですら企業のひとつであるという構図は、まさに現実の縮図である。この作品ではっきりと語られているのは、「軍力に魂をひかれていく」ことであり、このテーマは以降のガンダムで重要な要素となる。だが、その代表である連邦の高官が本作で敵として描かれることはなかった。Zにおける敵とは、それ以上に、ジオンの亡霊に縛られているハマーンであり、戦争をおもちゃにするシロッコであった。



カクリコン・カクーラ

ジェリドの同僚。ジェリドとは気が合うらしくつねに行動を共にしていた



ティターンズの前線指揮官。過去にジオンから受けた拷問が元で視力を失う。その恨みが戦いへの原動力であった



バスク・オム

ライラ・ミラ・ライラ

スペースノイドでありながら、ティターンズに参加した連邦士官。ジェリドに宇宙で生きる意義を教えるも、カミーユとの戦いに敗れ戦死した



ジェリド・メサ

ティターンズのMSパイロット。プライドが高く、連邦一般を見下していた。ある意味カミーユをライバルとして見る事も嫌悪していたと思われる。だが彼はカミーユを倒す事は最後まで出来なかった



ジャミトフ・ハイマン

ティターンズの総帥。国民怨望の持ち主で、ギレンのそれと程度は変わらない。ある事件を利用してティターンズを設立、連邦を我が物にしようと画策。だがその野望もエウゴの前に潰えた



ロザミア・バダム

Zの中で最も不幸な強化人間。人格と記憶を操作され、恐怖を増幅し、カミーユと戦わざるをえなかった哀しい女性。カミーユもまた、彼女を殺す事しかできなかった



フォウ・ムラサメ



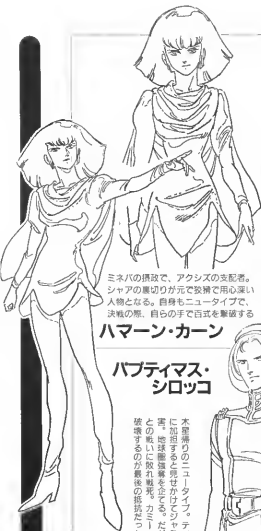
ティターンズの強化人間。カミーユとの出会いで初めて自身の存在理由を知り、真のニュータイプとして目覚める。だが時代はラファの時と同じ道を繰り返すだけであつた



ジェリドにとって最も大切な女性。彼を導き守る為に戦い続けて来た。そしてジェリドを庇いカミーユに殺される。この瞬間、ジェリドの戦う意義は全てカミーユ打倒の為に正当化されるのだった

マウアー・ファラオ





ミネバの誘致で、アクシズの支配者。シャアの黒切りが元で狡猾で用心深い人物となる。自身もニュータイプで、決戦の際、自らの手で百式を撃破する

ハマーン・カーン

バブティマス・シロク

木星陣りのニュータイプ。ティターンズに加担すると見せかけてシャミットを救済。地球圏覇権を企てる。だがカミーユとの戦いに敗れ戦死。カミーユの精神を破壊するのが最後の抵抗だった



ミネバ・ザビ

ドズル中尉の忘れ形見。アクシズの象徴であるが、ハマーンの機嫌どしかなかった

サラ・ザビアロフ

シロクとカツとの間に挟まれた哀しき女性。感情の赴くままに生きた為に最後まで苦しむ事となる



ヤザン・ゲーブル

戦う為に生き、戦いの中でしか快楽を味わえなかった男。とりあえず最終決戦では生き残る事ができたが...



メラニー・ヒューカーバイン



アナハイムの会長。戦争特需を狙ってエウロギーとティターンズにMSを供給する。この騒ぎの元凶の一人でもある

主要MSとメカ

ZガンダムMSZ-006

カミーユの基礎設計を元にアナハイムが製造した可変重MS。参考にしたガンダムMk-Ⅱとリックディアスの特徴を生かし重火器で武装された破壊力のあるMSである。複雑な変形を瞬時にに行いウェーブライダーという飛行形態にチェンジできるのが一番の特徴だろう

ハイパーメガランチャーを
装備すれば戦艦ですら一撃
で破壊可能となる

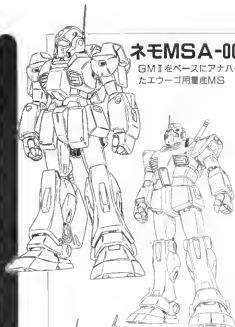
ウェーブライダーは大型
機突入時でもある程度の
自由度があり、地球上で
の機動力はMAを凌ぐ

RX-78の後継機としてティターンズ
により開発されたRX-178。
試作品の3機を最終的にエゥーゴが奪
い、塗装を白に直して使用する。完成
度の高い機体であり、Z登場後もオプ
ションパーツを駆使して続編ZΖでも
活躍を続ける。Gティファイナーと合
体後はスーパーガンダムとなる

ガンダムMk-Ⅱ

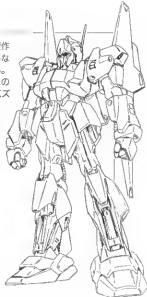
ネモMSA-003

GMⅡをベースにアナハイムが製造したエウゴ用量産MS



アナハイムがネモと同時期に製作した試作MS。全身金色の派手な機体で、クワトロが乗機にする。初期には専用武器がなく、ネモの武装を共用するが後半はメガバズーカランチャが配備された

百式MSN-100



GMⅡ

当初は地球連邦軍の標準MSとして登場。連邦内部の紛争なので、塗装のみ変える



リック・ディアス RMS-099

エウゴが対ティターンズ戦用に開発したMS。旧ジオン技術者がガンダムとリックドムの長所を合わせて製作。ガンダムの名前が付くはずだったがシャアが改名

ティジェ MSK-008

リックディアスを原型にカラバが作り上げたMS。アムロの専用機として活躍する



メタス MSA-005

エウゴが独自に開発した可変MS。接近戦に不具合があり、Zでは改修された。Zが開発できたのはメタスのデータがあったから

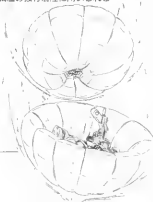


大気圏突入

初代ガンダムで唯一大気圏突入が可能だったMSはガンダムである。腰のハッチに収納された耐熱フィルムとガンダムの冷却システムを併用した。劇場版では、より進化した耐熱フィルムを使用している。

ZガンダムのMSは基本的にバリュートを使用する。これはNASAが研究していた大気圏突入方法の進化形態で、耐熱繊維でできたお椀状のバラシユートでMSを覆い、さらにエアを放出して大気圏での摩擦熱を遮断するものだ。また、ガンダムMK-Ⅰはフライイングアーミーを利用し、大気圏内を滑空することで自機の発熱を防いでいた。なおZガンダムになると、ウエーフライダーに変形して大気圏突入をする。航空機形状であるからシヤトル程度の断熱性能があれば可能なのだ。

バリュート・システム 大気圏突入のコストパフォーマンスを考えて、連邦軍が実戦配備したサポートシステム。MSの大気圏降下作戦や、戦艦の強行襲撃に用いられる



変形機構

Zガンダムに登場するMS、MAの最大の特徴は変形機構を搭載した機種が多数登場したことだろう。Zガンダムが変形するというのは登場前からアナウンスされていたが、登場話数でいうと、シロッコが開発したメッサーラがまず変形メカの露払いをし、ギャブラン、サイコガンダムと次第に変形メカが増えていくプロセスを踏むことで、21話のZガンダムの登場をスムーズに演出した。

また、ガンダムMK-IIがオーソドックスなデザインであったのに対し、シャープなZガンダムが登場したために、ガンダムのデザインの許容範囲が大きく広がった。これが、後の作品に与えた影響は大きい。

Zガンダムからウェーブライダーへの変形プロセス。演出としてゆっくり見せる場合もあるが、実際には瞬時である

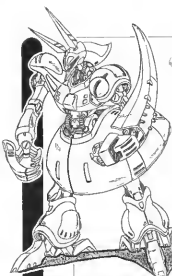
ティターンズの変形MA。大気圏内で飛行できるようになった最初の機体。飛行状態でもビーム攻撃ができる

アッシーマー NRX-044 メッサーラPMX-000

ギャブランORX-005

可変MAで飛行形態の機動力もある。肩のバンダーの制動で急転回ができるが強化人間でないと耐えられない

シロッコが設計した可変MA。木星からの航海中に開発されたので、高重力を振り切るだけの推力があり、地球圏では高速活動が可能だった



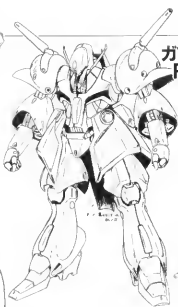
バウトドッグ NRX-055

バスクの強化人間部隊用に開発された可変MA。強化人間でなければ耐えられない機動力がある



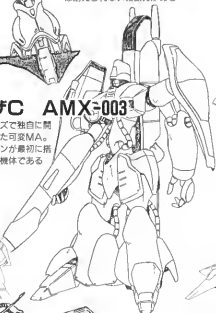
ガブスレイ RX-110

シロムシが設計した可変MS。その機構から腕のフレームが武器として使えるクローになる



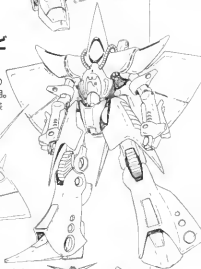
ガザC AMX-003

アクシズで独自に開発された可変MA。ハマーンが最初に開発した機体である



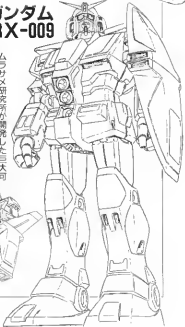
ハンブラビ RX-139

可変MS。新世代のMSでヤザンが使用。数々の特殊武器を装備する



サイコガンダム MRX-009

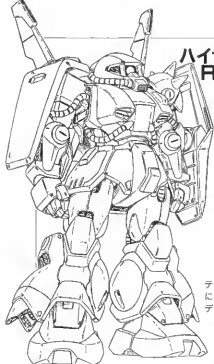
ムラサメ研究所が開発した巨大可変MA。形こそガンダムであるが全長は40メートルにもなる。MA状態でメガ粒子砲を発射する



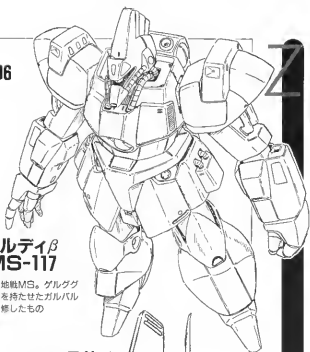
サイコガンダム Mk-II MRX-010

地球圏最強兵器の巨大MA。グラナダ決戦では全ての機能を使わないうちに敗れる。その残骸とデータはハマーンの手に入る





**ハイザック
RMS-106**



**ガルバルティβ
RMS-117**

ティターンズの局地戦MS。グルググにギャンの攻撃力を持たせたガルバルティを連邦軍が改修したもの

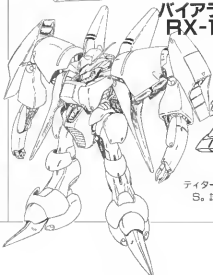
ジオンのザク後期タイプを終戦後に連邦が改修し量産したものの。地球連邦がGMの次に量産したMSである

ハイザックカスタム
RMS-106C
サイド2に潜み、エウーゴを攻撃したことから聞かれハイザックと呼ばれた



**アナハイム・
エレクトロエクス**

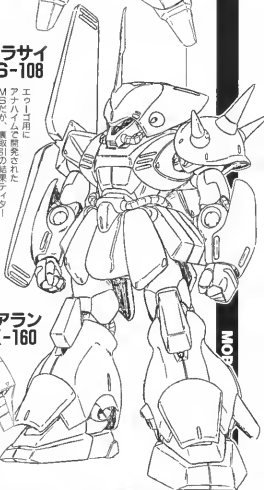
月面のグラナダなどに工場を持つ巨大複合企業で、エウーゴの出資者の一つ。多くのMSを開発し、それをエウーゴ、ティターンズの双方に供給した。この技術力がなければ、カンブリア爆発的MSの進化はなかった。



**バイアラン
RX-160**

ティターンズがギリマンジャロで建造した飛行MS。試作機はシロッコがフォウを討つのに使用

エウーゴ用
アナハイムで開発されたMSだが、裏取引の結果ティターンズに引き渡された量産MS



**マラサイ
RMS-108**

ポリノーク・サマーン
PMX-002

バーザム
RMS-154

連邦軍がコスト面から量産を決定した集団戦闘用MS。製造も簡単で、武器も共用で

キュベレイAMX-004

アクシズのニュータイプ専用MS。エルメスの後継機という発想で、ファンネルを発射して敵を攻撃する

バラス・アテネ
PMX-001

ジュピトリスで製作された2番目の重攻撃MS。番組後半での活躍する

シロッコが自分専用の重MSとして設計開発した最強のメカ。その機動性と火力により巨体となったが、格闘戦にも優れる

ジ・オ
PMX-003

MSV

ガンダム放映後に展開されたガンダムのMSバリエーションだ。本編フィルムに登場したことで、実在のメカとして認知された。

◀グフ飛行試験型

▶ザク・強行偵察タイプ

◀ザクタンク

▼ガンキヤノン重装型

◀マリンハイザック

▶ザクタンク

◀ザクキヤノン

ノーマルスーツの変遷

モビルスーツに対して通常の宇宙服をノーマルスーツと呼称する。一年戦争当時でも一般兵士の重装ノーマルスーツと、パイロット用の軽装ノーマルスーツがあった。重装は、我々が想像する宇宙服の発展形で、艦船が破損した場合の生存率を確保するために外装は堅く、生命維持時間も長い。軽装は、パイロットスーツというよりもロボットの定番であるバトルスーツに近い。今回の主題は、MSパイロットが着用するノーマルスーツである。一年戦争当時の物は、かなりSF的であり、スーツの中に酸素供給システムが内蔵されていた。それでいて丸一日の行動は平気で行えたのだから、まさに宇宙世紀の産物である。

7年後のZガンダムではこのノーマルスーツが激変した。生命維持装置の詰まったバックパックを背負うようになったのである。バックパックを背負う事により、コクピットシートにその窪みが作られ、身体のホールド性能はシートベルトだけよりも格段に良くなっている。またヘルメット内部のショック吸収パッドが明瞭に描かれるようになり、対衝撃性能をビジュアル化している。バック上部にはヘルメットのストラ

▶連邦の重装ノーマルスーツ



◀連邦の軽装ノーマルスーツ



▲ジオン軍重装ノーマルスーツ

◀ジオン軍軽装ノーマルスーツ



◀高軍のランドムーバーの違い



▲連邦軍ノーマルスーツ(Z)



◀ヘルメットの固定方法



ツプがあり艦内、または非戦闘時にはヘルメットを固定しておく。ランドムーバーもバーニアだけとなり、これも機外に出る時にバック背面にワントッチで取り付けられるのだ。戦闘機のパイロットと同じように、拳銃ホルスターも腰ではなく脚に取り付けられている。以後のノーマルスーツは、Z時代のバリエーションであると言える完成度の高さであった。Z時代では、連邦軍内部の戦いなので両軍に基本的な差はなかったが、ZZではネオ・ジオンがいかにもというノーマルスーツ姿で登場している。

F91になると、ノーマルスーツの形態が再び変化する。全身にチューブが張り巡らされ、エアコンディショナー機能が追加されるのだ。ヘルメットもバイザーのオープンだけでなく、頭部まで解放できる特殊な形状となり、待機時の解放感が考慮されている。なぜか拳銃は腰に戻っている。

Vガンダムでは、余計な装飾が廃され、シンプルになる。科学技術が進歩すると、MSもノーマルスーツも単純な外見ながら高性能になるようだ。ヘルメットはバック下固定に変更され、拳銃ホルスターは脚に戻った。

▶ティターンズのノーマルスーツ

▼連邦軍ノーマルスーツ (ZZ)

▶ジオン残党ノーマルスーツ (ZZ)

▶ネオ・ジオンノーマルスーツ

◀連邦ノーマルスーツ

◀連邦軍バトルスーツ (F91)

◀パイロットスーツ (Vガンダム)

▲C・Vバトルスーツ (F91)



Z

MOBILE SUIT Z GUNDAM

機動戦士Zガンダム

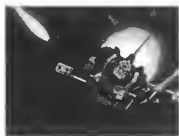
総括



Zガンダムを製作することになった時、富野監督は「今後もガンダムを作り続けることになる」と予感したという。そしてその後、その予想通りにガンダムの世界が（富野監督の手を離れてまで）増殖していくことになったのは周知の通りだ。逆に言うと、Zガンダムがなければビジネスも含めて、ガンダムの世界がこれほど広がることはなかったのだ。そういう意味で、Zガンダムがガンダムを新たなステップに押し上げた作品であることは間違いない。

それは、ZガンダムOVA時には、違和感を持たれたものの、後に定番となった「手法」が多いことからわかる。

いくつか例を挙げる。ニュータイプ表現で登場する、映画「幻魔大戦」を思わせるオーラの描写（もともと、初代ガンダムでアムロがドズルの背後に見る悪魔の影が、原点という見方もできるが）。これは、逆襲のシャアで、サイコフレームが光を振りまきながら宇宙を舞うシーンの光の演出へとつながっている。また、死者が主人公にオーバーラップし、力を与えてくれるという演出も、本作以



降定番になり、Vガンダムにも登場する。

また、ささいな例だが、このZガンダム以降、ガンダムの「ツノ」は、4本が定番になるし、MSの足のソールは2分割されているのが当たり前になった。

こうして振り返ってみると、初代ガンダムの世界観の上に、新たな表現を加えたZガンダムは、新たなスタンダードとなってシリーズの中に位置していることがよくわかる。パート2というと前作の縮小再生産に陥る作品が多いなか、Zガンダムのこうしたアプローチは非常に挑戦的なもので、それがガンダム・ブランドに強力なカンフル剤としてはたらいたことは間違いない。

では、Zガンダムはどんな作品だったのか。Zガンダムの本質というのはほとんど、企画発表時に富野監督が発表した「ニューガンダム? ニュータイプ? ニューシリーズ?」という文章で言い尽くされている。

その文章はまず冒頭に「言い訳はやめる」と書かれており、企画決定までの監督の遠慮が感じられる。

つづけて「自己改革の必要に迫られている

のに、旧体を維持するための老人支配が横行しようとしているのは、時代にとって危険である」「(都市生活者の退廃に向かう精神構造が問題だから) 田園に生きよといっても、その田園はすでに過去になりつつある時代に我々は直面しているのである」などと、現代日本の直面する問題について述べた後に「面白いかどうかではない。時代はこうなのだという物語を手に入れたのだ」と、Zガンダムの狙いを語っている。Zガンダムは「現実認知の物語」だったと富野監督自らが語っているが、それは、この文章に見るとおり企画段階から明確に盛り込まれていた。

では、富野監督の語る現実認知とは、どういうことだったのか。

例えば、エウーゴのシャブロー降下作戦は、スポンサーであるアナハイム・エレクトロニクスの意向が大きく左右している。シャアはあくまでこの作戦に反対だったが、戦争を左右するのは理念だけでない。戦争はいわば巨大な商活動の一環であり、そこではエウーゴの語る反連邦の理念も、商品を売るためのキヤッチコピーと同等に並んでしまう。Zガン



ダム的主人公達が生きている世界も、ブラウ管のこちら側の世界と同様に混沌として、簡単に「答」が見いだせない世界なのだ。

もちろん、作戦に反対するシャアに、ガンダムの続編の製作を依頼され、商業主義に直面した富野監督の姿をだぶらせることも可能だろう。

また、前作のようにジオンという明確な敵がおらず、ティターンズ、アクシズそれにシロッコという複数の利害が絡み合う勢力図もまた、現実世界の混沌の反映だろう。後に、東西冷戦が終焉を迎え、世界各地の紛争がかつての米ソ代理戦争の構図で単純に割り切れなくなるが、そうした混沌の構図をZガンダムは先取りしていたともいえる。

そんな混沌とした世界において、ニュータイプ能力というのは、その現実を超えて本質を把握できる力として描かれてきた。ニュータイプは、ガンダムがリアルな作品世界を描きながらも、エンターテインメントとして結実するために必要な、いわば機械仕掛けの神として存在していたのだ。初代ガンダムのラストシーンが感動的なのはまさにその証なの

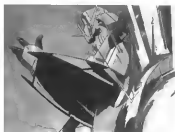
だが、Zガンダムは「現実認知」を核に据えているためその作劇をとらなかつた。

これこそが富野監督が書いた「面白いかどうかではない」ということだ。

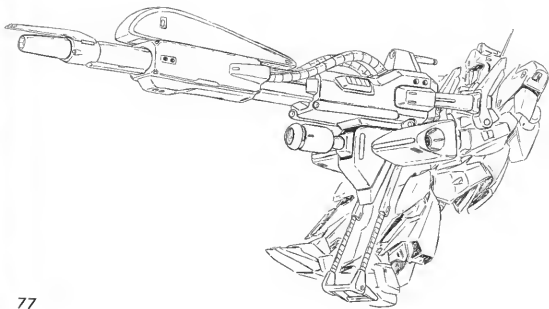
確かにカミーユは、ハマーンを「生きてはいけない人」と悟り、シロッコを「ここからいなくねれ」と拒絶する。それは、混乱に乘じて自らのエゴを満足させようとする2人の心を感じた彼のニュータイプ能力の発露だ。だが彼は、アムロのように多くの人を救うこともなく、結局それ以上のことはできなかった。このカタルシスの欠如こそがほかのガンダムシリーズには見られないZガンダムの最大の特徴であろう。

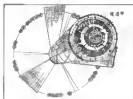
美術評論家の榎本野衣氏は著作「日本・現代・美術」のなかで語る。「つぎのようにいいたい。ニヒリズムは克服されるのではなく、突き詰められなければならない、と。なぜならニヒリズムの克服とは「いまここ」から超越することではなく、われわれは「いまここ」にいるということに関わるからである」

これにならって言うなら、ニュータイプという超越を封じ、いまここ＝現実認知にこだ



わったZガンダムは、まさにニヒリズムを突き詰めた作品であつたといえるだろう。そして、世界を救おうとしたカミーユ同様、作品もそのニヒリズムの重みに押しつぶされていくのもまた事実なのである。





機動戦士Zガンダム スタッフリスト

STAFF

企画 日本サンライズ

総監督 富野由悠季

原案 矢立 肇

原作 富野由悠季

音楽 三枝成章

OP「Z・刻をこえて」 歌/鮎川麻弥

ED「星空の日Believe」 歌/鮎川麻弥

新OP「水の星へ愛をこめて」 歌/森口博子

キャラクターデザイン 安彦良和

メカニカルデザイン 大河原邦男

藤田一己

デザイン/ワークス 永野 護

プロデューサー 森山 涇(名古屋テレビ)

大西邦明(創造エージェンシー)

内田健二(サンライズ)

製作 名古屋テレビ

創造エージェンシー

日本サンライズ

メカニカル作監 内田順久

動画チェック 江山梨恵 吉沢亮吉

OP・EDアニメーター 梅津泰臣

寺沢伸介

アニメーター 上野 堅 高橋久美子

大上浩明 寺沢伸介

大貫健一 仲 盛文 ほか

背景 スタジオ・イースター

アトリエ・ラスコー

特殊効果 千場 豊

美術 東 潤一

色彩設定 高島清子

色指定 清田みどり 上保睦子

峰崎裕子

撮影 旭プロダクション

古林一太

奥井 敦

酒井幸徳

撮影監督 斎藤秋男



編集 布施由美子(井上編集室)

現像 東京現像所

音響監督 藤野貞義

音響制作 千田啓子

効果 横山正和

録音 ニュージャパンスタジオ

調整 依田章良

制作デスク 高森宏治

吉村信明

高松信司

制作助手 原田泰々

仕上処理 前林文恵

タイトル マキ・プロダクション

安倉光弘

設定ベース 永瀬 唯

デザイン協力 伸児舎

CAST

カミーユ・ビダン 飛田展男

シャア・アズナブル 池田秀一

ファ・ユイリイ 松岡みゆき

ブライト・ノア 鈴置洋孝

エマ・シーン 岡本麻弥

アムロ・レイ 古谷 徹

カツ・コバヤシ 難波圭一

ヘンケン・ベッケナー 小杉十郎太

バスク・オム 郷里大輔

バプティマス・シロツコ 島田 敏

フォウ・ムラサメ 皇澤涼子

ジェリド・メサ 井上和彦

レコア・ロンド 勝生真沙子

ベルトーチカ・イルマ 川村万梨阿

ハマーン・カーン 榎原良子

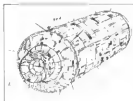
ミネバ・ザビ 伊藤美紀

ジャミトフ・ハイマン 池田勝、後に西村知道



機動戦士Zガンダム 放映リスト

話	放映日	サブタイトル	脚本	演出	ストーリーボード	作画監督
1	'85 3/2	黒いガンダム	大野木寛 斧谷 稔	今川泰宏	今川泰宏	北爪宏幸
2	'85 3/9	旗立ち	鈴木裕美子 斧谷 稔	関田 修	滝沢敏文	小林利充
3	'85 3/16	カプセルの中	川崎知子 斧谷 稔	横山広行	横山広行	兵頭 敬
4	'85 3/23	エマの脱走	丸尾みほ 斧谷 稔	川瀬敏文	川瀬敏文	山田きさらか
5	'85 3/30	父と子と...	大野木寛 斧谷 稔	杉島邦久	杉島邦久	金山明博
6	'85 4/6	地球圏へ	鈴木裕美子 斧谷 稔	関田 修	井内秀治	北爪宏幸
7	'85 4/13	サイド1の脱出	丸尾みほ 斧谷 稔	横山広行	知吹愛弓	小林利充
8	'85 4/20	月の裏側	大野木寛 斧谷 稔	川瀬敏文	川瀬敏文	兵頭 敬
9	'85 4/27	新しい絆	丸尾みほ 斧谷 稔	杉山邦久	杉山邦久	山田きさらか
10	'85 5/4	再会	大野木寛 斧谷 稔	関田 修	今川泰宏	金山明博
11	'85 5/11	大気圏突入	鈴木裕美子 斧谷 稔	横山広行	網野哲郎	北爪宏幸
12	'85 5/25	ジャブローの風	平野靖士 斧谷 稔	瀬川敏文	知吹愛弓 斧谷 稔	小林利充
13	'85 6/1	シャトル発進	大野木寛 斧谷 稔	杉島邦久	杉島邦久 斧谷 稔	山田きさらか
14	'85 6/8	アムロ再び	鈴木裕美子 斧谷 稔	今川泰宏	今川泰宏	金山明博
15	'85 6/15	カツの出撃	丸尾みほ 斧谷 稔	関田 修	横山広行	北爪宏幸
16	'85 6/22	白い闇を抜けて	鈴木裕美子 斧谷 稔	本機鷹王	本機鷹王	小林利充
17	'85 6/29	ホンコン・シティ	遠藤明吾	川瀬敏文	川瀬敏文	山田きさらか
18	'85 7/6	とらわれたミライ	鈴木裕美子 斧谷 稔	杉島邦久	杉島邦久 横山広行	金山明博
19	'85 7/13	シンデレラ・フォウ	遠藤明吾	平林 淳	碓日喜一	北爪宏幸
20	'85 7/20	灼熱の脱出	遠藤明吾	関田 修	関田 修	小林利充
21	'85 7/27	ゼータの鼓動	大野木寛 斧谷 稔	本機鷹王	本機鷹王 斧谷 稔	山田きさらか
22	'85 8/3	シロツクの眼	丸尾みほ 斧谷 稔	川瀬敏文	川瀬敏文	金山明博
23	'85 8/10	ムーン・アタック	鈴木裕美子 斧谷 稔	杉島邦久	杉島邦久	北爪宏幸
24	'85 8/17	反撃	遠藤明吾	関田 修	横山広行	小林利充 昭和四郎
25	'85 8/24	コロニーが落ちる日	鈴木裕美子	平林 淳	斧谷 稔	山田きさらか
26	'85 8/31	ジオンの亡霊	遠藤明吾	本機鷹王	井内秀治	北爪宏幸



話	放映日	サブタイトル	脚本	演出	ストーリーボード	作画監督
27	'85 9/7	シャアの帰還	鈴木裕美子 芹谷 稔	川瀬敏文	川瀬敏文	金山明博
28	'85 9/14	ジュピトリス潜入	遠藤明吾	関田 修	森 一浩	小林利充
29	'85 9/21	サイド2の危機	鈴木裕美子	杉島邦久	世良邦男 杉島邦久	大森英敏
30	'85 9/28	ジェリド特攻	遠藤明吾	平林 淳	横山広行	山田きさらか
31	'85 10/5	ハーフムーン・ラブ	鈴木裕美子 芹谷 稔	妻方 仁	森 一浩 芹谷 稔	瀬尾康博
32	'85 10/12	謎のモビルスーツ	遠藤明吾	本機謙王	井内秀治	金山明博
33	'85 10/19	アクシズからの使者	遠藤明吾	関田 修	碓目善一	小林利充
34	'85 10/26	宇宙が呼ぶ声	鈴木裕美子	川瀬敏文	川瀬敏文	山田きさらか
35	'85 11/2	キリマンジャロの嵐	鈴木裕美子	平林 淳	森 一浩	瀬尾康博
36	'85 11/9	永遠のフォウ	遠藤明吾	杉島邦久	杉島邦久	北爪宏幸
37	'85 11/16	ダカールの日	鈴木裕美子	横山広行	横山広行	金山明博
38	'85 11/24	レコアの気配	遠藤明吾	関田 修	世良邦男 芹谷 稔	小林利充
39	'85 11/30	湖畔	鈴木裕美子	川瀬敏文	川瀬敏文	山田きさらか
40	'85 12/7	グリプス始動	遠藤明吾	平林 淳	森 一浩 芹谷 稔	寺東克己
41	'85 12/14	目覚め	鈴木裕美子	杉島邦久	杉島邦久	瀬尾康博
42	'85 12/21	さよならロザミー	遠藤明吾	横山広行	横山広行	恩田尚之
43	'86 1/4	ハマーンの嘲笑	遠藤明吾	関田 修	世良邦男	金山明博
44	'86 1/11	ゼダンの門	鈴木裕美子	川瀬敏文	川瀬敏文	小林利充
45	'86 1/18	天から来るもの	遠藤明吾	平林 淳	森 一浩	山田きさらか
46	'86 1/25	シロッコ立つ	鈴木裕美子	川瀬敏文 杉島邦久	杉島邦久	瀬尾康博
47	'86 2/1	宇宙の渦	遠藤明吾	横山広行	横山広行	恩田尚之
48	'86 2/8	ロザミアの中で	鈴木裕美子	関田 修	滝沢敏文	金山明博
49	'86 2/15	生命散って	遠藤明吾	平林 淳	世良邦男	敷島博英
50	'86 2/22	宇宙を駆ける	遠藤明吾	川瀬敏文	川瀬敏文	小林利充

機動戦士Zガンダム ビデオ・LDガイド

発売・販売 パンダイビジュアル(株)

※価格はすべて税別です。



LD 2巻
6,000円
BELL-909
©創通エージェンシー
・サンライズ



LD 1巻
7,800円
BELL-908
©創通エージェンシー
・サンライズ



LD 4巻
6,000円
BELL-911
©創通エージェンシー
・サンライズ



LD 3巻
6,000円
BELL-910
©創通エージェンシー
・サンライズ



LD 6巻
6,000円
BELL-913
©創通エージェンシー
・サンライズ



LD 5巻
6,000円
BELL-912
©創通エージェンシー
・サンライズ



LD 8巻
6,000円
BELL-915
©創通エージェンシー
・サンライズ



LD 7巻
6,000円
BELL-914
©創通エージェンシー
・サンライズ



LD 10巻
6,000円
BELL-917
©創通エージェンシー
・サンライズ



LD 9巻
6,000円
BELL-916
©創通エージェンシー
・サンライズ



LD 11巻
6,000円
BELL-918
©創通エージェンシー
・サンライズ



LD 12巻
6,000円
BELL-919
©創通エージェンシー
・サンライズ



ビデオ 9巻
6,000円
BES-1086
©創通エージェン
シー・サンライズ



ビデオ 10巻
6,000円
BES-1087
©創通エージェン
シー・サンライズ



ビデオ 5巻
8,000円
BES-1082
©創通エージェン
シー・サンライズ



ビデオ 1巻
3,800円
BES-1078
©創通エージェン
シー・サンライズ



ビデオ 11巻
6,000円
BES-1088
©創通エージェン
シー・サンライズ



ビデオ 6巻
6,000円
BES-1083
©創通エージェン
シー・サンライズ



ビデオ 2巻
6,000円
BES-1079
©創通エージェン
シー・サンライズ



ビデオ 12巻
6,000円
BES-1089
©創通エージェン
シー・サンライズ



ビデオ 7巻
8,000円
BES-1084
©創通エージェン
シー・サンライズ



ビデオ 3巻
6,000円
BES-1080
©創通エージェン
シー・サンライズ



ビデオ 13巻
6,000円
BES-1090
©創通エージェン
シー・サンライズ



ビデオ 8巻
8,000円
BES-1085
©創通エージェン
シー・サンライズ



ビデオ 4巻
8,000円
BES-1081
©創通エージェン
シー・サンライズ

第3章

機動戦士ガンダムZZ



1986

MOBILE SUIT GUNDAM ZZ
作品介绍

「Zガンダム」の後をうけて放送が開始された後日談。ハマーン率いるネオ・ジオン軍と、アーガンマに乗り込むことになった少年少女の戦いを描いた。主人公はジュード・アースタ。サイド1のシャングリラに住んでいたこの少年が、熱血漢というあたりに、前2作とは雰囲気を変えた設定であることがわかる。本作は「明るいガンダム」を目指していた。OP曲が秋元康作詞で「アニメじゃない!」というインパクトあるタイトルだったのも、この趣旨に沿うものだ。とはいっても、後半はニュータイプ、エルピー・ブルやネオ・ジオン内の反乱軍をめぐる重いドラマに収斂していく、当初の明るいガンダムという狙いは不発のまま終わった。なお、キャラクターデザインはZガンダムの安彦良和氏から、北爪宏幸氏へと交替した。

なお本作の第1話「ブレイユードZZ」は、前2作の作品世界を解説する特別編で、実質的な物語は第2話からであった。

舞台設定



U.C. 0088年、前作から引き続き残留するハマーン・カーン率いるアクシズ軍は、ネオ・ジオンを名乗り、各コロニー、そして地上の制圧に乗りだした。戦力の大半を失ったエウーゴにあって、主力艦アーガマも、メインパイロットであるクワトロが行方不明、カミーユも精神的に崩壊し、疲弊していた。

そこに現れたジュードとその仲間達がアーガマに居着き、パイロットとしてネオ・ジオンと戦うことになる。彼らが搭乗するのはいずれもガンダム系MS。Zガンダムに登場したMk-II、Zガンダム、百式にZZガンダムを加えた4機はガンダムチームと呼ばれる。こうして、エウーゴ、連邦軍の支援もないままアーガマは孤軍奮闘を続けるのだった。

物語

ジュード・アークシタは14歳。出稼ぎにでかけたまま行方不明の両親に代わって、妹リイナを養うために、仲間達とサイド1のシャングリラでジャンク屋をして暮らしていた。

ある日、そこに傷ついたアーガマが入港し

たことを知り、彼らは一儲けを企む。Zガンダムを盗もうとするジュードだが、アーガマを追撃してきたネオ・ジオンのマシヌマーと戦闘になりこれを退ける。この後、マシヌマーはコロニーの管理者やジャンク屋などと協力して、アーガマを狙うが、その作戦はことごとく失敗に終わる。この戦いの過程で、ジュードはMSに乗ることを決意し、彼の仲間達もアーガマに居座ることになる。

苦勞の末、シャングリラを脱出したアーガマは、ラビアン・ローズとの合流を目指す。アーガマ内に潜入した敵兵に、仲間のイーノを人質にとられそれをZガンダムで追いかけるジュード。そこに待ち受けていた新型MS・Rジャジャに苦戦する。そこに、新型のZZガンダムが到着するのだった。

アーガマは幻のコロニーと呼ばれるムーミンに立ち寄るなどしながらネオ・ジオンの部隊との一進一退の攻防を繰り返す。その中で、リイナが人質としてさらわれてしまう。リイナを探すジュードは、アクシズに投降し、そこでエルビー・ブルという少女と出会う。彼女の手引きでアクシズから脱出するジュード



ー。彼女は、青年士官グレミー・トトの下で、強化訓練をうけてきたニュータイプであった。

ジュドーはネオ・ジオンの地球降下作戦の最中に再び、キュベレイMk-IIに搭乗したブルと出会う。グレミーを嫌うブルはジュドーといると落ち着くらしく、彼を慕ってそのままアーガマに居着くことになる。

なお、アクシズでジュドーの存在を知ったハマーンは、そのニュータイプ能力に、ネオ・ジオンに引き入れることを考える。

地上に降りたアーガマとガンダムチームにはさまざまな人間が戦いを挑んでくる。ジオン公国崩壊以来、ダカール近くの村に姿を隠していたジオンのロンメル中佐。パイロットであった恋人の名誉のために、ガンダムチームを襲撃したマサイ。アフリカで民族運動を展開するガデブ・ヤシンとその仲間である『首の部隊』……。

ネオ・ジオンはダカールを占領する。ミネバを中心にしたバーティ会場に潜入したジュドーは、リイナとつかの間の再会を果たす。だが、戦闘にまきこまれリイナは生死不明に。

アーガマはその後ダブリンへ移動、連邦高

官と接触する。和平を考える彼らに反対したジュドーらは、身柄を拘束されてしまう。一方、和平を結ぶつもりなどないネオ・ジオンはダブリンに対してコロニー落としを執行。その廃墟の中で、ブルは自らのクローン、ブルツーと対峙し敗れる。ブルツーは倒したブルに自らの姿を重ね、動揺するのだった。

コロニー落としに屈した連邦政府は、ジオン共和国（サイド3）をネオ・ジオンに譲渡。ハマーンはサイド3の中核的コロニー、コア3へと移動する。また、アーガマと戦ったマシュー・セロ、キャラ・スーンを強化人間として戦線に投入するのだった。

ブルを失った哀しみにひたる間もなく、再び戦場は宇宙へ。宇宙へ戻るジュドーたちは新型艦ネル・アーガマを任せられる。

サイド3に入ったジュドーたちは、コア3に接統されようとしている小惑星キケロの反ハマーン派と協力、キケロからネオ・ジオンを追いつ出すことに成功する。

ネオ・ジオン内部で、グレミー・トトが反乱を起こした。彼はアクシズを制圧し、コア3のハマーンに反旗を翻した。彼はジオンの



血をひいているらしく、それも彼の反乱の根拠の一つであった。

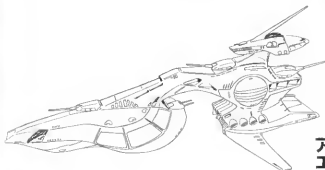
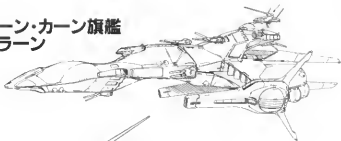
彼の切り札は、ブルツに代表されるニュータイプ部隊である。ブルツが操縦するMSクイン・マンサの攻撃を受けた際、これまでも何度となくジュドーたちを支援してくれたドック艦ラビアンローズは盾となる。

グレミーはアクシズの一部分である小惑星モウサを切り離し、ハマーン艦隊にぶつけ、艦隊の戦力を大きく削ぐ。さらにアクシズをコア3にぶつける作戦を実行する。その戦闘の中で、マシユマーはグレミー麾下のドーベンウルフ隊と戦い敗れる。

ネエル・アーガマは、エウゴ艦隊の協力もないうまま、グレミーとハマーンの戦闘に介入する。当面の敵をグレミーと定めたジュドーたちは、アクシズに潜入する。

ブルツは、ブルが自分のジヤマをしていると語り、精神的に不安定になっていた。そんなブルツを叱咤して彼女とともにクイン・マンサに乗り込んだグレミーは、ZZガンダムのジュドーと向かい合う。自らの戦いの大義を語るグレミーに対し、そうした独善が地

ハマーン・カーン旗艦 サダラーン



アクシズ主力巡洋艦 エンドラ



球をダメにしていると、ジュードは反対する。そんなグレミーにとどめを刺したのは、ルー・ルカの乗るZガンダムであった。

ハマーンがオレを待っている、と語るジュードは、ハマーンと、対で対決する。ジュードと一緒にいと誘うハマーン。それを拒否するジュード。激闘の末、ジュードはハマーンのキュベレイを倒す。ハマーンは死の瞬間「強い子供に会えてよかった」と満足げな表情を浮かべるのだった。

戦争終結後、ジュードはルーとともにヘリウム採集船に乗り、木星へと旅立つのだった。それを見送る人の中には、セイラ・マスによって助けられていたリイナの姿もあった。

時代背景

この年はいわば節目の年であった。2年にわたってOAされたガンダムシリーズが終わっただけでなく、TVの「うる星やつら」も劇場版第4作とともに終了(後番組は「めざん一刻」)、魔法少女ものもこの年の「魔法のアイドル パステルユーミ」の後しばらくブラ

ンクがあく。また、アダルトアニメの先駆的存在であった「くりいむレモン」の伝説的ヒロイン亜美の物語も、一般作「旅立ちー亜美・終章ー」で完結を迎えた。そのほか話題になった作品としては「聖闘士星矢」が筆頭だろう。荒木・姫野コンビによる美麗なキャラが、同人誌の世界などを舞台に圧倒的な人気を得た。この作品は、まだ6人いたSMA P主演によるミュージカル版も製作された。

この年に起こった重要な出来事としては、チエルノブイリの原発事故が忘れられない。また、フィリピンでは2月革命が起きて、マルコス政権が崩壊する。この一歩始終がテレビ中継され、テレビというメディアの強力さが改めて注目されることになった。

また、マイク・タイソンが20歳という史上最年少で世界チャンピオンになった。このあと暴行罪で刑務所に入るなど、このころは誰も予想できなかった。このほか、今では当たり前になったレンズ付きフィルム「写ルンです」もこの年発売開始。新風営法が施行され、ゲームセンターの深夜営業が不可能に。歌舞伎町などの盛り場の雰囲気も大きく変わった。



ビームファン

MS兵器の変遷

明らかに「スター・ウォーズ」のライトセイバーの影響が見て取れるビームサーベルだが、第一話でザクを串刺しにするシーンのカッコ良さに魅了されたファンは多いだろう。

非常にシンプルなのにビームサーベルだが、後にさまざまなMSが出てくる中で、その個性付けのためにもあってさまざまなバリエーションが生まれることになる。

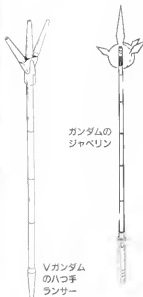
まず、ガンダムの武装のバリエーションとして、ビームサーベルがビームジャベリンになる。ジャベリンが使われたのは本編でも一回だけである。

続いて印象的なのは、ゲルググの使ったビームナギナタ。刃先の曲線をビームがどのように作り出しているかは疑問だが、きつとミノフスキー粒子が重要な働きをしているのだろう。色は青が基本だが、なぜか本物の刃として描かれているカットもあつたりして……。なお、劇場版でギャンとの戦闘をゲルググに置き換えた際に黄色いビームナギナタが描かれ、そのために本来の青と黄色の2色が混在するシーンがある。

そのほかサーベル系のバリエーションとしては、

ガンダムZZのドライセンはビームランサーとビームトマホークを操る。Vガンダムでは、ザンスカール帝国が使用するゲンガオゾがビームメイス、リグ・シャッコがハリセン状のビームファン、ゴトラタンが腕にビームトンファを装備している。逆襲のシャアではサザビーがビームサーベルトマホーク、ギラ・ドゥガがビームソードアックスを使用。この2つは目的に応じてトマホークやトーチ、サーベルなどの形状に選べるのが特徴だ。

また、逆襲のシャアではサーベルの描写方法がほかの作品と変わっている。通常のビームサーベルは斬り合いをしないときも「刃」が出ている。が、逆襲のシャアでは斬り合いする瞬間にしか刃はでない。ビーム兵器である合理性を考えた描写であると思われる。

ガンダムの
ジャベリンVガンダム
のハツ手
ランサー

主要キャラクター

主人公

ジュード・アーシタ

ジャングリラでジャンク屋を営んでいたが、アーガマやカミーユとの出会いで、否応無く戦いに巻き込まれる。妹思いの明るい性格で、大人の理屈に反発をもっている。だがその為か、ニュータイプとして著しい成長を遂げる



リィナ・アーシタ

ジュードの妹。家事全般を一人でこなしていた。でもその実オテンバで意外な行動力も発揮した。ダカールにて死亡したと思われたがセイラの元で保護されていた



親子関係

ジュードの両親は、ほかの「コニー」に出嫁ぎにいったまま行方不明という設定。死別でもなく、機能を失った家庭というわけでもない。ほかの主人公の設定と並べてみると、これがジュードのはつらつとした性格に反映していることがよくわかる。これまでの主人公にあった親のプレッシャーという葛藤を廃する事で、ロボットものの原点帰りを目指したのである。「明るいガンダム」の企画意図はこんなところにも見えてくる。

むしろ、ドラマ的な仕掛けは、フルとフルツ、ハマーとグレミーといった、自分に似たものに対する葛藤、反発といった部分に凝らされていたように思われる。

ルー・ルカ

ZZを移送してきたエウーゴの志願兵。一
児、冷静な判断を下す年長に見えるが子
供じみた部分も持ち合わせている



エル・ビアンノ

口より先に手が動くタイプで、
ニュータイプとしての覚悟も平
かった

イーノ・アッパー

ネエル・アーガマ連一
の良心。常に仲間への気
遣いを忘れない人物

ネエル・アーガマのリーダー。当初は我が道
な行動が目立つたが戦いの中で成長していく

ビーチャの親友。一見ワルに見
えるが根はいい奴。ラサラの
悪逆で一回り大きく成長した

ビーチャ・オーレグ

モンド・アカゲ



エルビー・ブル

アクシズの強化人間。優れた戦闘能力を持つが、ジドーとの出会いで人間的な感性を育む事となる。だがリィナに対しては多少ヤキモチを焼いていた。ちなみに風呂が大好きで、放映当時は大いに話題となった



ファ・ユイリイ

精神破壊を起したカミーユを介抱する為、看護婦となる。後にザブリンでブライアの窮地を救う

ロイ ルチーナ



反ネオ・ジオン活動家。後にルチーナはブルツの成長に関わる事となる

シャングリラのジャンク屋。ヤザンと組んでガンダムを奪おうとするが失敗。共に死にます



ゲモン・バジャック

ミリィ・チルダー

アナハイムの技術者。感激屋でメガネっ娘の典型。技術者としての腕も確かだった



アンナ

アイガマのクルーで重現に関係なしの少年たちには振り回された



セイラ・マス

医師として隠遁生活を送っていたが、シャアの演説を聞いた後独自の活動を始める。人知れずリィナを保護したりと、存在感あふれる人物であった



敵

敵が見えにくかったZガンダムに対し、こちらの敵は、カミーユに「生きていてはいけない人」とまで言わせたネオ・ジオンのハマーン・カーン、と明確だった。彼女の最大の失敗といえるのは、自らが人を信用できないにも関わらず、強力な「ニュータイプ」であるジュードに関心を持ちすぎたことだろう。

また、印象に残るのはマッシュ・セロ、キャラ・スーン、グレミー・トトといった序盤でコメディリリーフの役割も担ったキャラである。この浮世の雰囲気は「ガンダム」からぬ」と物語を醸したが、今見直すと「ガンダム」の枠組みに納められながらも、作品に幅を持たせようとした結果であったと見える。



ハマーン・カーン

シャアとの確執を清算したハマーンは、ジュードの中に新たな躍動を感じていた。だが「ジオン」という世界観の中でしか生きられない彼女は、結局は人間としての業を超える事はなかった…

ミネバ・サビ

ハマーンの人形とならざるをえなかったミネバ。だがZZではそのミネバさえも影武者でしかなかった…



マシュマー・セロ

エンドラの艦長でハマーンを信奉する熱血漢。だがツメが甘く何度となくジュドーに煮え湯を飲まされる。その為ハマーンに一時更迭され、強化人間として再びジュドーの前に立ちはだった



イリヤ・パゾム

マシュマーの副官であるが、実質的な総司令。精神安定剤入りのバラをマシュマーに手渡していた



キャラ・スーン

MSに乗るとエクスタシーを感じるヤバい女性士官。妙にジュドーと気があっており、かなり人間くさい人物であった



グレミー・トト

ザビ家の血を引く青年士官。独自のコネクションを使い、ブルツ等ニュータイプ部隊を育成し、ハマーン打倒の機会を伺っていた。だがルー・ルカに一目惚れしたりと人間的一面も見せた



ゴットン・ゴー

マシュマーの副官。日和見的な士官で、マシュマーの騎士道精神に振り回されていた





ランド・ギレン

強化されたキャラに付き添う戦士。ガスし、ガスRを駆りキャラをよく運衛した



ニー・ギレン



ブルツ

エルピー・ブルのクローンで、攻撃的な性格を強調された強化人間。グレミーの切り札であったがブルの思念に導かれジュドーと共に戦う事となる。最後はジュドーの危機を救う為、全能力を使い果たし死亡する



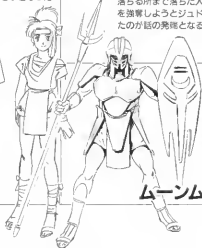
ムーンムーンの人々

長く外部との接触を断っていたため、機会文明を捨てた独自の文化を育む事となった



ヤザン・ゲャブル

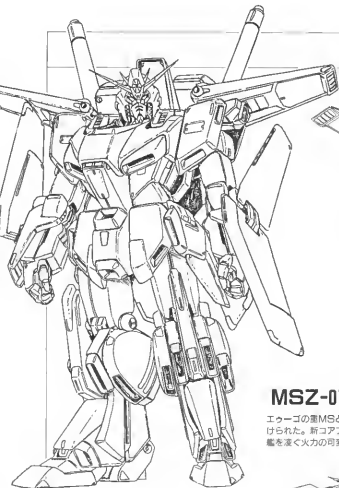
元ティターンズのパイロット。落ちる所まで落ちた人の典型Zを独尊しようとジュドーを襲したのが話の発端となる



機械文明を拒絶している為、ほとんど中世の騎士と同じ装備である

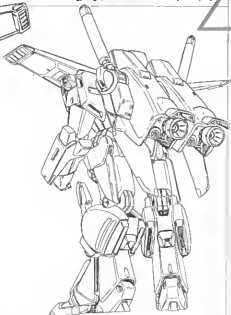
ムーンムーンの戦士

主要MSとメカ



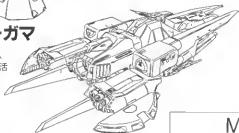
アーガマ

Zでの戦いを生き抜き、
小改造を施された後も活
躍するエウゴの旗艦



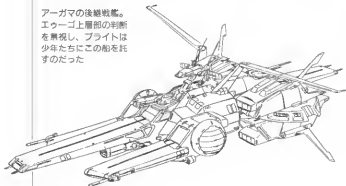
MSZ-010 ZZガンダム

エウゴの重MSとして製作され、ラビアンローズからアーガマに属
けられた。新コアブロックを中核とする3機の機動メカが合体し戦
艦を凌ぐ火力の可変大型MSとして活躍する



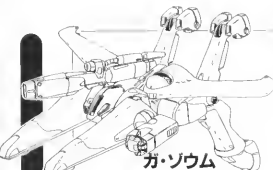
ネル・アーガマ

アーガマの後継戦艦。
エウゴ上層部の判断
を無視し、プライトは
少年たちにこの船を託
すのだった



MSの大型化

ガンダムZZに登場するMSの特徴を一言
でいうなら「過剰」である。巨艦巨砲を絵に
描いたようなビーム砲やファンネルを多数装
備したMS、MAが多数登場した。メガ粒子
砲を額に装備するZZは、そういう意味でも
作品世界を象徴するメカであった。
ところで、機体名は「ZZガンダム」だが、
作品名はガンダムZZ、本編でも初登場の
時には同様に呼ばれている。

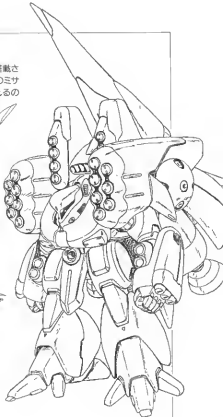


ガ・ソウム

本来ならガゼEとなる量産機体だが、予想以上の性能でAMX-008として量産配備された

ズサ

AMX-102としてエンドラに搭載されていた試作可変MS。多数のミサイルを搭載し、機動性に優れるので、後期には量産型も登場する



ガルスJ

1 エンドラの試作AMX-100

ドライセン

AMX-009
リックドムの後継となる量産MS

キュベレイ

ブル用のAMX-004-2とブルツ用AMX-004-3が登場する。ブルは黒色、ブルツは赤色。Zで登場したハマーン専用機と基本的にはおなじ構造のニュータイプ専用MS

量産キュベレイ

グレミーのニュータイプ部隊が使用するAMX-004G

ハンマ・ハンマ

AMX-103
ニュータイプ用試作MS。Zの頭部を破壊させた

キャラ・スーン
専用に組み立てられたエンドラの試作MS

R・ジャジャ



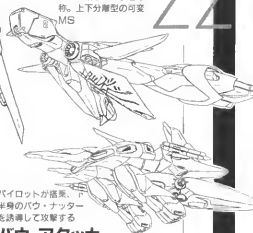
アイザック

RMS-119。偵察用のハイザック
のレドーム追加バリエーション



パウ

AMX-107、グレミーの
変機で飛船をパウと呼
称。上下分離型の変
MS



パイロットが搭乗、下
半身のパウ・ナッター
を誘導して攻撃する

パウ・アタッカー

ジャムル・フィン



AMX-01X。量産型の変MA機
動性能が高く接近格闘戦時
にはMS形態とな
る



MS-10000。エウロのリック
ディアスの後継機。ジオンに接収され
研究されたMS

シュツルム ディアス

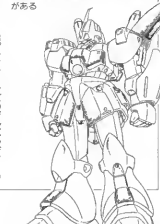


ガスアル

AMX-117R。ティターンズのガルバルディアの
後継MS。ギレン元帥が愛機として使用した

AMX-117L。名前の
通り左肩に特徴
がある

ガスエル



ザクⅢ



AMX-110。正統派のザク後継機とし
てネオ・ジオンが開発したもの

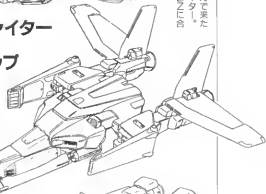
ルー・ルカが導いて来た
新型コア・ファイター
3機を運用してZZに合
体する



コア・ファイター

コア・トップ

ZZの上半身とコ
アファイターが合
体した大型戦闘機



合体
ZZガンダムは、ガンダムのA、BパーツとGパーツの機能を併せ持つようなコアトップとコアベースの組み合わせて完成する。初登場した時、合体が完了したZZがまるでスーパードロイドのように、「ボーズ」をとったことに驚いたファンも多かった。

なおネオ・ジオンのバウも合体機能を搭載していた。こちらは上半身パーツが有人で、下半身は遠隔操作でコントロールする無人機であった。この合体パターンは、Vガンダムのソロにも受け継がれている。

コア・トップとコア・ベースがコ
ア・ファイターと合体変形し重戦
闘機Gフォートレスとなる



コア・ベース

ZZの下半身とコアファイ
ターが合体した大型戦闘機。
単機でも十分な戦闘能力を
保有する

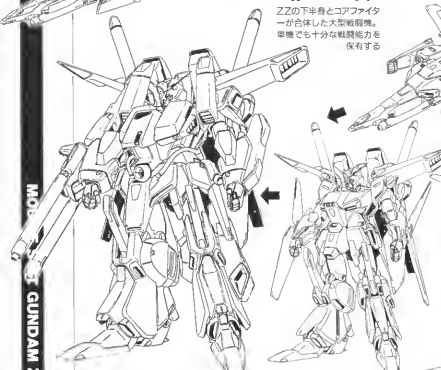


Gフォートレス

重戦闘機Gフォートレスに
合体後は、2機のコア・フ
ァイターは分離する。その後に
複雑な変形プロセスを経て
GファイターはガンダムZZ
に変形し重MSとして活躍
する。さらにZZに火力と装
甲を増加したものがフルア
ーマーZZガンダムである

メガライダー

戦艦以上の火力を誇るメガ
キャンノンで自走形式にした
物で、MSが操縦し、敵艦に
戦場を駆け抜ける

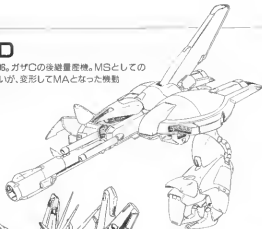


フルアーマーZZガンダム

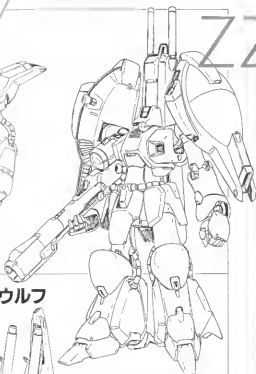


ガザD

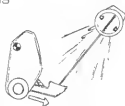
AMX-006。ガザCの後継量産機。MSとしての性能も高いが、変形してMAとなった機動能力も抜群



ドーベンウルフ

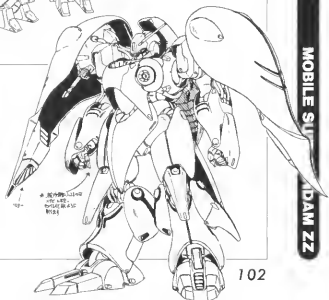
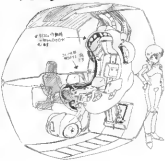


AMX-014。一般兵士が使える類似サイコミュ内蔵で、インコムを使った有線攻撃が可能。グレミー・トットの率いるラカン部隊が使った決戦用重MS



クイン・マンサ

NZ-000。フルツィー以外には使えない、ミラーの切り札で、ZZの傍近くあり、キューベレイの3倍のファンネルを搭載



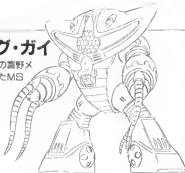
ゾゴック



これも富野メモに記載された未登場MS

アッグ・ガイ

初代ガンダムの富野メモから生まれたMS



ゴック

一年戦争時のレプリカとしてタイガーバームに展示されていたもの。可動状態であった

GMⅢ



カラバがエウロゴの協力を得て開発した。GMⅡをベースにMKⅡの駆動系と装備を施した量産機

MS-14Jとしてハマーン軍が開発したグルグの後継MS

リゲルグ



サクⅢ

ティターンズのハイザックとは異なりジオンの技術者がサクの後継機種として開発したMS



MSV

さまざまなMSVも多数登場。アフリカを移動中に遭遇した敵は、アイザックやデザートザク、ゲルググなどを使用していた。また、サイド3のタイガー・バウムには、MSのレプリカが置かれており、その中には初代ガンダムでは登場しなかった（でも、プラモは販売されていた）アッグガイなどが描かれた。

スゴック

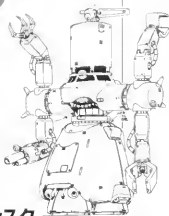
同じくタイガーバーム展示用のレプリカ



おまけ

ジャンク屋のゲモンが作ったリサイクルMS

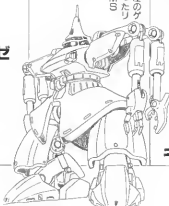
ムーンムーンに祭られていた50年前のMS状の機體



ゲゼ

ドワッジ

砂漠戦用に配備されたドムの生き残り。フィルムでもドムと呼ばれていた



キャスク

MOBILE SUIT GUNDAM ZZ

機動戦士ガンダムZZ

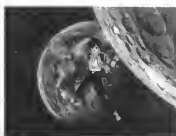
総括



富野監督の好きな言葉に「エンターテインメント」という言葉がある。フィルムが持つ本来的な躍動感やエネルギー感を持つ物語のこと、とても解釈すればいいだろうか。過去の作品では「戦闘メカザブングル」が、この「エンターテインメント」を謳った作品であった。

ガンダムZZは、ずばりZガンダムの枠内でこのエンターテインメントを目指した作品であったといえる。その狙いは「明るいガンダム」というフレーズに集約されたのだった。が、当然、前作Zガンダムの枠組がその狙いを実現することを難しくしたのもまた事実だ。ZZガンダムが登場した11話「始動! グアルゼータ」で、ZZガンダムは合体終了後にまるで「スーパーロボット」のようにポーズをとった。このガンダムシリーズらしからぬ演出に驚いたファンは多かった。

だが、ガンダムZZ全体を見渡して見ると、これは作品世界の混乱の産物と言うより、「ガンダムって結局はロボットものじゃないか」というある種の問い直しにも似た、ジャンルの原点へ回帰する試みであったことがよくわ



かる。

その狙いは物語においても顕著である。ガンダムZZは、14歳のジュドーとその仲間がガンダム系モビルスーツを操り、ネオ・ジオンと各地で戦うというストーリーラインが基本線になっていた。ゲストキャラクターがメインになる1話完結のエピソードもこれまで以上に多く、前2作の大局的な戦争を背景にした大河ドラマ的な要素はかなり抑えられている。

もちろん登場人物の造形も、それに従って大幅にアムロやカミーユとはニュアンスが変わっている。ジュドーは、世の中を混乱させている無責任な大人に対して憤っており、12話以降はネオ・ジオンに連れ去られた妹のリイナを取り戻すことがかれの行動原理の一つになる。ここではニュータイプも、こうした純粋でビビッドな子供の感性というレベルまでかみ砕いて表現されている。ジュドーとその友人達の軽妙なやりとりも、「明るいガンダム」のイメージに沿うものであった。

メカニック面にもこの分かりやすさは貫かれている。ガンダムZZのMSは、Zガンダ

ムにおけるさまざまなバリエーションの派生と大出力、大型化を背景に、MSに「何かを付け加える」という方向で、極限まで進化していた。だが、デザインが複雑化しているが、ガンダムZZの敵MSが担っている役割は、むしろかつてのシンブルだったロボットアニメのヤラレメカに近い。そこで、MSの役割は世界観の提示以上に、目先を変えるようにさまざまなMSが登場して、メカアクションを充実させるという役割が優先しているのである。

また、ドワッジ、リケルグ、ザクIIIなど従来のMSのデザインの一部を変更したり、シルエットが共通するMSが登場したのは、プラモデルの商品展開の遅れをカバーするための工夫であったという（猪俣謙次著『ガンダム神話Z』より）。

これはつまり、かつてのダイカストモデルがロボット物の企画で果たしていた役割を、プラモデルが完全に担うほどに市場として巨大化したことだ。ダイカストモデルからプラモデルへの橋渡しを結果的にすることになった過渡期的存在の初代ガンダムから6



年が経過し、プラモデルを主軸とするビジネス・スキームが確立したことが、ガンダムZZの企画の方向性そのものに影響をあたえていることが見て取れる。

初代ガンダムの時に、デザインだけでフィルムには存在しなかったMSアックガイが、後にプラモデル化され、それがフィードバックされるかたちでガンダムZZに登場している。これもまた、そうしたプラモデルと連動したファンサービスの一環だろう。

こうして、ガンダムZZを構成する要素を見てみると、多くのポイントにおいて「ロボット物」へと重心が振れていることがわかる。つまりガンダムZZは、殴り合いの格闘こそしないものの「ロボットブレス」への、ガンダム側からのアプローチだったのだ。そしてこの立ち位置が、現実認知の物語であったZガンダムへの反動から定まったことは想像に難くない。

とはいってもこの本作は、シリーズが終盤に向かうにつれて、この過剰に武装したMSブレスの要素は残しつつも、物語はシリアスな方向へと転回する。それは、Zガンダムか

ら登場するネオ・ジオンのハマーン・カーンが敵である以上、やむを得ない展開であった。だが、このシリアスな展開は、同時にZガンダムの轍を踏まぬように配慮されている。

ジュードは、目先のことしか考えずに世の中をダメにしている大人に対して怒っている。だが、その葛藤はドラマの中ではつきりと取り上げられることは少なかった。それはスタッフが、彼の周りから怒りの対象になる大人（つまり、否定しきれない現実の汚さ）を用意周到に排除したからだ。特に、後半の少年少女だけでネエル・アーガマに乗り込むという展開になるに至っては、怒りをぶつけようにもぶつける大人がいない。これはまるでスタッフが、カミーユのように現実認知の物語に押しつぶされないようにと、ジュードを守っているようにすら見える。

全編で、彼が大人にはつきりと怒りをぶつけることができたのは、全ての戦いが終わった後、駆けつけた連邦のお偉いサンをなじるシーンだけだ。しかも、彼はそこでも「気が済むならオレを殴れ」と言ってくれたプライドを殴るしかできないのである。



ここまで徹底してジュードを、大人と正面
対決させないことで、スタッフは何を守ろう
としたのか？ それはジュードの滲刺さに込
めた「明るいガンダム」という当初のテーマ
であった、と考えるのがちぎさだろうか。





ZZ

ザ・ビルボード

機動戦士ガンダムZZ
スタッフリスト

STAFF

企画 日本サンライズ

総監督 富野由悠季

原案 矢立 肇

原作 富野由悠季

音楽 三枝成章

OP「アニメじゃない」

ED「時代が泣いている」 歌／新井正人

新OP「サイレント＝ヴォイス」 歌／ひろえ純

新EO「一千万年銀河」 歌／ひろえ純

キャラクターデザイン 北爪宏幸

メカニカルデザイン 伸重舎 明貴美加

メカニカルベースデザイン 小林 誠 出渕 裕

デザイン協力 安藤良和 大河原邦男 藤田一己

プロデューサー 神谷寿一 稲垣光賢

内田健二

製作 名古屋テレビ

創造エージェンシー

日本サンライズ

メカニカル作画監督 内田順久

アニメーター スタジオ・ダブ

山田浩之 仲田美歩

スタジオ夢民

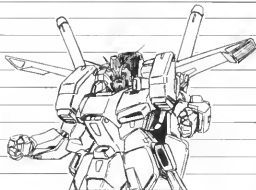
小泉孝司 中野美雪 ほか

美術 池田繁実

協力 河本洋一 西中康弘 佐山喜剛

タイトル マキ・プロダクション

制作デスク 高森宏治





CAST

ジュード・アーシタ 矢尾一樹

リィナ・アーシタ 岡本麻弥

ルー・ルカ 松井菜桜子

ビーチャ・オーレグ 広森信吾

イーノ・アッパーブ 菊池正美

エル・ピアノ 原えりこ

モンド・アガケ 塩谷浩三

ハマーン・カーン 榊原良子

グレミー・トト 板倉つとむ

マシュマー・セロ 堀内賢雄

エマリー・オンス 藤井佳代子

エルビー・ブルノブルツ 本田知恵子

キャラ・スーン 門崎由里

イリア・パソム 佐藤君江





ZZ

ダブルボーグ

機動戦士ガンダムZZ 放映リスト

話	放映日	サブタイトル	脚本	演出	ストーリーボード	作画監督
1	'86 3/1	プレリウドZZ	寺沢 賢 (構成)	南田 操	ケイコマコーシャル	
2	'86 3/8	シャングリラの少年	鈴木裕美子	杉島邦久	滝沢敏文 岸谷 稔	北爪宏幸
3	'86 3/15	エンドラの騎士	遠藤明吾	横山広行	杉島邦久 横山広行	山田きさらか
4	'86 3/22	熱血のマシュマー	鈴木裕美子	関田 修	森 一浩 岸谷 稔	金山明博
5	'86 3/29	ジュードの決意	遠藤明吾	平林 淳	滝沢敏文 世良邦男 岸谷 稔	恩田尚之
6	'86 4/5	ズサの脅威	鈴木裕美子	川瀬敏文	川瀬敏文	敷島博英
7	'86 4/12	ガゼの嵐	遠藤明吾	杉島邦久	杉島邦久 岸谷 稔	小林利充
8	'86 4/19	鎮魂の鐘は二度鳴る	鈴木裕美子	横山広行	横山広行	神村幸子
9	'86 4/26	宇宙のジュード	遠藤明吾	関田 修	世良邦男 岸谷 稔	山田きさらか
10	'86 5/3	さよならファ	鈴木裕美子	平林 淳	森 一浩 岸谷 稔	金山明博
11	'86 5/10	始動!ダブル・ゼータ	遠藤明吾	川瀬敏文	川瀬敏文	恩田尚之
12	'86 5/24	リナが消えた	鈴木裕美子	杉島邦久	杉島邦久	小林利充
13	'86 5/31	妹よ!	遠藤明吾	横山広行	横山広行	神村幸子
14	'86 6/7	幻のコロニー(前)	鈴木裕美子	平林 淳	世良邦男 岸谷 稔	山田きさらか
15	'86 6/14	幻のコロニー(後)	鈴木裕美子	関田 修	森 一浩 岸谷 稔	金山明博
16	'86 6/21	アーマガの白兵戦	遠藤明吾	川瀬敏文	川瀬敏文	恩田尚之
17	'86 6/28	幕回!コア・トップ	遠藤明吾	杉島邦久	滝沢敏文 岸谷 稔	敷島博英
18	'86 7/5	ハマーンの黒い影	遠藤明吾	横山広行	横山広行 杉島邦久	神村幸子
19	'86 7/12	ブルとアクシズと	遠藤明吾	平林 淳	高松信司 岸谷 稔	山田きさらか
20	'86 7/19	泣き虫セシリア(前)	鈴木裕美子	関田 修	関田 修 岸谷 稔	金山明博
21	'86 7/26	泣き虫セシリア(後)	鈴木裕美子	川瀬敏文	谷田部嘉義 滝沢敏文 岸谷 稔	恩田尚之
22	'86 8/2	ジュード・出撃II	遠藤明吾	杉島邦久	川瀬敏文	小林利充
23	'86 8/9	燃える地球	遠藤明吾	横山広行	横山広行	敷島博英
24	'86 8/16	南海に咲く兄弟愛	鈴木裕美子	高松信司	高松信司 岸谷 稔	神村幸子
25	'86 8/23	ロンメル顔	遠藤明吾	関田 修	森 一浩 岸谷 稔	山田きさらか
26	'86 8/30	マサイの心	鈴木裕美子	川瀬敏文	川瀬敏文 高松信司 岸谷 稔	恩田尚之



話	放映日	サブタイトル	脚本	演出	ストーリーボード	作画監督
27	'86 9/6	リナの血(前)	遠藤明吾	杉島邦久	杉島邦久	金山明博
28	'86 9/13	リナの血(後)	遠藤明吾	江上 潔	滝沢敏文	小林利充
29	'86 9/20	ルーの逃亡	鎌田秀美	横山広行	横山広行	神村幸子
30	'86 9/27	青の部隊(前)	鈴木裕美子	高松信司	川瀬敏文 高松信司	山田きさらか
31	'86 10/4	青の部隊(後)	鎌田秀美	関田 修	谷田部勝義	忍田尚之
32	'86 10/11	塩の湖を越えて	遠藤明吾	杉島邦久	杉島邦久	北爪宏幸
33	'86 10/18	ダブリンの午後	鈴木裕美子	今西隆志	今西隆志 芹谷 稔	金山明博
34	'86 10/25	カミーユの声	遠藤明吾	川瀬敏文	川瀬敏文	小林利充
35	'86 10/31	落ちてきた空	鈴木裕美子	横山広行	横山広行	神村幸子
36	'86 11/8	重力下のプツル	鎌田秀美	高松信司	高松信司 芹谷 稔	忍田尚之
37	'86 11/15	ネェル・アーマガ	遠藤明吾	江上 潔	滝沢敏文 芹谷 稔	山田きさらか
38	'86 11/22	鉄壁。ジャムル・フィン	鈴木裕美子	関田 修	杉島邦久	金山明博
39	'86 11/29	サラサ再臨	鎌田秀美	今西隆志	今西隆志 芹谷 稔	小林利充
40	'86 12/6	タイガーバウムの夢	鈴木裕美子	川瀬敏文	川瀬敏文	神村幸子
41	'86 12/13	サラサの命	遠藤明吾	杉島邦久	滝沢敏文	小宮根正美 山下昭彦
42	'86 12/20	コア3の少女(前)	鈴木裕美子	横山広行	横山広行	山田きさらか
43	'86 12/27	コア3の少女(後)	遠藤明吾	高松信司	高松信司 芹谷 稔	金山明博
44	'87 1/10	エマリー散華	鈴木裕美子 芹谷 稔	江上 潔	杉島邦久 芹谷 稔	小林利充
45	'87 1/17	アクシズの戦闘	鎌田秀美	関田 修	滝沢敏文	神村幸子
46	'87 1/24	バイブレーション	遠藤明吾 芹谷 稔	川瀬敏文	川瀬敏文	内田順久
47	'87 1/31	戦士、再び……	遠藤明吾	杉島邦久	杉島邦久 芹谷 稔	北爪宏幸



機動戦士ZZガンダム ビデオ・LDガイド

発売・販売 パンダイビジュアル(株)
※価格はすべて税抜です。

●LD-BOXは、現在販売終了



ビデオ 2巻
6,000円
BES-1776
©創通エージェンシー
・サンライズ



ビデオ 1巻
6,000円
BES-1775
©創通エージェンシー
・サンライズ



ビデオ 3巻
6,000円
BES-1778
©創通エージェンシー
・サンライズ



ビデオ 2巻
6,000円
BES-1777
©創通エージェンシー
・サンライズ



ビデオ 5巻
6,000円
BES-1780
©創通エージェンシー
・サンライズ



ビデオ 4巻
6,000円
BES-1779
©創通エージェンシー
・サンライズ



ビデオ 8巻
6,000円
BES-1782
©劇通エージェンシー
・サンライズ



ビデオ 7巻
6,000円
BES-1781
©劇通エージェンシー
・サンライズ



ビデオ 10巻
6,000円
BES-1784
©劇通エージェンシー
・サンライズ



ビデオ 9巻
6,000円
BES-1783
©劇通エージェンシー
・サンライズ



ビデオ 11巻
6,000円
BES-1785
©劇通エージェンシー
・サンライズ



ビデオ 12巻
6,000円
BES-1788
©劇通エージェンシー
・サンライズ

ガンダム 空白の5年間

80年1月26日の機動戦士ガンダム最終回から、85年3月2日のΖガンダム第一話まで、ガンダム空白の5年間が存在する。富野監督にとつての激動の5年間を振り返ってみよう。

80年は、1月26日に「伝説巨神イデオン」がOAされている。この年の秋にはイデオン打ち切りが決定されるが、同時に翌春のガンダム劇場公開も決まり超多忙状態に突入していた。

81年1月30日イデオンが終了。2月22日アニメ



アニメック
80年11号
80年6月1日



アニメック
81年15号
81年2月1日



戦闘メカザブン
グル大車典
83年4月1日



アニメック
31号
83年8月1日



アニメック
84年6月号
84年6月1日



アニメック
85年10月号
85年10月1日

82年1月には、夏にイデオン劇場版の宣伝活動が開始される。当初「今世紀最高の映像」をキャッチフレーズにしようとしたが、2

新世紀宣言、3月14日劇場版機動戦士ガンダム公開という慌ただしい年だ。(公開当時は1は付いていない)この成功により7月11日に機動戦士ガンダムII哀・戦

士編が公開された。

「聖戦士タンバイン」がOA開始。
84年1月21日タンバイン終了、1月28日より「重戦機エルガイム」のOA開始。

85年2月25日エルガイム終了、3月2日より富野監督初の続編作「機動戦士Ζガンダム」のOA。ガンダムにとつての空白期間は、アニメーション作品の宝庫のような5年間とも言えるのだ。

月6日からOAされた「戦闘メカザブングル」を見た宣伝スタッフは急遽「明るいイデオン」に路線変更したくらいサブングルは衝撃作品である。3月13日ほとんど新作の「めぐりあい宇宙」が公開され、「本来見たかった映像」に感動したファンの熱気により、ガンダムブームが吹き荒れた。さらに7月10日「伝説巨神イデオン接触編&完結編」が本邦初のダブルリリースにより劇場公開。

つまり、ガンダム終了から二年間の富野監督は、テレビシリーズ2本と劇場4作品を、連続して製作されていたのだ。特に後半は、テレビシリーズ1本と劇場2作品がほぼ平行状態で進行していたわけで、まさに超人的な活躍である。

83年1月28日にザブングル終了、2月5日より

「聖戦士タンバイン」がOA開始。

84年1月21日タンバイン終了、1月28日より「重戦機エルガイム」のOA開始。

85年2月25日エルガイム終了、3月2日より富野監督初の続編作「機動戦士Ζガンダム」のOA。ガンダムにとつての空白期間は、アニメーション作品の宝庫のような5年間とも言えるのだ。

第4章

機動戦士ガンダム 逆襲のシャア



1988

CHAR'S COUNTER ATTACK
作品介绍

ガンダムシリーズ、そして富野作品としても初めての完全新作の劇場用映画として製作された。公開は'88年3月。初代ガンダムから物語の中核に位置してきたアムロとシャアを再びメインキャラクターに据えて最後の戦いを描いた。この作品を最後に、初代ガンダムの設定を引きずった富野ガンダムは製作されていない。(小説では「密会」という初代ガンダムのインサイドストーリーがあるが)

本作では、コロニー・スウィートウォーターなどの描写に当時としては珍しい3DCGが用いられ、サンライズ作品のCG利用としては先駆的存在でもある。なお、映画のサブタイトルは、Zガンダムの時に予定されていたサブ・アタック・タイトル。

舞台設定

U.C. 0093年、ネオ・ジオン総帥となつたシャア・アズナブルと、連邦の独立部隊 Rond・ベル隊のパイロット、アムロ・レイが、再び地球の未来を賭けて対決する。

シャアは、魂を重力にひかれた人々の覚醒



を待っていたら人類そのものが危機に至ると考え、5thルナ、アクシズによる隕石落としていう過激な作戦で、地球に住む人々の粛正を考える。それは、あまりに無惨な大量虐殺であるが、彼曰く「人類の業を背負う」決意の産物でもあるのだった。

一方、ロンド・ベルの旗艦ラー・カイラムの艦長ブライトとアムロは、なぜシャアが反乱を起こしたのかという現状を把握することのできない連邦の高官らに足をひばられながらもシャアの作戦を阻止しようとする。

この2人の対立を縦糸にしながら、センチタイプであるが故に自分をコントロールできないニュータイプの少女、クエス・パラヤが横糸で結んでくる。

初代ガンダムのキャラクターも物語を彩る重要な役回りとして登場する。シャアの回想やアムロの夢にララーが現れるほか、ブライトと結婚したミライと2人の子供であるハサウェイとチェーミンも姿を見せる。また、ミライの婚約者であったカムラン・ブルームが連邦の会計監察官として再登場し、ネオ・ジオンの作戦を阻止するために大きな役割を果た

物語

たすのも印象深い。なお、キャラクター・デザインはガンダムZZに続いて、北爪宏幸氏。

月で新しいガンダムが組み立てられているころ、5thルナをめぐる戦闘が行われていた。かつてのジオンのエースパイロット・シャアを総帥にいたどくネオ・ジオンが、隕石落としての作戦を実行していたのだ。アムロが所属する連邦の独立部隊ロンド・ベル隊は、それを阻止しようとしていたが、力及ばず、5thルナは地球連邦本部のあるチベットのラサへと落下していく。ラサは焦土と化すが、連邦政府高官は住民より先に脱出していた。

ハサウェイ・ノアは、ラー・カイラムの艦長を務める父、ブライトを宇宙に訪ねるためにシャトルに乗り込む。そこには、ネオ・ジオンと交渉するために乗り込んだアナデウアー・パラヤと娘のクエスの姿もあった。シャトルは、5thルナ落下作戦の後の掃討戦に巻き込まれ、乗客はラー・カイラムに収容される。ブライトと図らずも再会したハサ

ウェイ。彼はクエスとも親しくなる。

そしてその戦場には、月のアナハイム・エレクトロニクスの工場から発進した、アムロの操縦するνガンダムも姿を見せるのだった。アムロの側にはνガンダム整備を担当する技術士官チェーン・アギの姿もあった。

ラー・カイラムはアテナウアーの指示により、ロンデニオン・コロニーへと向かう。ロンデニオンには、アテナウアーとの交渉のために秘密裏に潜入したシヤアの姿もあった。

この交渉で、ネオ・ジオンはルナツーで艦隊を武装解除するかわりに、旧ネオ・ジオンの本拠であった小惑星を連邦からもらい受けることが決まり、和平は成立したかに見えた。

この会見に同席した会計局のカムランはこの和平に不審を抱き、ブライトにそれを伝える。交渉が終わった後のシヤアは、ハサウェイ

とクエスを迎えたアムロと出会う。乱闘となる2人。それを止めたのはクエスだった。両親への不信から、地球に住む人の気持ちに疑問を感じていたクエスは、シヤアの語る粛正の理論に共感し逃亡を助ける。クエスはシヤアの下でニュータイプ才能が開花する。

一方、スウィート・ウォーターに戻ったシヤアに、彼の愛人の作戦参謀、ナナイ・ミゲルは「アムロを見返したくて今回の作戦をたてたのではないか」と尋ねるが、シヤアはそれをかわす。そして、シヤアは、ネオ・ジオンの兵士を前に、和平交渉の裏で進行してきた本来の作戦を明かす。アクシズを地球に落下させることで、地球上の人類を抹殺するのがネオ・ジオンの真の目的だったのだ。

ネオ・ジオンは和平が約束通りに進んでいるようにみせかけるため、ルナツーへは主にダミーも混ぜた艦隊を差し向ける。そして、シヤアは別働隊を指揮し、アクシズへと向かう。ルナツーに到着したダミーの艦隊は、不意打ちにより連邦軍を殲滅。ルナツーの貯蔵庫にある核兵器を奪取する。初陣のクエスは、連邦の軍艦を撃沈。その船には、武装解除に立ち会ったために乗り込んでいた父もいた。

ロンド・ベルはシヤアの計略に気づき、シヤアを阻止するためにロンデニオンを出発する。彼らの切り札は、カムランが独断専行で入手した核だ。クエスを心配するハサウェイは、ラー・カイラムにこっそりと乗り込む。



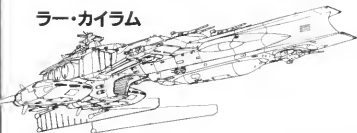


先行してアクシズにとりついていたシャアは、核バルスエンジンを稼働させる。ロンド・ベルの核攻撃はギュネイらに防がれ、その戦間の中でロンド・ベルのパイロット、ケーラ・スウは散る。ナナイとささいなことで諍いを起こしたクエスは、戦間中のシャアの下へと行くが、彼女の才能を利用できると感じているシャアは、彼女を甘やかすだけだった。

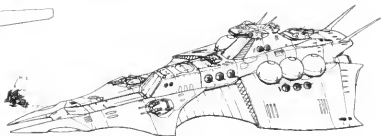
ロンド・ベルは、アクシズを2つに分断することで落下を防ごうとする。ハサウェイはMSジェガンに乗り込みMA αアジールに搭乗したクエスと戦場で出会う。が、αアジールは、チェーンの乗ったMSリ・ガズィに撃墜され、ハサウェイは怒りのあまりチェーンを撃ち殺す。その時、チェーンの腰のサイコフレームから光が……。

一方、アムロとシャアはMSで、そして生身で、互いを批判しながら戦い続ける。シャアのMSサザビーはついに破壊され、脱出ポッドはレガンダムの手の中に。だが、アクシズは分断されたものの、後ろ側の破片は爆発のショックで地球に落下することが発覚する。勝ち誇るシャア。それでも、アムロはまだ可

ラー・カイラム



レウルーラ



能性はあると単身アクシズにとりつき、リガンダム1機で落下を止めようとする。

そのころ、各コロニーの連邦軍から援軍が到着。それはまるでサイコフレームの光りの影響を受けたようなタイミングであった。次々とアクシズにとりつく連邦のMS。だが、アクシズは止まらない。その時、サイコフレームの光にも似た謎の光がアクシズを包み込み、その軌道を大きく変えていくのだった。そして、その虹のような光を地上から見上げる人たちがいた。

時代背景

この年公開された劇場用アニメで、忘れることができないのは「となりのトトロ」と「火垂の幕」である。評価は高かったものの、この時点では決してヒットしなかった2作だが、テレビ放送などを通じて人気を広め現在ではエヴァーグリーン」の地位を占めるに至った。

また「AKIRA」の公開もこの年だ。前年春に「オネアミスの翼 王立宇宙軍」が、翌年夏に「機動警察パトレイバー 劇場版」が

公開されている。'90年代中盤以降に日本のアニメーションのクオリティの高さが話題になるが、その時に話題になるクリエイターは'80年代の爛熟を経て、この時点で一度まとまった作品を発表していたことがわかる。ここで発表された作品は、それぞれの'90年代の作品群の礎となったのだ。

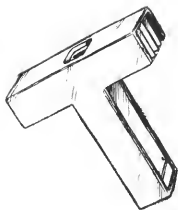
テレビアニメに目を転じれば、SDガンダムの発想を積極的に取り込んだ「魔神英雄伝ワタル」や、「聖闘士星矢」ブームの中から生まれた「鎧伝サムライトルーパー」などがOAされた。この2作品はどちらもサンライズ作品。このほかの話題作は「超音戦士ボークマン」「それいけ!アンパンマン」など。

この年は、リクルートコスモス株の未公開株譲渡事件が政治問題化。ソ連ではベレストロイカが始まり、ビルマは軍事政権が成立し国名を「ミャンマー」に変更した。韓国ではソウルオリンピックが開催された。

ゲーム「ドラゴンクエストⅢ」が発売され、今や競馬評論家の顔ばかりがメディアに流布してしまった高橋源一郎が三島賞受賞作「優雅で感傷的な日本野球」を発表した。



「AERA」「SPA!」「Hanako」の創刊もこの年の出来事であった。



プラモデル界 のガンダムたち

プラモデルをバックボーンにすることで、新たな世界を描いた作品がある。バンダイとモデルグラフィックス誌が企画した「ガンダム・センチネル」はその最たるものだろう。

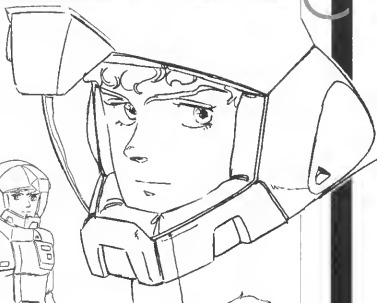
この作品はガンダムZZと同時期の知られざる戦乱が舞台で、ミリタリー性を強調した内容になっている。製作総指揮・総監督が現模型文化ライターをあさのまさひこ氏が担当し、原作が高橋昌也氏、メカデザイン・考証をカトキハジメ氏が受け持った。

これは単にプラモデル主導の企画を超えて、ガ

ンダムZZ終了後、袋小路に陥ったガンダムシーンに対して、フラストレーションを感じていた次世代のクリエイターがぶつけた、「カンフル剤」(あさの氏)であったのだ。

このほか、F91からスピノフする形で、前史を扱った「F90」、知られざる開発秘話「シルエツトフォーミュラ91」という2つの企画もあった。

主要キャラクター



主人公 アムロ・レイ

一年戦争の英雄、グリプス戦役のエースパイロットだったアムロも29歳。地球連邦軍独立部隊口ンドベルの大尉である。宿敵シャアはネオ・ジオン総帥として彼の前に立ち塞がる



ララァ・スン

アムロとシャアの行動理念は、ララァの残留理念に支配されていたこの作品そのものが、ララァを巡る決着なのかもしれない



親子関係

フライトとハサウェイという親子もいるがこの作品では、アムロとシャアをしてクエスの関係こそが「親子関係」なのだ。クエスは親代わりの存在を求めている。だが、アムロは親代わりはできないとそっけない。しかし、シャアは彼女のニュータイプ才能を生かしたいがために、わざと彼女を甘やかす。そして、それを理解することができない無邪気さ故に、クエスは悲劇へと進まざるを得ない。また、この映画はシャア、いやキヤスバルがこつこつと映画でもある。父の名前を継ぐのは辛い。ララァは私の母になつてくれるかもしれない女性だ。ここまで本音を漏らすアニメキャラもそういない。



ハサウェイ・ノア

地球から宇宙に上がった
ブライトの息子。ク
ェスと知り合いニュー
タイプとしての片鱗
ものぞかせたが、
ラーカイラムに突
り込み悲劇を生
む

シャトルに乘れ
ずブライトとハサ
ウェイの活躍を知るのみ
であった

ミライ・ノアと チェーミン・ノア

ブライト・ノア

独立部隊 Rond・ベルを
率い地球の為に戦い続け
る。ラーカイラムの艦長
として沉着冷静な指揮官
として活躍するが、ハサ
ウェイの父としての側面
も見える



チェーン・アギ



アムロに好意を寄せ
る技術士官。ガンダ
ムの調整に能力を発揮
する



ケーラ・スウ

Rond・ベルのパイロットでアストナ
ーシとはいい仲だったが、ギョウネイに
殺される

地球連邦の役人でありながら、悪敵の
ブライトの運命を信じ援けを提供する。
ミライを今も想っている様子だ



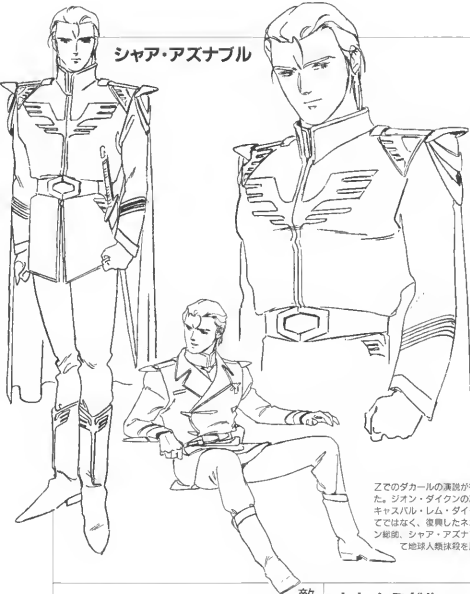
カムラン・ブルーム

政府高官たち

彼らのその場凌ぎの政策を見るにつ
れシャアの行動は正しいのではと思
えてしまうのは
悲しい



シャア・アズナブル



Zでのダカールの演説が彼を変えた。ジョン・ダイクンの悲れ形見キャスバル・レム・ダイクンとしてではなく、復興したネオ・ジオン総帥、シャア・アズナブルとして地球人類抹殺を計画する

敵

シャアは、連邦の腐敗を知り、過激な世直しをはかろうとしている。その論理は明晰だ。「愚民は決して変わることはできない」。このニヒリズムが染み付いた感情こそが彼を支配している。そして、その底にはその愚民倒にあまりに無邪気に立ちすくんでいるアムロへのいらだちが明らかに含まれている。

そして、アムロがその論理を改めて否定にしにかかった時、シャアはつい「私は世直しなど考えていない」という本音を吐露してしまう。この映画のシャアII敵の論理というのは、合理的ではあるが彼の本音ではないのだ。彼らの戦いとは、論理の衝突ではなく、もっとと生々しい人間のぶつかり合いなのである。

ナナイ・ミゲル



ニュータイプ研究所の責任者としてシャアをサポートする。シャアとは悪人であるが、クェス・バラヤの出現に心を乱される



クェス・バラヤ

魂の自由な少女。政府高官である父アテナウア一の小心ぶりに嫌気がさし、ハサウェイと同じシャトルだったことから行動を共にするが、シャアにニュータイプとしての素質を引き出されアムロ達の敵となる

クェスの両親

娘の心を理解できないまま世間体を優先させて、クェスに去られてしまった

クリスティーナ

強化人間としての自負を持ちシャアすら超えようとするが……

ギユネイ・ガス

シャアの側近

ネオ・ジオン総帥として働くシャアをサポート

ネオ・ジオンの引き上げの士官。ニュータイプや強化人間に不信を持っている

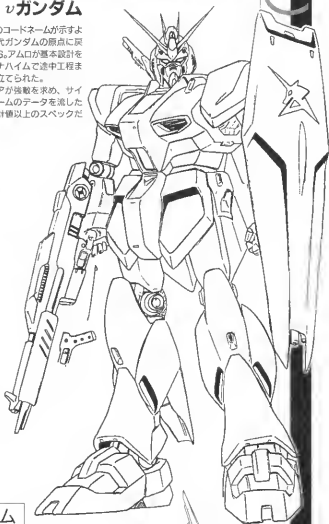
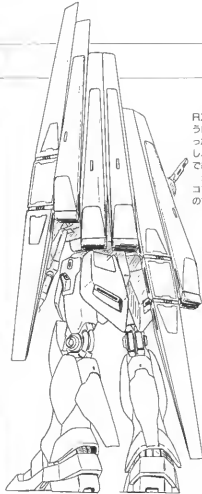
レズン・シュナイダー

主要MSとメカ

vガンダム

RX93のコードネームが示すように初代ガンダムの原点に戻ったMS。アムロが基本設計をし、アナハイムで途中工程まで組み立てられた。

シャアが強敵を求め、サイコフレームのデータを流したので設計値以上のスペックだ

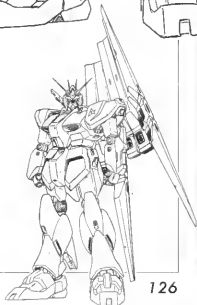


vガンダム

前作に当たるガンダムZZとは違ってかわった非常にシンプルなガンダム像である。設計思想的に初代ガンダムをベースにしたという設定からもわかるように、進化に行き詰まった上での原点回帰といえるだろう。

最大の特徴はマントのように背中にしよったフィン・ファンネル。自機の周囲に展開すればバリアを張ることも可能という攻守兼用の装備である。またサイコ・フレームを装備したことで、パイロットの意志がより素早く機体に反応するようになっている。

頭部のバルカン砲は豪華が側頭部から廃棄される仕組み。この廃棄シーンは、本編よりも予告編のほうが印象深いかもしれない。





リ・ガスイ

νガンダム完成までアムロの愛機だったガンダム。Zガンダムの量産計画機だがこの試作のみで終わった。Zの敵対の機動性を持つ変形MSである

バックウェポン・システム

複雑な変形機構をバックウェポンに仕込みコストダウンを図ったが量産には至らなかった



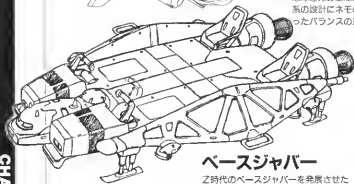
ダミーMS



ミノフスキー粒子の中でレーザーが正確に使えないのを利用したダミー。肉眼で見ると騙される

ジェガン

地球連邦の量産主力MS。GM系の設計にネモの設計思想が入ったバランスの良い機体である

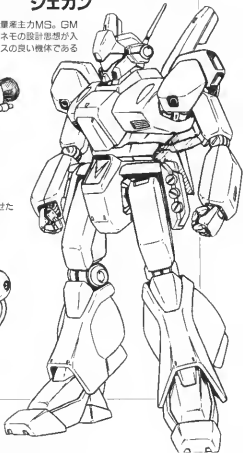
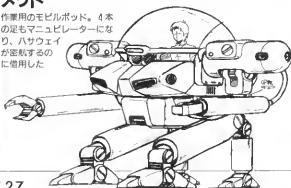


ベースジャバー

Z時代のベースジャバーを発展させたMS連衛サブフライトシステム

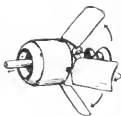
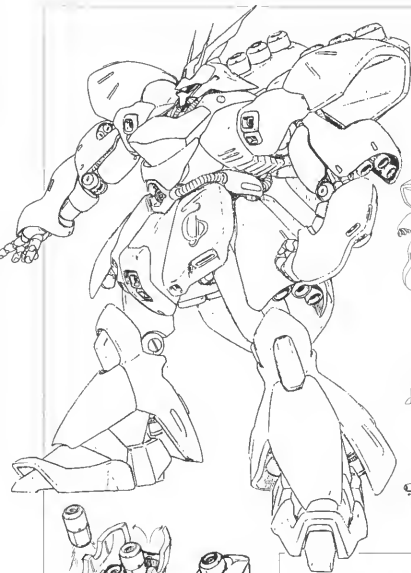
メッド

作業用のモビルポッド。4本の足もマニピュレーターになり、ハサウェイが密着するのに借用した



サザビー

ニュータイプ専用MSで
シャアの愛機。新技術サ
イコフレームの採用で驚
異的な反応速度があり、
他を寄せ付けない機動性
能を誇る。両肩に3機づ
つ装備されたファンネル
によりオールレンジ攻撃
が可能。MSN-04

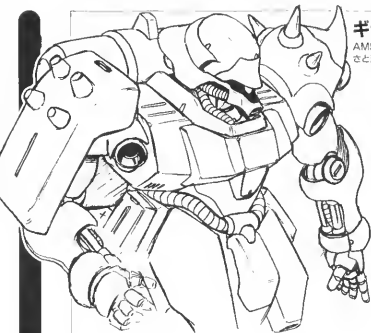


ネオ・ジオン

ネオ・ジオン側も、旧ジオンの系譜を直接
受け継いだシルエットのMSとなっている。
特に、主に一般兵士が搭乗するギラ・ドーガ
は、左肩のスバイクアーマー、右肩の盾、そ
れにグリーンの機体色から、明らかにザクの
イメージを引き継いだデザインだ。

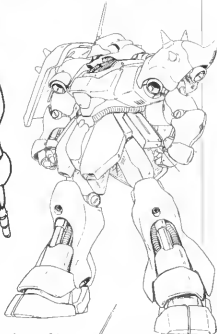
ヤクト・ドーガ、サザビーはファンネルを
標準装備したニュータイプ用の機体。ヤクト・
ドーガの盾にビームが仕込まれているのは、
ギャンの流れを汲むものだろうか。

逆襲のシャアの戦闘は宇宙だけだったが、こ
れらネオ・ジオンのMSが、地上戦で使われ
たらどのように進化・変化していったかも、
歴史の1Fとして興味のあるところだ。



ギラ・ドーガ

AMS-119。ネオ・ジオンの量産MS。基本性能の高さと汎用性では、一般MSとして最強と言える



ヤクト・ドーガ

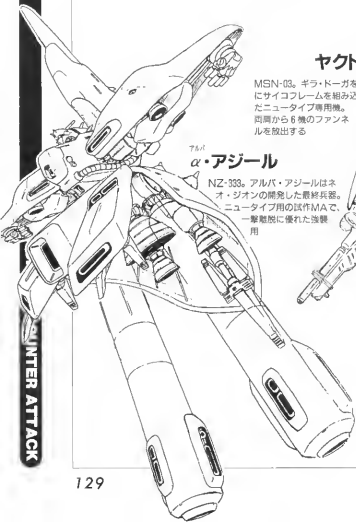
MSN-03。ギラ・ドーガを基本にサイコフレームを組み込んだニュータイプ専用機。両肩から6機のファンネルを放出する



アルバ

α・アジール

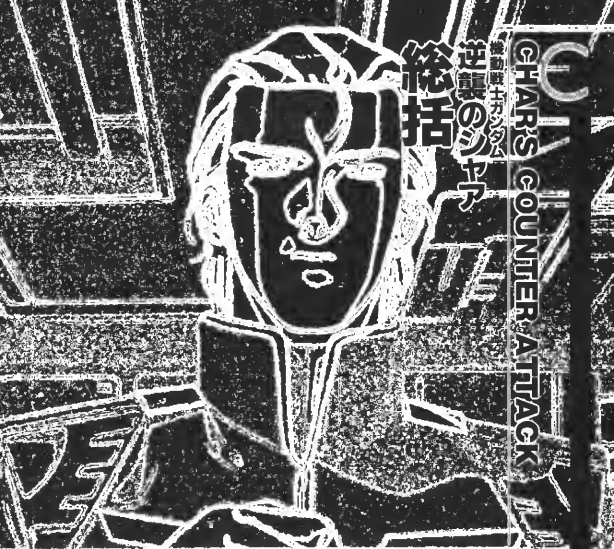
NZ-333。アルバ・アジールはネオ・ジオンの開発した最終兵器。ニュータイプ用の試作MAで、一撃離脱に優れた攻撃用



CHAR'S COUNTER ATTACK

機動戦士ガンダム
逆襲のシヤア

総括



初代ガンダムから始まったアムロとシヤアの戦いに決着をつける——本作は必ずこのように解説される。また、富野作品の中でも監督の本音が強く出た作品、特にシヤアの「人類粛正」などのセリフに監督の思いが込められた作品、とも認知されている。

このように「作家、富野由悠季の作品」という評価がある一方で、この作品が誰もが楽しめる映画、監督の語るところのオープン・エンターテインメントを強く意識して製作されたことも忘れてはならないだろう。

例えば、この映画は、Zガンダム、ガンダムZZ以降の物語にも関わらず、その2作を見なくても、初代ガンダムの続きとしてそのまま物語に入り込めるように出来ている。また、Zガンダムで登場したベルトーチカとアムロが同棲しているという初期設定を廃し、新たにチェーン・アギという彼女を登場させたのも「ヒーローは所帯臭くないほうが魅力的」というオープン・エンターテインメントの公式を意識した産物であった。なお、この初期設定による物語は角川スニーカー文庫版「逆襲のシヤア」に描かれている。



ここでは、エンターテインメントと作家性の狭間の中で逆襲のシヤアがどんな映画だったのか、それを3つのポイントで考えたい。

まず指摘したいのは、逆襲のシヤアは戦争映画であるということだ。戦争映画の多くが、不可能な作戦の物語であることは「遠すぎた橋」や「フライベート・ライアン」といった戦争映画の系譜を見れば明かだ。だから、シヤアのアクシズ落としに對し、後れをとったブライト率いるロンド・ベル隊が果たしてそれを阻止できるのか、という映画後半を支えるサスペンスは正にセオリー通りなのである。さらに重要なのは、この映画では戦争の開戦や終戦にはほとんど言及しないことである。それはまるで、この物語が年代記的に歴史のなかに取り込まれるのを拒否しているようだ。映画の中では、歴史の一コマではなく、いつ終わるともしれぬ戦争だけを描いていく。最初と最後をナレーションが締めくくった初代ガンダムとは対照的だが、これには後述するようににそれなりの意図があったと考えられる。

また、逆襲のシヤアは、正々堂々たるロボットアニメでもある。

これは脚本家の倉川昇氏が既に指摘したように「ロボットの性能差に起因する攻防」を非常に丁寧に描いているからだ。性能の劣るリ・ガズィでシヤアのサザビーに事実上の敗退を喫したアムロは、より高性能なガンダムで再びシヤアに挑む。この2機は、互いの持てる性能をフルに活用して正面からぶつかり合い、最終的にはMS同士の肉弾戦に至る。この2機以外でも、ワイヤーで捉えて電撃を食らわすという敵メカお馴染みの攻撃シーンも登場して、映画の記憶ならぬロボットアニメの記憶を蘇らせてみせる。本作は、Zガンダム、ガンダムZZで、ビーム兵器の応酬ばかりが目立ったMS戦に、改めてロボット物の戦闘における基本的なダイナミズムを取り込んだのだ。

すると、組立中のガンダムの顔にタイトルが被さる冒頭のシーン（この映画最初のアップは何とMSなのだ！）は、ロボットなしではこの映画は成立しないという「ロボットアニメ宣言」であったことが分かる。

そして3つ目は、この映画が奇蹟の物語であるということだ。



アクシズがサイコフレームの光につつまれ、衝突コースを外れるという奇蹟を描いたラストシーン。その直前にシヤアはラアラに対する本音を吐露し、アムロがそれに驚く。そしてその後は、誰もが目前の現象に驚くだけで、説明も感想も語れないまま、映画は完結する。何故クライマックスに至って富野監督はこれほどに寡黙になったのだろうか？

初代ガンダムの中に、富野監督は「愛」という言葉を徹底的に排除したという。それは、先行する「宇宙戦艦ヤマト」へのアンチテーゼだったのだが、もちろん言葉の排除と「愛情」を描写しないことはイコールではない。

先に書いたとおり、この作品は富野監督とシヤアの本音のシンクロばかりがクローズアップされることが多い。だが初代ガンダムの「愛」にまつわるエピソードを思い出すなら、言葉に慎重な富野監督がこのラストシーンで「何を語ったか」ではなく「何を語らなかつたのか」「何故沈黙したのか」について考えてみるのも無駄ではないだろう。

映画評論家の畑中佳樹氏は著書「夢のあとで映画が始まる」の中で、映画と言葉の関係

について以下のように書いている。少し長いが引用してみよう。「信じるとは知性の問題ではなく、感情の問題であるともう一度言いたい。チャップリンの演説に感動できないもの、『未知との遭遇』や『アビス』に感動できないもの、UFOを信じられないもの、神を信じられないものは、実はみな、ことばが、知性が、躓きの石になっている。ことばしか信じない書斎型の人間にことばを信じさせるのはホネである。一方、音楽や映画といった官能の原野で元気に運動してきた人間にとっては、心の中に生起する感動こそが主要な現実なので、ことばでさえ感動に翻訳して受け止める。ことばは、音楽であり、光の一閃である。」奇蹟とは説明されるものではない。目前で起きてしまったことが奇蹟になるのだ。

サイコフレームの光による奇蹟は、むしろ劇中で説明されなかったからこそ一つの官能あるいは現実として奇蹟を観客に示すことができた。言葉にしたらウソになるのは「愛」だけではない。先述したとおり、ナレーションで物語を締めくくらないのも、富野監督がこの奇蹟を現実として信じてはしかなかったから



ではないだろうか。

ロボットの登場する劇場アニメは多いが、この奇蹟の描写を官能だけで描いた一点において、逆襲のシャアは映画そのものである。



機動戦士ガンダム
逆襲のシャア
スタッフリスト

●1988年3月12日 松竹系公開

STAFF

企画・製作 サンライズ
製作協力 サンライズ 創通エージェンシー
名古屋テレビ放送 バンダイ

製作 伊藤昌典

企画 山浦栄二

原作・脚本・監督 富野由悠季

音楽 三枝成章

主題歌「BEYOND THE TIME～メビウスの宇宙(そら)を越えて～」 歌/TMネットワーク

プロデューサー 内田健二

キャラクターデザイン 北爪宏幸

モビルスーツデザイン 出淵 裕

メカニカルデザイン ガイナックス 佐山善則

作画監督 稻野義信 北爪宏幸 南伸一郎

山田きさらか 大森英敏

小田川幹雄 仙波隆綱

美術監督 池田繁美

撮影監督 古林一太 奥井 敦

音響監督 藤野貞義

デザイン協力 大畑晃一

作監協力 恩田尚之 中沢敦宣

小林利充

動画チェック 向山祐治 工藤千恵子

加藤ひろし

動画チェック補 川田栄三 ほか

アニメーター スタジオ・ダブ

古泉浩司 中野英佐緒

スタジオ・マーク ほか

佐藤英幸 梅津泰臣

コンピューターグラフィックス TOYO=LINKS=CORP.

プロデューサー/小高金次

ディレクター/林 弘幸

協力/IMAGCA

撮影 旭プロダクション

橘谷一展 長谷川洋一 刑部 徹

谷口久美子 酒井幸徳 伊藤修一

編集 布施由美子(井上編集室)

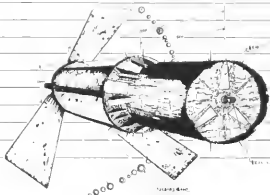
編集協力 トランスアーツ 東京ムービー



音響制作 千田勝子
 音響助手 依田肇良 中井 聡
 大谷六良 堀島弘典
 録音 テレビセンター
 現像 東京現像所
 吉野敏浩 河村朝生
 効果 横山正和 小野日弘典
 設定制作 宮田周治
 制作デスク 高森宏治
 制作進行 赤根和樹 池部 茂
 制作宣伝 井口典史 渡辺利治

CAST

アムロ・レイ 古谷 徹
 シャア・アズナブル 池田秀一
 ブライト・ノア 鈴置洋孝
 ケース・バラバ 川村万梨阿
 ハサウェイ・ノア 佐々木望
 チェーン・アギ 弥生みつぎ
 ケーラ・スク 安達 忍
 アストナージ・メドソン 広森信吾
 ナナイ・ミゲル 榎原良子
 ギュネイ・ガス 山寺宏一
 レズン・シュナイダー 伊倉一恵
 ミライ・ヤシマ(ノア) 白石冬美
 チェーミン・ノア 莊真由美
 カムラン・ブルーム 村山 明
 オクトバー・サラン 牛山 茂
 アデナウアー・バラバ 嶋 俊介
 ララァ・スン 潘 恵子



コロニー スウィート ウォーター

MS支援 メカニズム①

一年戦争当時、ジオン軍は新兵器であるザクの徹底的な運用を研究していた。巡洋艦ムサイは、船内にMS格納庫を持ち、敵と邂逅する時にザクを発進させるという空母思想を持つ船であった。

シャアのムサイは、標準型と多少違うので断言できないが、船内に4機、コムサイに4機のザクを搭載していた。仮に3機が定数だとしても、かなりの戦力である。ザク3機とムサイが軌道上で戦闘しつつ、コムサイに搭載された3機のザクが地球に進攻可能なのである。

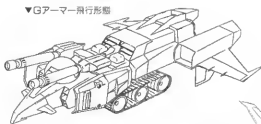
また地上にはガウ攻撃空母がいた。幸いにもWBが汎用性が高く、どの事態にも対処できたからいいが、MSの運用についてはジオンが一歩リードしていたのは否めないだろう。

ここでは、MSを支援するために開発された機動性を向上させるメカニズムを紹介してみよう。

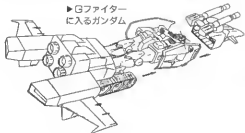
ガンペリーは連邦軍初の支援メカであるが、これは輸送機ではない。ガンダムまたはパーツを運搬する大気圏輸送機だ。

これに対して、ジオン軍のドダイ重爆撃機は、ヒョウタンから駒で、当初の目的よりも便利な運用が可能であった。

▼Gアーマー飛行形態



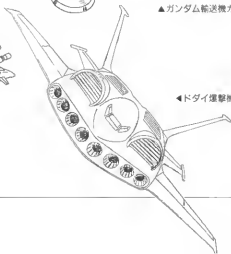
▶Gファイター
に入るガンダム



▲ガンダム輸送機ガンペリー



◀ドダイ重撃機



もともとは対地攻撃、それも連邦軍の要塞攻撃を目的に開発された、多量の爆弾とミサイルを運搬する爆撃機である。あなたは、ジオンの航空機の特徴を覚えておられるだろうか？

そう、空力を無視したフォルムを異常とも言える推力で無理やり飛行させているのである。この過剰推力を利用し、MSを上に乗せて飛行する。素早い展開が可能になり、MSの行動範囲が一挙に拡大する恐ろしい支援メカであった。

ドダイに乗るグフに苦戦するガンダムに屈けられたのが、お待ちかねのGファイター。単純に説明すれば、ガンダムをすっぽり包む重戦闘機なのだが、コアブロックを中心に上半身と下半身が合体するガンダムに合わせてあるから組み合わせが無数にある。Gファイターの上にガンダムを乗せて飛行するも、合体して戦場に到着してから分離するも自由自在である。32話のように、Gファイター後部を履いて疑似MA状態で出撃するガンダムという高々な合体も可能になるのだ。

Zになるとドダイの発展形態で「サブフライトシステム」が一気に開花している。主な改良点はMSから直接操縦ができることであった。

▼ベースジャバー

▲GパーツBを履いたガンダム

▲▲ドダイ改

◀シャクルズ

MS支援 メカニズム②

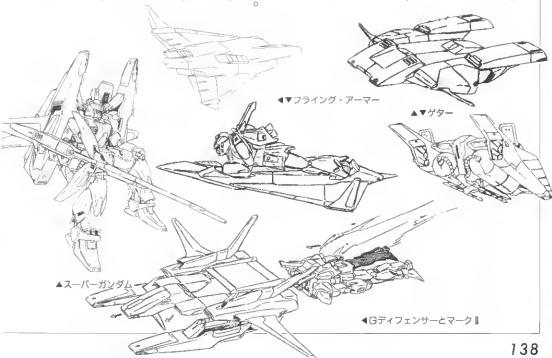
Zガンダムに登場するMSとMAは、変形する機体が多くなったので、量産型MSを支援するサブフライトシステムは地味な扱いであったが、大気圏内用宇宙空間用がそれぞれ登場している。

まずエウーゴが、そのものずばりのドダイ改、ティターンズがベースジャバーを大気圏内で使用した。さらに両軍ともに、宇宙空間で量産タイプのMSを搬送するシステムも活用している。

エウーゴはシャクルズを、ティターンズはゲッターを活用していたのだ。

量産MSですら、そうなのだから前半の主役メカであるガンダムマークⅡには、11話で専用の支援メカ、フライング・アーマーも開発されている。これは、大気圏突入も可能であった。突入するだけのバリュートシステムとは違い、ある程度の自由行動が取れるので大気圏突入時に戦闘すら体験している支援システムである。

ZZの登場により、影の薄くなったマークⅡには、22話より新たに支援戦闘メカGディフェンサーが配備された。これにより、マークⅡの戦闘力は桁違いに向上する。なにしろ合体したままのマークⅡは別種のMSとして認識され「スーパーガ



ンダム」と呼ばれるのである。

一方、カミーユの設計したZガンダムは、ウェーブライダー形態に変形し、大気圏突入時や地球上では機動性が上がるものの「変形MS」と分類されている。宇宙空間では、早そうに見えるがMS単体と機動性能はそう変わらないからである。

ウェーブライダーよりも一回り大きいスーツ・キャリアは、MSを遠距離に輸送できるし、武装もそこそこの支援メカニズムで、この種のサブフライントシステムのひとつの完成形態であった。

ZZで登場したメガライダーは、一風変わった形状であるが、その破壊力は侮れない。ZZのメガ粒子砲に匹敵するメガランチャーが装備された自走砲であるが、なんとMSがバイクのように跳がり、そのまま操縦も攻撃も自在にできるという最強のMS支援兵器であった。

最後にZ時代と名称は同じなのだが、かなりリアルにリニューアルされた支援メカを紹介しよう。「逆襲のシャア」で Rondel の MS 隊が使ったベイス・ジャパーと、ネオ・ジオンの MS 隊が使ったシャクルズである。MS 単機では移動不可能な距離を、高速移動する描写が斬新であった。

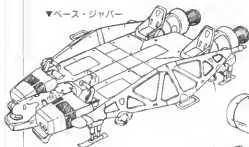
▶メガライダー



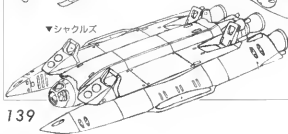
▼ウェーブライダー



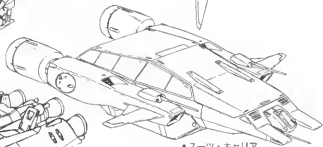
▼ベイス・ジャパー



▼シャクルズ



▲スーツ・キャリア



劇場用作品
機動戦士ガンダム
逆襲のシャア
ビデオ・LDガイド

発売・販売 パンダイビジュアル(株)

※価格はすべて税別です。



LD

5,631円

BES-376

©創通エージェン

シー・サンライズ



ビデオ

(販売専用)

4,660円

BES-556

©創通エージェン

シー・サンライズ



第5章

機動戦士ガンダムF91



1991



「機動戦士ガンダムF91」は、「逆襲のシャア」に続く完全新作の劇場版として、'91年春に公開された。「逆襲のシャア」でケリをつけたアムロとシャアのエピソードとは全く関係のない新たな物語をスタートさせるため、年代を40年ほど後に設定するという試みが行われた。また、キャラクターデザインにはΖガンダム以来、久々に安彦良和氏が参加したのも話題になった。

この映画からテレビシリーズへと展開することも想定され、物語に一応の決着はつくものの戦争は終結せず、ラストに「THIS IS ONLY THE BEGINNING」というテロップが出る。が、その後の物語がフィルムで語られることはなかった。なお、全ての戦争が終わった10年後のエピソードを描いたコミックス「機動戦士クロスボーンガンダム」(長谷川裕一・画)がある。

舞台設定

U.C. 0123年。新造コロニー、フロンティアサイドで物語は始まる。コスモ貴族主



義を標榜するロナ家を中心に組織された武装集団、クロスボーン・バンガード（C・V）が、フロンティアIVを占領しコスモ・パビロニアの建国を宣言。その戦争に巻き込まれたハイスクールの生徒、シーブック・アノーと、彼の同級生で実はロナ家の血を引いていたセシリー・フェアチャイルド（ベラ・ロナ）を軸に物語は展開する。

本作ではこれまでの現実を反映した主人公像から半歩前に進み、現実を反映した状況にありながらもスポイルされなかった住き少年、住き少女を描こうとしている。そのあたりは、シーブックⅡ見本、フェアチャイルドⅡ公正な子供、という深読みも許されるであろう。

連邦はシャアの反乱以降、さらに腐敗を極め、C・Vの軍事活動も、スペースノイド同上の抗争としか捉えないほど感覚が麻痺していた。この危機意識の差は、MSの開発においても明らかだった。

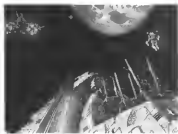
従来のMSが18〜20mのサイズであったのに対してC・Vは一回り小さい15m級のMSを開発、小型化した分の余剰出力でビーム・シールドを可能にするほど高性能な機体を開

発していた。連邦でも小型化に対する取り組みは進んでいたが、制式採用されている機体は、シャアの反乱の時に使われていたジェガンタイプがまだ多い状況であり、兵士の上気の問題も含めC・VのMSの敵ではなかった。この小型MS、ビームシールドというアイディアは、本作の30年後に設定されているVガンダムにも継承されている。

今回のメインメカ、F91は、サナリイ（海軍戦略研究所）で開発されたという設定で、Zガンダム、ZZガンダム、Vガンダムといったアナハイム・エレクトロニクス社製のRX系MSではない。その点で厳密には、ガンダムではないが、フェイスが似ていることから、ガンダムの愛称で呼ばれることになる。このあたりも、逆襲のシャアまでの作品と一線を画そうという姿勢が見られる。

物語

地球と月の間にあるラグランジェ・ポイントでは、新たなスペースコロニー、フロンティア・サイドの建設が進んでいた。シーブック



ク・アノーは、そのなかの一つ、フロンティアⅣに暮らすハイスクールの生徒だった。

そんなある日、学園祭のミス・カントリィサイドのコンテストの最中、フロンティアⅣは謎の軍隊の襲撃を受ける。小型で高性能のMSを扱う謎の集団こそ、コスモ・バビロニアの建国を目指すC・Vであった。平和になれてしまい、奇襲に取り乱した連邦軍は、彼らの敵ではなかった。

シーブックは妹のリイズや、同級生のセシリィらと戦いを避けながら、戦争博物館に残された変形MSなどを操って、コロニーの外壁部分まで移動。スペースポートではかのコロニーへと脱出しようとする。その準備の最中、セシリィがC・VのMSにさらわれそうになる。彼女は実は、C・Vを組織したロナ家の娘であり、MSは彼女を迎えにきたのだ。彼女の義父、シオは彼女をロナ家に渡そうとし、シーブックはそれを止めようとして撃たれる。セシリィはそのままC・Vに招かれ、傷ついたシーブックたちはフロンティアⅣまで移動することに成功する。

C・Vは、フロンティアⅣを占領すると、

コスモ・バビロニアの建国を宣言する。彼らはコスモ貴族主義にのつとめた国造りが目的であった。コスモ貴族主義とは、つまるところ「高貴なる義務（ノブール・オブリーゲーション）を自覚した貴族が、大衆の手となり導く」という思想である。これはC・Vを組織したロナ家が、退廃していく人類に必要なものとして考え出したものである。

ロナ家に迎えられたセシリィは、彼女の祖父、マイッツァーと再会する。彼女の母、ナディアは、実父であるマイッツァーの思想を受け入れられず、養子としてロナ家に入ったカロツを捨て、セシリィを連れてシオと駆け落ちしたのだった。

マイッツァーは、セシリィにコスモ・バビロニアの象徴を演じてくれと頼む。人々にはアイドルが必要だ」と。遠慮するセシリィだったが、シーブックの生死を知る術もない彼女はほかに生きる道もなく、ロナ家の長女ベラ・ロナとなる決意して髪を切る。そして、MSビギナ・ギナにパイロットとして乗り込むのであった。

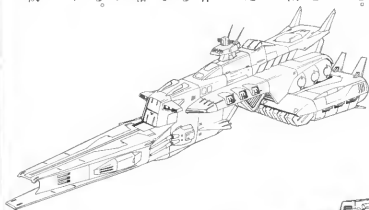
一方フロンティアⅠは、駐留していた連邦



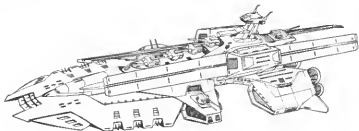
軍の生き残り部隊やゲリラが終結し、C・V抵抗の拠点となりつつあった。人手不足から戦闘を手伝わされることになったシーブックは、F91の操縦者として出撃することになり、大きな戦果を挙げる。F91はシーブックとリイズの母親がつくったMSだった。リイズはF91のマニアルビデオで離れて久しい母親に再会し、そこに親子の情を感じるのだった。フロンティアIVに潜入したシーブックは、ペラ・ロナを名乗るようになったセシリーと再会、ショックを受ける。そして、父とも出会うが戦闘の中で死ぬ。瀕死の父はシーブックに、母も自分も子供達をいかに愛していたかを告げるのだった。

そしてC・Vのフロンティアへの侵攻作戦が始まった。戦場で敵味方としてまみえるシーブックとセシリー。シーブックの説得でセシリーは投降を受け入れる。戦闘も一段落したかに見えたが、鉄仮面を名乗るカロウツは無差別殺戮兵器バグのテストを発動させる。その無惨な光景を目にしたセシリーとシーブックは、その大本であるC・Vの旗艦サムス・ガルを目指し、落とす。が、その直後、鉄仮

スペース・アーク



サムス・カル





面が操縦するMAラフレシアが2人の前に立ちふさがるのがだった。

戦闘の最中、宇宙に投げ出されるセシリー・フルバワーとなったF91は咆哮し、質量を持った影でラフレシアを惑わし、撃墜する。行方不明になったセシリーを取り乱しながらも探すシーブックに、再会した母モニカはアドバイスをする。そして、センサーでもみつかることのできなかったセシリーの光を、シーブックは肉眼で見つけ出す。

旗艦とラフレシアを失ったものの連邦軍を叩いたC・Vは月を目前にした空間に凱旋していくのだった。

時代背景

この年に公開されたアニメーション映画ではスタジオアブリの「おもひでぼろぼろ」がヒットしたほか「サイレントメビウス」「アルスラーン戦記」が話題になった。テレビ・シリーズでは庵野秀明監督の2作目になる「ふしぎの海のナディア」がOAされ、ファンの圧倒的支持を得た。

サンライズ作品では今もビデオシリーズで継続する「新世紀G.P.X.サイバーフォーミュラ」や「絶対無敵ライジンオー」があった。ビッグニュースとしては湾岸戦争が筆頭。

テレビ中継された空爆の映像や、ミサイル先端にとりつけられたカメラの映像は、多くの人にインパクトを与えた。また、ソ連崩壊もこの年の出来事である。

鈴木光司の傑作ホラー「リング」の続編「らせん」、宮沢りえのモード写真集「サンタ・フエ」が話題になる一方で、ツインピークス・ブームが起り、カルトな存在だったデビッド・リンチ監督の名前が一躍広まった。クエンティン・タランティーノ監督も「レザボア・ドッグス」で一躍注目を浴びた。

なお、バンナム航空の倒産もこの年。映画「2001年宇宙の旅」で描かれた、バンナムのシャトルで月に行くという光景はこれで実現することがなくなってしまう。

ガンダム音楽の変遷

初代ガンダムの音楽担当は、「ザンボット3」「ダイターン3」でも音楽を担当した故・渡辺岳夫、松山祐士のコンビ。渡辺氏は「アルプスの少女ハイジ」などの音楽を担当したベテランで、松山氏はその弟子筋にあたる。その主に静的なドラマ部分に厚みを持たせるような曲を渡辺氏が、戦闘シーンなどを盛り上げるような曲を渡辺氏が作曲するという役割分担で行われた。

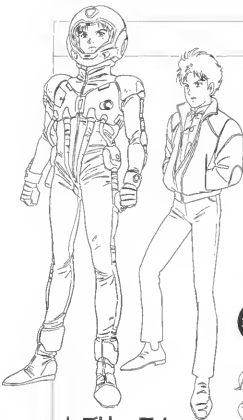
続いて、Zガンダム、ガンダムZZ、逆襲のシャアまでの音楽は、三枝成章氏が担当した。三枝氏は、深夜番組「11PM」の司会なども務めるなど今以上にタレントとしての活動が目立っていた時期で、'86年には斉藤由貴が主演した朝の連続テレビ小説「はね駒」の音楽も担当していた。氏の音楽は物語に寄り添うような静かに流れつつも、いざというときには甘い旋律で正攻法に感動を誘うのが特徴といえるだろう。'98年末には「Synphonic GUNDAM 1979〜1998」に富野監督とともにゲスト出演している。

ガンダムF91は、サザンオールスターズ、工藤静香、Winkなどのアレンジなどを手がけていた門倉聡氏が作曲。コスモ貴族主義、コスモ・バビロニアといった言葉から醸し出される荘重な雰囲気には負けないだけの、ハリウッド映画のような壮大で正統派の劇伴でドラマを盛り上げた。

Vガンダムは、千住明氏が音楽を担当。ドラマの劇伴などで人気を集める千住氏の音楽は、繊細な旋律で作品世界に厚みを与えた。全体に切なくなるような音楽が多いように感じるのは、作品のイメージのせいだ。

こうしてガンダムシリーズの音楽を俯瞰して改めて気づかされるのは、きわめて正統派の音楽ばかりだということだ。作品同様、音楽も目先の派手さではなくきわめて普遍的なものを目指しており、それがガンダムの世界を見事に補完しているのである。

主要キャラクター



ごく普通の17歳の高校生。
自分の住むフロンティア
コロニーが襲撃を受け、
逃げ回るうちに、F91を
操縦するパイロットにな
る。母の設計したガンダ
ムが、妹の助言で起動し
恋人であるセシリーを助
けるという典型的な主役
を演じる



主人公 シーブック・アノー

レスリー・アノー



軍で合金開発をしていたが、家
族の生活のために溶接工をして
いた。戦乱の中で息子に指針を
残して死んでいく

リズ・アノー



仕事で家庭から離れて暮す
母を疎んじているが、繰取
り歌に母の想いを感じF91
起動のきっかけを作る



親子関係

ガンダムF91はこれまでの作品以上に親子
関係がドラマの前面に押し出された作品だ。
父母が離ればなれになりながらも、それでも
最終的には家族としての一体感を持っている

シーブックの家族。一方、セシリーは義父を
卑屈な小市民と嫌い、母をわがままな女だと
思っている。そして、新たに彼女の目の前に
現れた夫の父カロッソもまた、自分の顔を仮
面で隠すことなしにはC・Vを指揮できない
ほど、自らに自信のない人間であった。

この作品のテーマはこの2人の家族環境の
対比から浮かび上がってくる。こうした対比
の構図はVガンダム、そしてフレンパワード
にも変奏され受け継がれている。

モニカ・アノー

サナリィでF91の開発に
従事する。パイコンデ
ューターの接続方法のビ
デオを子供たちの思い出の
歌に託し、息子への危機を
偶然にも助ける





サム・エルグ

メカニックに強いシーブックの同僚。直情型だがF91を見つけた時には自分で操縦をしようとする責任感の強さはある



ドロシー・ムーア

学園の途中で襲撃され、素手な姿で逃げ回ることが彼女の側面を見る面白い点。親は情報局に勤務する

ドワイト・カムリ

軍高官の息子で生徒会長。選抜時から、リーダーシップを取ろうとするが、日和見的な性格が災いしてカリスマを発揮するには至らなかった



ロイ・ユング

戦争博物館館長。ガンタンクで出撃しアーサーを戦死させる



コチン
避難中に母が死
したため、お母
子でロイに
預かる

リア・マリーバーとミ
ゲン・マウンジ 泣き
虫のミゲンをリアが慰
める避難民コンビ

ジョージ・アズマ
脱出ボートにシーブックの父を収容
するに宇宙遊泳した勇氣ある青年

ベルトー・ロド
リグス 引っ込
み思案な小学生



アーサー・ユング

シーブックの親友だっ
たがロイの口車に乗り、
死亡する運な少年

連邦軍 ノーマル スーツ



レアリー・エドベリ

スペース・アークの艦
長代行。F91の顔を見
てガンダムと命名



ケーン・ソン

スペース・アークの見
習い士官。出世はしそ
うにない性格である

コスモ・ エーゲス

通称コズミック。フロ
C・V抵抗組織のリー
ダーとして
活躍



バルド中尉

フロンティアMに駐留
する連邦士官だが軍人
バカで被害を拡大して
しまう

ビルギット・ ビリヨ

連邦軍パイロット。ヘ
ビーガンを調査し防空
任務をする戦士



マヌエラ・ パノバ

素人同然の腕ながら
スペース・アークの
操縦をする操舵手



ナント・ ルース

難民の子
供達と食事をする気さ
くなオヤジ



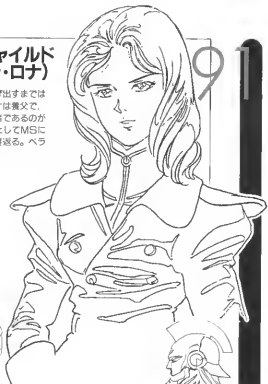
グルス・ エラス

スペース・アークのメ
カニックとしてF91の
起動に執念を燃やす



セシリー・フェアチャイルド (ペラ・ロナ)

学園祭の襲撃でシーブックと逃げ出すまでは普通の高校生。実はパン屋のシオは養父で、C・Vの中核たるロナ家の後継者であるのが判明。C・VのイメージリーダーとしてMSに乗るが、鉄仮面を裏切り連邦に渡す。ペラ・ロナは本名



マイツアー・ ロナ

セシリーの祖父でコスモバビロニア建国のため人類の90パーセントを駆逐しようとする理想主義者。孫娘をアイドルにする



ナディア・ ロナ

セシリーの母。シオ程度の男と駆け落ちするくらいだから鉄仮面はそれ以下だったのだ



ナディアと駆け落ちして、ペラ・ロナをセシリーとして育てるパン屋の親父。結局C・Vに殺された

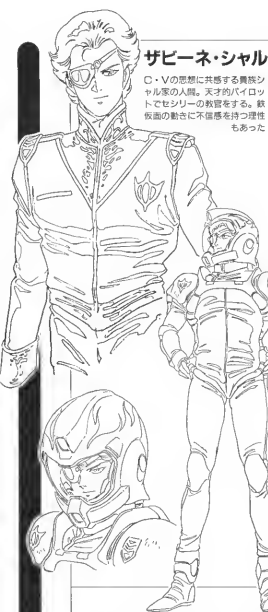
シオ・ フェアチャイルド



鉄仮面 (カロツソ・ロナ)

セシリーの父だが、妻を奪取られたのを恥じ仮面を被ったC・Vの実質的な指導者。人類抹殺を図り、自ら強化人間としてラフレシアに搭乗するが、実の娘にも見捨てられる





ザビーネ・シャル

〇・Vの思想に共感する貴族シャル家の人間。天才的パイロットでセシリーの教官をする。鉄板面の動きに不信感を持つ理性もあった



ドレル・ロナ

鉄板面が、嫡養子としてロナ家に来た時の連れ子。セシリーの異母兄にあたり、妹を迎えに行く役目を再負う



ジレ・グリューガー



鉄板面の勝さんちゃく



敵

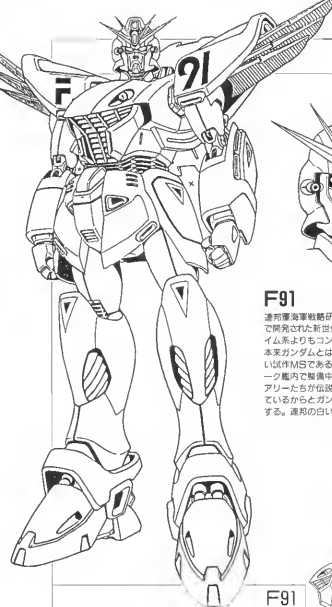
コスモ貴族主義は、ガンダムシリーズの中でも白眉の理論武装である。血を流すことを厭わぬ高貴な意志を持つ「貴族」こそが大衆を導くべきだという論は、昨今の日本の保守化の流れにある。全員は常に平等で、あらゆる生き方に価値があるという相対主義的思考は正しいのか? という論議に酷似している。これはまた、同時に前作、逆襲のシヤアで無理難な地球に住む人々を抹殺すれば次の段階に進めると考えたシヤア、そしてそれに反論したアムロに対する一つの回答でもある。無知な人間は、目覚めた人間が導けばいいのである。そしてそれは明確な答えであると同時に、過去の歴史上の悪行とも似ている。



アンナマリー・プールジュ

物静かな少女だが、見習い士官とは思えない操縦技術がありサビーネに信頼されてセシリーの援護をする





F91

連邦軍海軍戦略研究所(サナリイ)で開発された新世代のMSでアナハイム系よりもコンパクトである。本来ガンダムとはまったく関係ない試作MSであるが、スペース・アーク艦内で整備中のF91を見たレアリーたちが伝説のガンダムに似ているからとガンダムF91と命名する。連邦の白いMSだし……



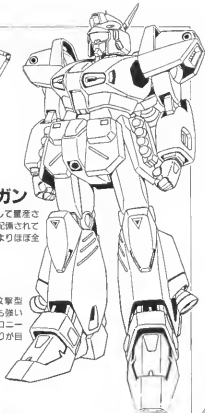
F91

F91はシルエットこそガンダム風だが、小型化されているだけでなく、細部は大幅に異なっている。背中には高出力のビーム兵器、ウェスパーが取り付けられ、肩からは放熱フィンが伸びている。マスクの下に「口」があるのも特徴で、この口は本編中で2回、見るこができる。また、胸から腰にかけての構造は、両胸にある黄色いエアインテークが印象的だった従来とは明らかに違う印象だ。ビームサーベルは、Zガンダムと同様に、腰(左)の部分に装備。胸の部分にはメガマシニングガンと2門ある。胴体部分に武装のある宇宙時代のガンダムは、F91と第08MS小隊のガンダムくらいである。



スペースポート

シーブックたちがフロンティア軍から
脱出するのに使用した非常用ポート。
操縦席以外に15人分のシートがあ
り、避難カプセルにもなる



ヘビーガン

通邦軍がMSの小型化に成功して量産さ
れた。フロンティアⅣに実戦配備され
ていたが、C・Vの奇襲攻撃によりほぼ全
滅状態となる

Gキャン

通邦軍の最新式長距離支援攻撃型
MS。ビームライフルの威力も強い
が、C・Vとの交戦では、コロニー
を破壊してしまうシーンばかりが目
立った

ガンタンク R-44

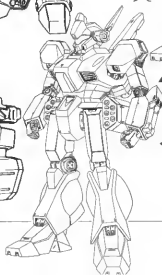
通邦軍の最新式司令官用MS。もっ
と前面に出たのは博物館用の
レプリカをロイが改造してタ
ンクである

ジェガン

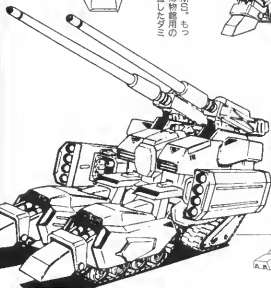
フロンティアⅣに配備されて
いた旧式MS。デザインコン
セプトが30年前のものだし、
機動性も悪く火器も古い。
AタイプとBタイプが存在



▲ジェガンAタイプ



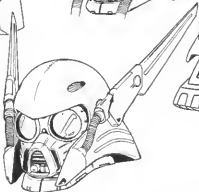
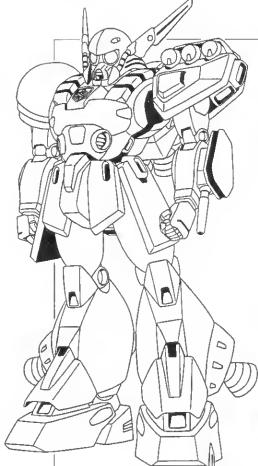
◀ジェガンBタイプ



F91

デナン・ゾン

クロスボーン・バンガードの量産型格闘MS。近距離攻撃では、旧式の連邦軍MSでは太刀打ちできない。黒塗装の機体はブラックバンガードの精鋭が使う



デナン・ゲー

クロスボーン・バンガードの量産型戦闘MS。新技術導入により小型だが強い戦闘力を持つ。クロスボーン・バンガードのMSは、ヘルメットとゴーグルに見える顔部の特徴がある

クロスボーン・バンガード

C・VのMSの特徴の一つは、ゴーグル状のカメラ。モノアイではない新たな敵メカ像への試みだ。もう一つは背中に装備されたMSベルガ・ギロスのシエルフ・ノズルとMSビギナ・ギナのフィン・ノズル。これはいわば動くバーニアで、質量移動とスラスターの機能を併せ持つことで、高い機動性を得る。

C・VのMSは、整備が簡単であり共通武装を使えるように規格化されており、胴体もほぼ同じ構造である

ダギ・イルス



デナン・ゾン

デナン・ゲー

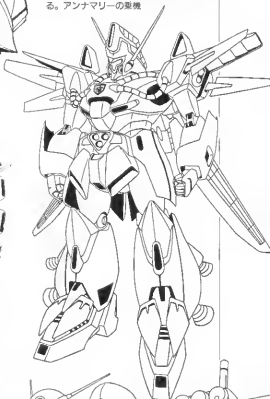
エビルS





ダギ・イルス

Q・Vの誇る偵察用指揮型MS。各種アンテナとセンサーで敵陣深く潜入し強攻偵察も可能なMS。戦闘力もデナン・ゾンよりもある。アンナマリーの聖機

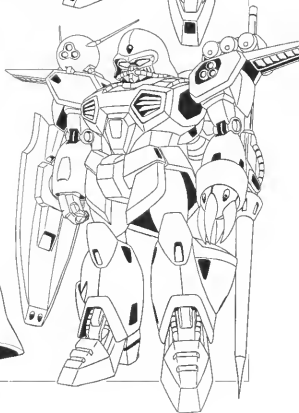


ビギナ・ギナ

ベラ・ロナとなったセシリーの専用機。ロナ家の紋章を付けたカスタムMS。ダギ・イルスの機動力を超える素早い動作が可能

エビルS

Q・Vの強攻偵察MS。戦闘力が高く、敵陣深くで戦闘しながら情報を収集する。それだけに装甲も厚く血路を開いて脱出できる武装も装備されているのが特徴

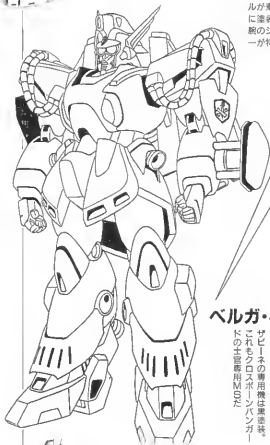


ベルガ・ダラス

F91

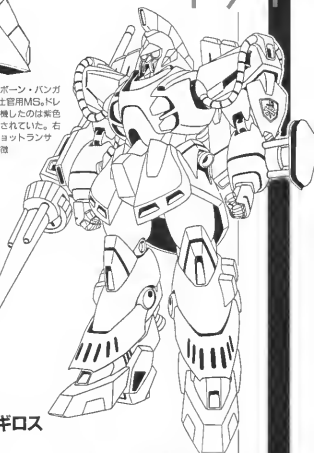


クロスボーン・パンガードの士官用MS。ドレルが乗機したのは紫色に塗装されていた。右腕のショットランサーが特徴



ベルガ・ギロス

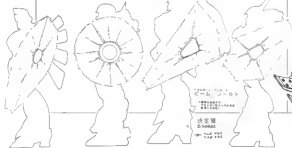
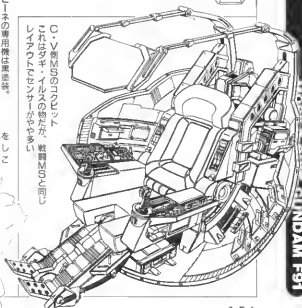
ザビネの専用機は重武装。これもクロスボーン・パンガードの士官専用MSだ



ビームシールド

シールド発生機周辺に戦闘時のみビーム幕を形成する新技術だ。防御だけではなく刃としても機能する。楕円の形状にも制約はない。この応用としてビームフラッグもあった

C・V制MSのコックピット。これはダギ・イルスの物だが、戦闘MSと同じレイアウトでセンサーがやや多い



ビームシールド

ビームフラッグ

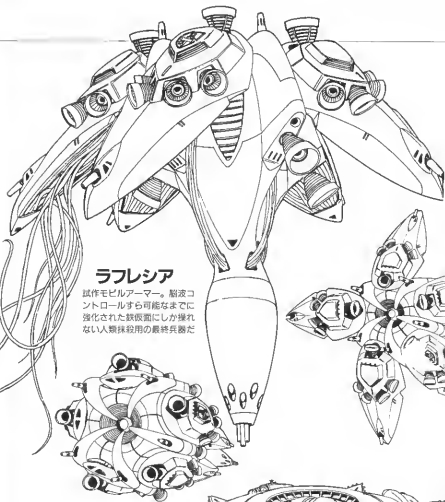
ビームシールド

ビームフラッグ

ビームシールド

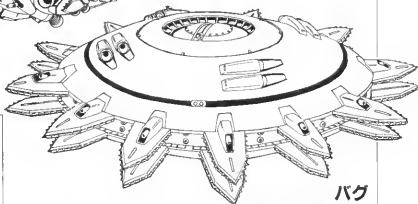
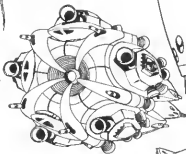
ビームフラッグ

MOBILE SUIT GUNDAM F91



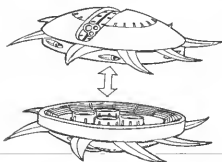
ラフレシア

試作モビルアーマー。脳波コントロールすら可能なまでに強化された鉄仮面にしが操れない人類抹殺用の最終兵器だ



バグ

上の戦バグはMSすら切断する。内部に無数に仕込まれた子バグは、コロニーや施設を破壊せずに内部の人間のみを切り裂く大量殺戮兵器である。恐怖を味わせて殺戮するという思想なのだ



バグ

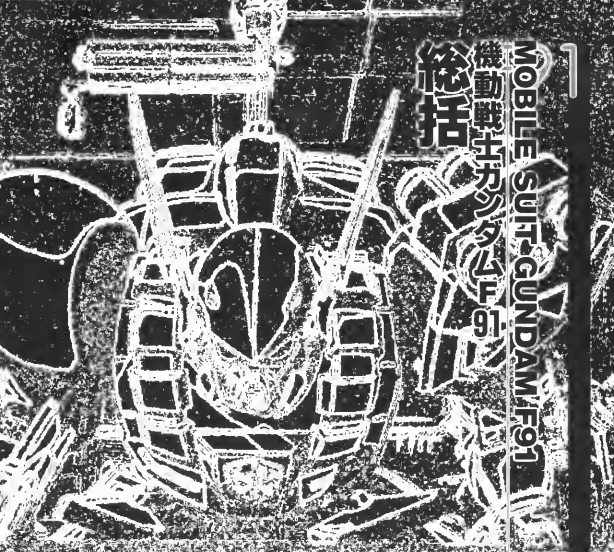
ティターンズが使用したG3ガスに並ぶ大量殺戮兵器。人間、MSを感知し無差別に根絶やしにする。フロンティアの実験後は、月と地球の人口を減らすために使われる予定だった。なおG・Vがガスではなくバグを使うのは、演出上の効果を重視したため。

子バグ

MOBILE SUIT GUNDAM F91

機動戦士ガンダムF91

総括



ガンダムF91は、それまでのガンダム世界と距離を置き、30年後の未来を舞台にすること、世界観の仕切り直しをした作品である。

これは新しいガンダムファンを獲得する狙いがあつたと思われるが、それは同時にガンダムのイメージを守りつつ、さらにイメージをリニューアルするという、難しい作業であつたように見受けられる。

イメージの継承とリニューアルの一番分かりやすい例は、キャラクターデザインに安彦良和氏を起用したことだろう。新たな物語が始まることで登場人物は全て入れかえられたわけだが、デザインを初代ガンダムのアニメーションディレクターであつた安彦氏に依頼することで、新キャラにも関わらずガンダムらしいテイストを持たせることに成功した。

これはMSについても同様。大河原邦男氏がデザインしたF91は、顔こそガンダム風であつたが、ディテールのニュアンスは大幅に変更され、立方体の固まりのようであつた初代ガンダムと比べ、曲線の多いスマートな印象のデザインとなつてゐる。

もちろん、イメージの継承とリニューアル



はデザイン面だけではない。物語の骨格やニユータイプ論、演出面でも、原点回帰を意識しつつ新たな地平を目指そうとしていた。

安彦氏は富野監督の作劇について、「非常にいびつな設定の中で、どうやって成長していくって、まともになるのかっていうシチュエーションというのを、初めて作ったんじゃないかと思います」と語っている。これは、初代ガンダムについて述べているくだりだが、この基本線の名残はF91にもある。

シーブックの母モニカは、妹を出産したころからヒステリー気味になった。彼女はパイオコンピューターの研究の現場に復帰したかったのだ。そこで、夫レズリーは彼女に職場復帰を促し、自分は軍の研究者の地位を捨てて子供とともに溶接工になることを決意した。

この、バラバラになった家族という「非常にいびつな設定」は、ガンダムのテム、カマリア夫妻、Zガンダムのフランクリン、ヒルダ夫妻という主人公の家族に共通する要素だ。だが、F91はその基本を踏襲しながらも、そうした構図を微妙にずらす。

レズリー、モニカ夫妻は、表面上は離れば

なれであっても、お互いを、そして子供たちをちゃんと思っている。この家族は単に環境が離れているだけなのである。

もちろんシーブックは、自分や妹を捨てた母への反感を感じてはいる。だが、それは思春期にありがちないらだちが根にあるもので、彼自身がその反感心に飲み込まれてしまうこととは異なる。だから、シーブックは、父から夫婦の間に何があったかを聞き、実際に母と対面することで、その反感心を氷解させていく。

このようにF91では、ガンダム、Zガンダムにの底流にあった「非常にいびつな設定の中から出てきた」少年という構図を用いながらも、それを大幅に変更している。

シーブックは、いびつな設定からスタートしてやがてまともになるのではなく、そんな環境の中でもスポイルされずにちゃんと成長しているからこそヒーローなのである。この点がアムロ、カミーユと、シーブックが一線を画しているところである。

スポイルされない、というのはF91のドラマにおいて重要な要素だ。ヒロインのセシリーも非常に複雑な家庭に育ったが、ガンダム



シリーズのヒロインにありがちな悲劇をはねのけるだけの気丈さを持っている。

この作品は2人の伸びやかな個性の上に、ニュータイプ論を重ねてみせる。F91はここでもガンダム・イメージの継承とりニューアールを行っているのである。

作中でニュータイプの描写（耳鳴りと予感、気配を感じる等）がある登場人物は、シーブックとセシリーだけ。これまでのニュータイプが、センシティブ故にその能力を開花させたという展開に比べると、2人はあまりにも真っ直ぐであり、対照的だ。F91では感受性の強さというよりも、親たち（いわばオールドタイプか？）の都合を乗り越えてちゃんと育っているタフさにこそ、人類の希望であるニュータイプ論の原点を置いているように見える。

これは、敵役の鉄仮面のメンタリティと比較すると一層鮮やかだ。

セシリーの父、カロッゾは、自らの感情を殺すために鉄仮面をつけたと、語る。だがそれはウソだ。彼は、強そうな人物を演じることでしか義父マイツァーや妻ナディアから

のプレッシャーに耐えられなかったのである。仮面は感情の抑制の道具ではなく、素顔を隠すことで、周囲の人間との「見ると見られる」の関係を逆転させる装置だ。自分から相手を見る時には自由に见たいが、自分を相手に晒すのはイヤだ、というわけだ。彼はこんな仮面に頼らなければ、C・Vによる世直しも出来ないという小心者なのである。

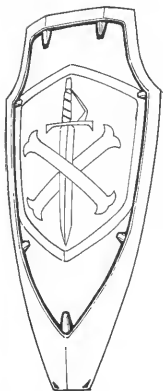
そしてこの他人との距離感は、実は現代の若者と共通のものだ。つまり鉄仮面とは、安穩とアニメ映画を見てシーブックたちに自らを重ねてしまいがちな世代に向けて、「君たちの将来はこうかもしれないんだぜ」と多少の毒を含んで富野監督が仕掛けた、歪んだ鏡像でもあったのだろう。

そして、シーブックとセシリーは鉄仮面へのアンチテーゼでもある。

最後になったが、F91は演出面で改もめて人とMSの関係を徹底して描こうとしていた。ハイスクールで戦闘が行われるシーンでは、逃げまどう人物とMSが画面上を行き交う中に、校舎や仮説ステージの構造物などの対象物を配して、MSのスケール感を演出。その



合間に、宇宙時代の生活感を感じさせるような人物点描のカットを重ねた。それは、一度は当たり前になつてしまったMSのある世界を、改めて新しいファンに提示するために必要な手続きだったのだ。





F91

機動戦士ガンダムF91 スタッフリスト

STAFF

企画・制作	サンライズ
製作委員会	松竹 奥山和田
	創造エージェンシー 那須雄治
	名古屋テレビ 木谷 忠
	バンダイ 山科 誠
	サンライズ 伊藤昌典
製作	山浦栄二
原作・監督	富野由悠季
原案	矢立 肇
音楽	門倉 聡
主題歌「ETERNAL WIND〜ほほえみは光る風の中〜」	歌/森口博子
音楽担当	重松英俊
音楽協力	第一プロダクション フライング・ボックス ベルベットライン
キャラクターデザイン	安彦良和
メカニカルデザイン	大河原邦男
プロデューサー	中川宏徳
脚本	伊藤恒久 富野由悠季
美術	池田繁美
撮影	奥井 敦
音響	藤野貞義
作画監督	北原健雄 村瀬修功 小林利充
作画協力	川元利浩 佐野浩敏 南伸一郎 雅律 西村誠芳 佐久間信一 中西修史
動画チェック	八幡 正 岩長幸一 大谷美樹 宋 佑芳 朴 令坡
動画チェック補	小林克治 守屋一朗
アニメーター	スタジオ・ダブ 西村誠芳 佐久間信一 堀山紀生 大森英敏 平井久司 ほか
作画協力	スタジオ・ダブ スタジオ・マーク スタジオ天 スタジオえっく KOREA 双進 銀河動画社
	中村プロダクション アニメ浪漫 トゥエンティファースト 進藤プロダクション アートランド
	スタジオファンタジア ウォンバット
色指定	今西清子
仕上処理	前林文恵 黒柳朋子
仕上検査	片山田美子 水沢 明
仕上制作	宮坂光一郎
仕上	エムアイ
仕上協力	KOREA 双進 スタジオMAC アニメーションタイム トランスアーツ ジャスト 天川企画
	PAPK PRODUCTION PAN PRODUCTION
特殊効果	千葉 豊(マックス)
タイトル・リースワーク	マキプロ
背景	アトリエムサ
背景協力	おにまる屋 スタジオイースター アトリエ・ブーカ 猿プロダクション ほわいとまっぷ
	スタジオ・WHO みにあーと
設定協力	西野公平
デザイン協力	石垣純哉
ディテールサポート	中沢教宣(RED)
撮影	旭プロダクション
撮影協力	トムスフォト トランスアーツ A・A・C
編集	YAスタッフ
編集協力	森田編集室
演出	杉島邦久
演出助手	赤根和樹
音響制作	千田啓子



音響編集 依田章良
 効果 庄司雅弘
 調整 井上秀司
 録音 東京テレビセンター
 現像 東京現像所
 制作デスク 赤崎義人
 制作進行 安藤清一 市万田俊也 関戸 靖 山田弘和 鶴谷真紀 湯浅由美子(助手)
 設定制作 井上幸一
 設定制作補 堀口 滋
 制作協力 スタジオダブ エムアイ KOREA 双達 旭プロダクション
 宣伝 メイジャー
 出版協力 角川書店・講談社

CAST

シーブック・アノー 辻谷耕史
 セシリー・フェアチャイルド(ベラ・ロナ) 冬馬由美
 リズ・アノー 池元小百合
 レズリー・アノー 寺島幹夫
 モニカ・アノー 荏司美代子
 マイツァー・ロナ 高杉哲平
 カロツゾ・ロナ(鉄仮面) 前田昌明
 ナディア・ロナ 坪井章子
 ドレル・ロナ 草尾 毅
 シオ・フェアチャイルド 大木民夫
 ジレ・クリューガー大佐 小林清志
 ザビーネ・シャル 梁田清之
 コズモ・エーゲス(コズミック) 渡部 猛
 バルト中尉 若本規夫
 ドワイト・カムリ 子安武人
 サム・エルグ 高戸靖広
 アズマ 西村智博
 アーサー・ユング 松野太紀
 ドロシー・ムーア 折笠 愛
 ベルター・ロドリグス 伊倉一恵
 リア・マリーバ 小林優子
 コチュン・ハイン 吉田古奈美
 ミンミ・エディット 千原江理子
 エルム夫人 峰 あつ子
 レアリー・エドベリ 横尾まり
 マヌエラ・パノバ 鈴木みえ
 ケーン・ゾン 佐藤浩之
 ジェシカ・ングロ 天野由梨
 ナント・ルース 大友龍三郎
 グルス・エラス 竹村 拓
 ビルギット・ビリヨ 堀屋 真
 アンナマリー・ブルージュ 神代知衣
 クリス 遠藤章史
 ローバー 田口 昂
 ナーイ 上村典子
 ボブルス 稲葉 実
 ストアスト長官 池田 勝

ガンダム音楽 主題歌の変遷①

ここではガンダムシリーズの主題歌の変遷を見てみよう。

◇機動戦士ガンダム

OP「翔べーガンダム」 作詞／井荻麟、作曲／渡辺岳夫、編曲／松山祐士、歌／池田鴻

EO「永遠にアムロ」 作詞／井荻麟、作曲／渡辺岳夫、編曲／松山祐士、歌／池田鴻

シングル版の最初のロット分に関しては、作詞がサンライズ企画室となっていたが、後に井荻麟に変更される。井荻麟は富野監督のペンネームで、サンライズのスタジオがある上井草の隣駅が井荻なのがネーミングの語源。

ただ「哀・戦士編」の主題歌発表会見まで、井荻麟＝富野監督ということは公式に明らかになっていないかった。

池田鴻氏は、ガンダムのほか「空爆ロボグロイザーX」なども歌っている。

挿入歌は以下の3曲。

「シヤアが来る」 作詞／井荻麟、作曲／渡辺岳夫、編曲／松山祐士、歌／堀光一路

「さらめきのララア」 作詞／井荻麟、作曲／渡辺岳夫、編曲／松山祐士、歌／戸田恵子

「いまはおやすみ」 作詞／井荻麟、作曲／渡辺岳夫、編曲／松山祐士、歌／戸田恵子

「シヤアが来る」は「シヤアーシヤアーシヤ」のリフレインが脳裏に焼き付くインパクト大の一曲。堀光一路氏は「ザンボット3」のOP、EOでもお馴染みだ。なお、同シングル盤のジャケットのセル画は、安彦さんの修正原画を富野監督が自分でトレスマシンにかけ、彩色している貴重品で、シヤアのヘルメットのツノのところが一部ハミ出ているのはご愛敬。

「さらめきのララア」は冒頭の旋律が、「翔べーガンダム」と同じ音型で、イメージを合わせてある。本来は41話で使われる予定が、富野監督のイメージと違い未使用に。

「いまはおやすみ」は、富野監督のいうところ「凡俗がニュータイプを見上げる歌」で、フラウやハヤトたちの歌であったのだが、41話などで印象深く使われたため、「ニュータイプの曲」というイメージが強くなった。

◇機動戦士ガンダム劇場版3部作

「砂の十字架」 作詞／作曲／谷村新司、編曲／青木望、歌／やしきたかじん



「スターチルドレン」作詞／井荻麟、作曲／やしきたかじん、編曲／飛澤宏元、歌／やしきたかじん
 「哀・戦士」作詞／井荻麟、作曲／編曲／歌／井上大輔
 「風にひとり」作詞／井荻麟、作曲／編曲／歌／井上大輔

「めぐりあい」作詞／井荻麟、売野雅勇、作曲／井上大輔、編曲／鷺巣詩郎、歌／井上大輔
 「ビギニング」作詞／井荻麟、作曲／編曲／歌／井上大輔

谷村新司氏は代表作「昴」がガンダムのイメージに近いためにキャスティングされ、同じ事務所のやしきたかじん氏が歌うことに。やしき氏は後に深夜番組「たかじんROBAR」で人気者になり、トーク番組などで「歌い出しのライリー」って何の意味か分からないから（谷村氏に）質問したら、「かけ声とか合いの手みたいなもの」との返事で拍子抜けした」とボヤいていたのが印象深い。

「スターチルドレン」は本編で未使用。この曲名はもちろん、「2000年宇宙の旅」のラストに登場する「スターチャイルド」からインスパイアされたもの。この曲がきっかけとなって、キングレコード内にアニメを扱うレーベル「スターチャイルド」が出来ることになった。

「哀・戦士編」では、シャネルズの「ランナウェイ」をヒットさせ、CM音楽でもヒットメーカーと呼ばれていた井上大輔氏を起用した。井上氏はグループサウンズ、ブルー・コメッツのメンバー。井上氏は「戦闘シーンで軍歌調、悲しいシーンでベタベタしたフォーク。音楽はそういうものではない」と主張し、ハードロックの主題歌を作曲。

「哀・戦士」と「風にひとり」のロック&フォークというカプリングは、井上氏が井上忠夫名義で手がけた「マッハバロン」のA面B面の構成と相似形なのは偶然か？

「めぐりあい」では、富野監督の歌詞を客観的に見るために売野雅勇氏が参加。また、編曲で参加の鷺巣詩郎氏は最近では庵野秀明監督と組んで「新世紀エヴァンゲリオン」などを手がけている。

◇機動戦士Zガンダム

初期OP「Z」刻をこえて」作詞／井荻麟、作曲／ニール・セダカ、編曲／渡辺博也、歌／鮎川麻弥
 後期OP「水の星へ愛をこめて」作詞／売野雅勇、作曲／ニール・セダカ、編曲／馬飼野康二、歌／森口博子

ガンダム音楽 主題歌の変遷②

ED「星空のBe-ieve」作詞／竜真知子、作曲／ニール・セダカ、編曲／渡辺博也、歌／鮎川麻弥

ニール・セダカ氏は、「恋の片道切符」などのヒットメーカー。なお、娘のデラ・セダカ氏も映画「1000年女王」の主題歌「星空のエンジェルクイン」を歌っている。鮎川麻弥氏は、Zガンダムの前番組「重戦機エルガイム」の後期OP「風のノリブライ」に続いている登板。

一方、「水の星へ愛をこめて」は後にバラドルとして地位を確立する森口博子氏のデビュー曲である。

なお、ニール・セダカ氏との連絡には、当時まだ珍しかったファックスを使ったという。

◇機動戦士ガンダムZZ

初期OP「アニメじゃない」作詞／秋本康、作曲／

芹沢廣明、編曲／鷺巣詩郎、歌／新井正人

後期OP「サイレント・ヴォイス」作詞／売野雅

勇、作曲／芹沢廣明、編曲／若草恵、歌／ひろえ純

初期ED「時代が泣いてる」作詞／秋本康、作曲／

芹沢廣明、編曲／鷺巣詩郎、歌／新井正人
後期ED「1千万年銀河」作詞／井荻麟、作曲／

芹沢廣明、編曲／若草恵、歌／ひろえ純

「アニメじゃない」は、そのタイトルと、題名通りの歌出し（しかも、ボコーダー声でリフレイン）に、ほとんどの人がひっくり返った。

一方、作品の方向性がシリアスに傾いた後半では、歌もシリアスな「サイレント・ヴォイス」に変更となった。

◇機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

「BEYOND THE TIME」メビウスの宇宙を越えて」作詞／小室みつ子、作曲／編曲・小室哲哉、歌／TMネットワーク

TMネットワークは、サンライズ作品「COOTY HUNTER」のED「GET WILD」を歌っているほか、OVA「吸血鬼ハンターD」の主題歌も手がけている。

富野ガンダムのファンとしても有名な小説家の今野敏氏が某レコード会社ディレクターであった頃、TMネットワークの担当であったという事実は奇妙な縁を感じさせるエピソードである。

◇機動戦士ガンダムF91

「TEENNA WINDY」ほほえみは光る風の
中」作詞／西脇唯、作曲／西脇唯、緒里原洋子、



編曲／門倉隆、歌／森口博子

森口博子氏の2度目の登板。この曲で'91年の紅白歌合戦にも出場した。

なお、アニメソングでの紅白出場は調べたところ以下の通り。

'80年・布施明「愛よその日まで」(ヤマトよ永遠に)、『83年・杏里「CAT'S EYE」(CAT'S EYE)、『86年・斉藤由貴「悲しみよこんにちは」(めぞん一刻)、『90年・日・日・クイーンズ「おどるボンボリン」(ちびまる子ちゃん)、『93年・光GENJI「勇気100%」(怒たま乱太郎)、『94年・篠原涼子「恋しさでせつなさで心強さ」(ストリートファイターII)、『97年・X JAPAN「Forever Love」(X)

◇機動戦士Vガンダム

初期OP「STAND UP TO THE VICTORY〜トゥ・ザ・ビクトリー〜」

作詞／井萩麟、作曲／編曲／歌・川添智久、編曲／神長弘一 井上麗仁

後期OP「Don't Stop Carry On」

作詞／西脇唯、作曲／小泉誠司、編曲／福田裕彦、歌／ED

初期ED「WINNER FOREVER」作詞／作曲・長世仍世、編曲／板倉雅一 in fix、歌／in fix

後期ED「もういちどTENDERNESS」作詞／浜口司、作曲／亜宅美香、編曲／葉山たけし、歌／K-1 S 川添智久氏はLINDBERG

のベジスト。「名探偵コナン」の主題歌にも参加している。また、Vガンダムでは、OPがキングレコード、EDがアポロン(バンダイ系)という棲み分けがされているが、今後このパターンの嚆矢となった。挿入歌は以下の3曲。

「ひなげしの旅のむこうに」作詞／井萩麟、作曲／編曲／千住明、歌／黒田由美(もしくは小峰公子)「いくつもの愛をかさねて」作詞／井萩麟、作曲／編曲／岩崎元是、歌／岩崎元是「生まれてくるものへ」作詞／井萩麟、作曲／編曲／千住明、歌／ACEILUX

初代ガンダムに次いで挿入歌が多い。そのわりに目立たないのは、作品そのもののマイナーさ故だろうか。「いくつもの〜」は、最終回のラスト、冬のカサレリアの風景に流れる印象深い一曲。

劇場用作品
機動戦士ガンダムF91
ビデオ・LDガイド

発売・販売 パンダイビジュアル(株)

※価格はすべて税抜です。



LD

(完全版)

9,515円

BELL-449

©創通エージェン

シー・サンライズ



ビデオ

(劇場公開版)

15,800円

BES-670

©創通エージェン

シー・サンライズ

ビデオ

(完全版)

9,709円

BES-679

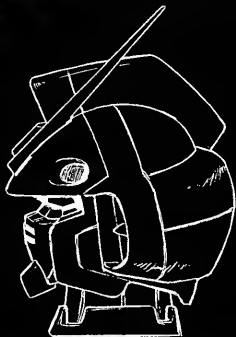
©創通エージェン

シー・サンライズ



第6章

機動戦士Vガンダム



1993

V
MOBILE SUIT VICTORY GUNDAM

作品介绍



機動戦士Vガンダムは、'93年4月からOAされた、富野ガンダムとしては6作目にあたる作品である。劇場版F91を挟んで、ガンダムZZより7年ぶりのテレビシリーズとなった。

既に、カードダスやプラモデルでSDのガンダムに親しんでいた低年齢層も取り込もうと、主人公の年齢を低く設定し、作品世界もこれまでの世界とは関係のない遠い未来に設定した。もっとも、この複雑な物語を小学生が楽しめるはずもなく、視聴率的にはかなり苦戦を強いられたという。それもあるが、この後に製作された3本のガンダムは、富野監督の手を、そしてU.C.の世界観を離れて、独自の世界を切り開いていくことになる。

舞台設定

U.C. 0153年。前作のF91よりさらに30年後という設定で、ウツォ・エヴィンという少年を主人公に、サイド2、アメリカに発生したザンスカル帝国と、その軍事行動を阻止しようとするレジスタンス組織リガ・



ミリティアの闘いが描かれる。

この時代、地球連邦の統治は形骸化し、各コロニーには自主国家群が生まれていた。サイド2のザンスカール帝国もそうした国家のうちのひとつであるが、マリア主義を唱えるマリア・ピア・アームニアを女王にいただいていることが最大の特徴。とはいっても、マリアは政治的には傀儡の要素が多分にあり、同帝国の政治を具体的に掌握しているのはフオンセ・カガチが率いるガチ党というのが実情だ。

また、ザンスカール帝国は、あのギロチンという古典的な處正をも同時に復活させ、その恐怖も支配に利用した。女王の慈悲とギロチンの恐怖が、ザンスカール帝国支配の両輪だったのである。そして、地球侵攻を開始し、中欧の特別区ラゲーンを占拠、侵攻作戦の基地としたのである。

こうしたザンスカール帝国の侵攻に対して、地球連邦が傍観を決め込んだため、反旗を翻したのが市民運動から発展したレジスタンス組織リガ・ミリティアだった。また、彼らの活動には、連邦に「活」を入れるためという

目的もあった。

リガ・ミリティアは、ジン・ジャハナムという名前で呼ばれる複数のリーダーによって指導されており、主人公ウツソの父であるハンゲルグ・エヴィンもその一人である。なお、「同一名を持つ複数のリーダー」という設定は、富野監督が、逆襲のシャア以後のハサウェイ・ノアを描いた小説「閃光のハサウェイ」（角川書店）にも登場しており興味深い。

また、この作品ではニュータイプという単語は、それを思い起こさせる描写はいくつかあるものの、ほとんど登場しない。ラスト近くに登場する巨大サイコミュ要塞「エンジェル・ハイロウ」は、「サイキッカー」たちの脳波によってコントロールされている。

物語

ウツソ・エヴィンは、幼なじみのシャクティ・カリンと、地球不法居住者が住むボイント・カサレリアに住んでいた。

ある日ウツソは、パラグライダーで飛行中、ザンスカール帝国軍。ペスバのMSと、リ

ガ・ミリティアの戦闘に巻き込まれ、なりゆきでベスバのMSを操縦するハメに陥る。

戦闘を終え、カサレリアに帰還したウツソを待ち受けていたのは、ラゲーンを焼け出され、リガ・ミリティアのカミオン隊と行動を共にする戦災孤児のオデロだった。彼らからベスバに占領されたラゲーンの状態を聞いたウツソは、メールフレンドのカテジナがいる近隣の特別区ウーイックの様子を心配し、MSで飛び出していくのだった。

ウツソはウーイックでカテジナと母を失った赤ん坊のカルルマンを救出する。現世的で金儲けしか考えないように見える父と、家庭を省みない母に愛想をつかしていたカテジナは、なんの未練もなく故郷を離れるのだった。こうして、ウツソたちはリガ・ミリティアと行動をとるようになる。ウツソはその才能を買われてVガンダムを操縦するようになる。

一方、ベスバのイエロージャケットで、女王マリシアの弟、クロノクルはリガ・ミリティアの基地に潜入、カミオン隊の指導者オイ・ニュング伯爵とカテジナを人質に逃走。オイ

はみせしめとしてザンスカールのギロチンの露となつた。また、カテジナはクロノクルと行動をとることを決意する。

カミオン隊はその後、女性だけのMS部隊シュラク隊と合流し、ジブラルタルの宇宙引越公社を訪れ、シュラク隊メンバーの犠牲の上に、シャトルと老朽艦リーンホースで宇宙に上がる。

宇宙では、太陽電池衛星に住む子供たちと出会う一方、戦闘に巻き込まれたシャクティがザンスカールへと連れていかれるという事態が発生した。戦略衛星カイラスギリをめぐる戦闘の後、ウツソら少年たちはザンスカールの「アメリカ」に潜入する。そこで、彼らが知ったのは、シャクティが女王マリシアの娘であったという事実だった。だが、シャクティは、女王のあとを継ぐことを拒否し、ウツソたちと脱出する。

やがてウツソは、彼の母が開発に関与したV2ガンダムに乗り込むことになり、月で母ミューラ・ミゲルと再会する。

そのころ、ザンスカール帝国は、巨大な車輪を持つ戦艦モトラッド艦隊での地球制圧作





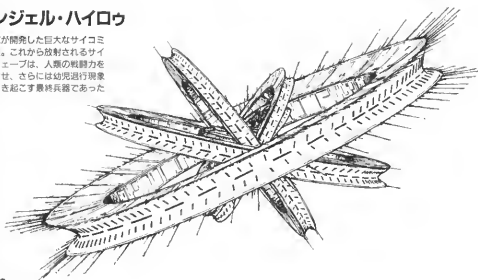
戦をスタートさせる。ウツソたちを支えてきたリガ・ミリティアのパイロットの、オリファアの特攻にも関わらず、その作戦をとめることは出来なかった。モトラッド艦隊を止めようとさまざまな作戦を展開するリガ・ミリティアだが、効果はなかなか上がらない。そんな戦闘の中、敵MSの人質となったミューラは、ウツソの目の前でモトラッド艦隊のリシアにひき殺されるのだった。

一時的に連邦政府とザンスカール帝国の間で停戦協定が結ばれたものの、宇宙では最後の決戦に向けて事態が進行していた。その対ザンスカール軍攻略戦の指揮をとるのがハンゲルグ・エウィン、ウツソの父であった。

最後の闘いは、人類を幼児化させるために建造された巨大なサイコミュ要塞「エンジェル・ハイロウ」をめぐるものとなった。ザンスカール側では、カガチに不信を感じ続けていたタシロがついに反乱を起こし、女王マリアを拉致、マリアは撃ち殺される。一方、カガチは、シャクティを言葉巧みにエンジェル・ハイロウのキー・ルームへと誘導し、地球への降下を開始させる。

エンジェル・ハイロウ

ベスバが開発した巨大なサイコミュ衛星。これから放射されるサイコ・ウェーブは、人類の戦闘力を消失させ、さらには幼児退化現象すら引き起こす最終兵器であった





ウツソはシャクティを救い出すが、シャクティは人類に幼児化をおこさせないために再びキー・ルームへと戻る。そして、シャクティの願いに応えるように、分解を始めるエンジェル・ハイロウ。そして、その上でクロノクルとウツソの一騎打ちが始まり、カテジナは2人の男が自分をめぐって戦う姿を笑いながら見守るのだった……。

闘いが終わった後、ウツソとシャクティはカサレリアに戻っていた。冬も間近のある日、そこに視力を失った女性が現れ、故郷ウーイックの方向をシャクティに訪ねるのだった。

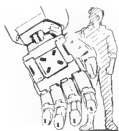
時代背景

VガンダムOVA中にもっとも人気を集めていたアニメといえば「美少女戦士セーラームーン」だ。'92年からOVAが始まった同作品は、子供から大きなお友達まで広範に人気を広げ、'93年3月からは「美少女戦士セーラームーンR」としてさらに継続中であつた。まだ当時は、深夜アニメの時代は到来しておらず、よくも悪くもガンダムが切り開き、マクロスが

火をつけた'80年代中盤の熱狂の後の、沈滞ムードが残っていた。そんな中で「復古調」とも思える戦隊モノ的な古典的フォーマットと、「戦う少女」というキャラクター性をバランスよく持った「セーラームーン」が核の見えなくなっていたアニメシーンにおいて、強力なカンフル剤となつたのは当然であつた。

また、同じく'92年から放送開始となつた「クレヨンしんちゃん」の人氣も爆発中であつた。サンライズ作品では「疾風ノアイアンリガー」「勇者特急マイトガイン」「熱血最強ゴウザウラー」などがOVAされていた。

世相に目を向けてみると、なんといっても55年体制が崩壊し、38年ぶりに政権交代が行われて細川護国閣が成立したことがあげられる。これ以降、日本の政治の混迷は始まるのである。そのほか、筒井康隆の断筆宣言、Jリーグの開幕、横浜ランドマークタワーの完成、「磯野家の謎」ベストセラーなんてのもこの年の出来事だ。隔世の感があるのはデジタル系。ウインドウズ3.1の発表も、PDAの先駆的存在「ザウルス」の登場も'93年である。



モビルスーツは 何故小型化したか

ガンダムF91の設定では小型化への流れの第一の理由を対費用効果と説明している。

民間企業ブッホ・コンツェルンを母体として生まれたC・Vは、機体のレスポンスさえ確保できれば、艦艇の調達も含め小型化したほうが有利であるという発想から、機体の開発を進めた。またこれにかなり遅れる形ではあるが、連邦軍も仮想敵のいない状況下で、将来的な諸経費削減を見込んで、小型MSの開発に着手した。

結果的に両軍とも、高性能ジェネレーターをボディに外付けすることで小型化を実現することとなる。これにあわせて、余剰出力でビームシールドを装備することも可能になった。これは、通常のシールドと違いデッドウェイトにならないという利点もあった。

そもそも、ガンダムの全長が18mと決められたのは、体格のいい成年男子の10倍を目安にしたため。そして、このサイズは当時としては画期的な小ささでもあった。

このガンダムのプラモデル化の際、主力商品のスケールは1/44分の1である。価格は3000円。

各関節がちゃんと稼働（といっても今のプラモデルとは比ぶべくもないが）するのも魅力で、ガンダムはこのスケールに支えられたといっても過言ではない。ところが、ガンダムがシリーズ化されるに至って一つ困ったことが生じてきた。

その後のシリーズも基本的にスケールは1/44分の1を主軸に3スケールで展開していたが、MSの設定が大型化、複雑化してきたために、キットの値段設定を維持するのが難しくなってきたのである。例えば、Zガンダム1/44分の1は500円だが、さらに3000円の価格を維持するためであらう、その下に220分の1というスケールが設定されている。また、Vガンダムになると、いう「ブラ化」されたとはいえ1/44分の1で1000円になる。

商品価格の上昇は、将来を支える低学年層にアピールしないという不安があったのである。

その対策もあって、F91以降のMSは小型化されるのである。そして、再び低学年にも対象を広げよう製作されたVガンダムは、1/44分の1スケールで700円と設定されるのである。

主要キャラクター

主人公

ウツン・エヴィン

地球で生まれ育った不法居住者の息子。両親がレジスタンス活動をしていたために、あらゆる方法の生き延びる術を習得していた。天性の運動神経から、敵MSを奪取しそれがきっかけでガンダムのパイロットとして活躍

母ミューラ・ミゲルとウツン

リガ・ミリティアの連絡員をする女戦士。ウツンをどう育てるつもりだったのが不明だった

父ハングル・エヴィン

反ヴァンスカール組織リガ・ミリティアの中心的人物。ウツンに生存術を徹底的にたたき込み、自らも手組で戦いを続けていた。地球の軍にあるガラクタが怪しむ者人だった

親子関係

ウツンの母ミューラ・ミゲルと父ハングル・エヴィンは、ウツンをサバイバルでできる子供に育てようと基礎的な教育を施していた。ミューラは、ウツンを身ごもったときに彼がニュータイプであると確信していたという。そうした親の決め付けが、ウツン自身にどう反映していたのかを考えるのも、Vガンダムの鑑賞のポイントだ。

一方、シャクティとマリアの関係は決して濃くはない。シャクティが作中で、聖女、たり得たのはマリアの娘だからではなく、彼女自身の経歴と資質故というのは、フィルムを見れば一目瞭然である。

なお、オテロが死の直前に、「会話」するのも肉親らしいが、セリフでは聞き取れない。





女王マリア・ピア・アーモニア

ザンスカールの女王。予知や治癒能力はあるが「マリア主義」を提唱し、全兵士の心を掌握していた。若い頃に生んだ娘が、シャクティである

三人組のリーダーで、生きる為なら何でもしていたがウッソと行動を共にする。お調子者

オデロ・ヘンリーク

ウォレン・トレイス

三人グループのひとり。いつでも無を出し飯病を使える特技があるが、頼りない

スージー・リーゼン

戦災孤児でギロチンを見たトラウマがある。オデロに助けられ行動を共にする活発な少女

ロペロ・マラバル

ちょっと強引なメカニック担当。Vガンの整備もする

沈着冷静な副リーダー。伯爵亡き後カミオン隊を率い活躍する

レオニード・アルモドバル

エステル・チャバリ

連続役者まとめ役の女怪。とても元気なおばさん

医務担当だがサポートのベテラン。整備もオペレーターもOK

オーティス・アーキンス

シャクティ・カリン

カサレリアでウッソの隣人として暮らしていた。彼女の母親がマリアである。独特の感応力があり、その感応を増幅する兵器が最終局面に登場するエンジェル・ハイロウだ

フランダース

シャクティの愛犬フランダースは、忠犬ではあるがちょっと頼りない。ベスバの空襲で母を亡くしたカルルマンをシャクティが育てるので子守りに励むのだが...

カルルマン

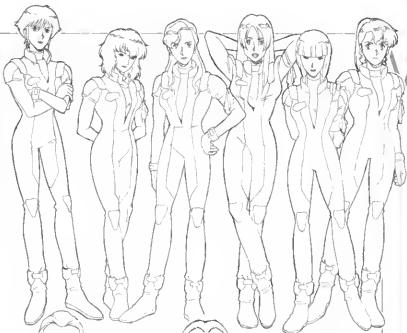
ハロ

オイ・ニュング

リガ・ミリティアのカミオン隊のリーダーで伯爵と呼ばれる。ベスバのギロチンにより処刑される

シュラク隊

オリファーが率いる女性隊員だけのM4部隊。左よりヘレン、ペギー、ジュンコ、マヘリア、コニー、ケイト。リーダーのジュンコ・ジェンコの指揮で勇猛果敢な戦いを繰り広げる。ウツソを守るために比較的消耗率が高くなり、16話でユカ・マイラス、31話でフランチェスカ、40話でミリエラが補給要員として到着した



オリファー・ノイエ

シュラク隊の隊長で、優秀な技師。マーベットの婚約者であったがモトラット艦隊を止めるために壮絶な戦死



マーベット・フィンガーハット

リガ・ミリティアのVガンダム試験パイロットとしてウツソに出会う。その後もホワイトアーク隊の隊長として指揮を取るオリファーの婚約者だったが、先立たれてしまう



マルチナ・クラススキー

太陽電池衛星ハイランドに住んでいた三人組。ホワイトアークの搭要員として頑張る

ハイランド三人組の兄姉。実戦での戦いでウツソの良き協力者となる

エリシャ・クラススキー

カレル・マサリク

プラスタ・イエリネス

トマーシュ・マサリク

ソフィア・イエリネス





敵

この物語で最後までウツソの前に立ち塞がるのはカティナである。そういう意味では、MSに乗り始めたウツソに「怖い人にならないでね」と声をかけたカティナこそが、彼にとって最も怖い、究極の敵になったのだ。

さっと、彼女はウツソの真っ直ぐな瞳が怖かったのではないだろうか。だから、ここから露骨的にふるまって彼を挑発し、その上で自分を受け止めてもらいたかったのではないだろうか。Vガンダムが以前のガンダムと大きく違うのは、敵組織とは別の本質的な、カティナという「敵」こそがドラマで重要な役割を担っている点だともいえるだろう。

カティナ・ルース

ウーイックの町に住みウツソとメール交換をしていたお嬢様。当初カミオン部隊と行動を共にしていたが、ベスパにオイと一緒に拉致された時からなぜか、マリア主君に共感しベスパの一員となる。ウツソにとって最大の敵として最後まで立ち塞がる



クロノクル・アシャー

女王マリアの実弟であり、イエロージャケットの青年将校。生種のスペースノイドで、地上の埃臭い匂いを嫌いマスクを着用する





タシロ・ヴァコ

ベスバの艦隊指令。衛星軌道上の超破壊兵器カイラスギリ―建造責任者。ザンスカール帝国の実権を握る野望を持っていた



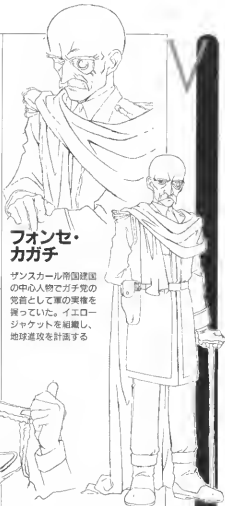
アルベオ・ビビニーテン

クロノクルの先輩にあたる優秀な軍人。新型MSを乗り、地球に降下して来た熱血漢



フォンセ・カガチ

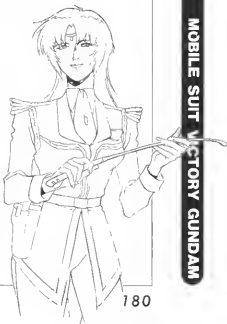
ザンスカール帝国建国の中心人物でガチ党の党首として軍の実権を握っていた。イエロージャケットを組織し、地球進攻を計画する



ルベ・シノ



ファラ・グリフォン



ベスバの優勝拠点であるラゲーン基地指令として、ザンスカールのギロチンを実行する。オイ処刑を独断とされ宇宙刑に処されてから人格が崩壊し、狂気のMSパイロットになる

ビビニーテン隊のMSパイロット。女侠でVガンダムに果敢に挑んで来る。相手が機体のワッソでは、ギャグにしかならないがVガン唯一の入浴シーンを披露したのも面白い

レナ・デ・パロマ

ドウカー・イクの副官で、彼に想いを寄せていた。この二人の夢は大きく「二人でツーリング」である

ドゥカー・イク

これぞ宇宙のバイク乗り。彼のバイク乗り思想がモトラックド隊を生みだし、超バイク兵器でカミオン隊を苦しめた

ワタリー・ギラ

ファラの部下でベスパの筋金入りMSパイロット。Vガンダムが子供と知り、暖かみながら自爆した正常な軍人

キスハール・バグワット

悪劇の悪人たち。ファラの陰謀でカリンガはキスハールのMSを敵と信じ撃墜する

カリンガ・ヴォーゲル

ゲトル・デブレ

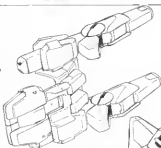
ネネカ隊

カデジナがウツソの意表を突く必要を提案して、この装備で攻撃する。ネネカ隊の生身の女性の攻撃にウツソは感嘆され苦戦するのだった

主要MSとメカ

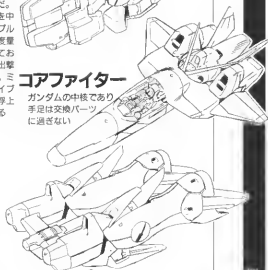
Vガンダム

ゲリラ組織リガ・ミリティアが開発したMS。正規軍ベースの新鋭MSと互角に戦える性能だ。コアファイターを中核にしたマルチプルMSで、ある程度量産のめどがついており後半は数機の出撃も可能であった。ミノフスキードライブで短時間の静止浮上も可能としている

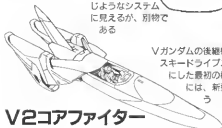


コアファイター

ガンダムの中核であり手足は交換パーツに過ぎない



超高機動戦闘機Vガンダムと同じようなシステムに見えるが、別物である



V2ガンダム

Vガンダムの後継機体だがミノフスキードライブユニットを実用にした最初の機体で、性能的には、新型MSといえよう

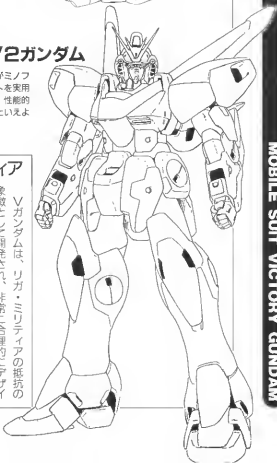
V2コアファイター

リガ・ミリティア

Vガンダムは、リガ・ミリティアの抵抗の象徴として開発され、非常に合理的にデザインされている。コアファイターに収納されているガンダム頭部のバルカンが機銃として機能するほか、トッププライムとコアファイターが合体したトップファイターの飛行状態でもヒームシールドが展開可能など、一つの機能がさまざまな状態で使用可能というあたりに、機体の設計姿勢の確かさが感じられる。

一方、V2ガンダムはスベック上では亜光速まで加速可能というミノフスキードライブを搭載したシャープなデザインの機体。ドラッグからほとぼしるビームはまるで光の羽根のように見える。終盤には「V2アサルトガンダム」「V2バスターガンダム」というバリエーションのバリエーションも登場する。

Vガンダムは、リガ・ミリティアの抵抗の象徴として開発され、非常に合理的にデザインされている。コアファイターに収納されているガンダム頭部のバルカンが機銃として機能するほか、トッププライムとコアファイターが合体したトップファイターの飛行状態でもヒームシールドが展開可能など、一つの機能がさまざまな状態で使用可能というあたりに、機体の設計姿勢の確かさが感じられる。



V2アサルト・ガンダム

V2ガンダムの強化バリエーションのひとつ。1フィールド発生機があり強行突入作戦で活躍

V2バスター・ガンダム

V2ガンダムの新武装強化バリエーションのひとつ。武装だけでV2ガンダム10機に匹敵する戦力

V2トップファイター

Vガンダムと同じく、トップとリムのパーツが飛行ユニットとして単独で使えるが、戦闘力は桁違いに強化された

Vダッシュ・コアブースター

Vガンダムのコアファイターにブースターを装備し、そのままガンダムに合体できるシステム。機動力・航続距離が飛躍的にUPし別種のMSとなる

Vガンダム・ヘキサ

Vガンダムが量産配備されたので、指揮官用に頭部センサーや通信アンテナを強化したものの。オリファアが乗務し、シュラク隊を指揮した

Vダッシュ・ガンダム

ブースター装備のコアファイターを中核にしたVガンダムの強化バージョン。コアファイターの性能がガンダムを支配する典型といえよう

ガンイージ

リガ・ミリティアがVガンダムと同時に開発した変形合体機構のないガンダム。構造が簡単なので量産は早く、シユラク隊に全機配備される。性能もVガンダムと遜色はない

ジェムスガン

地球連邦軍の主力MSとして地球上に配備されているが、基本設計が30年も前なので性能的には心もとない

セッター

リガ・ミリティアがMSの大気圏内用サブライトシステムとして運用。ガンイージを、二機搬送する。下駄より速く動けるから雪駄といところか？

ジャベリン

地球連邦軍の宇宙戦闘用MS。背中のショットランサーを換装し、対MS戦と対艦船戦に対応する

ガンイージを、宇宙戦闘用に改良したMS。変形しないVダッシュガンダム程度の戦力になる。オデロたちも視線を奪えてからは、これに乗り組む

カンブラスター

ザンスカール帝国

ザンスカール帝国のMSの最大の特徴は、そのキツネのような細いカメラと、昆虫を思わせる曲線的なデザインだ。地上で運用される機体にはビームローターが搭載され、サブライツシステムを利用しない、単独での飛行が可能となっている。

また車輪というコンセプトも重要だ。MSサポート兵器「アインラッド」、「ツインラッド」のほか、ガッター隊が操る全長18mの戦闘バイクや、そこからのデザインの系譜が感じられるモトラッド艦隊の旗艦アドラステア、リシテアなどが車輪メカである。

ソロ

ベスバの主力MSソロアットを地上用に強化改良したMS。上半身トップターミナルはヘリコプター形状に、下半身ボトムターミナルは小型履帯形状になる。MS時には履帯のビームローターで空中戦が可能



ソリディア

ソロアットを地上用に強化したMSで、モトラッド隊がアインラッドと組み合わせて使用



トムリアット

ソロを発展強化させたMS。分離機構を無くしMS形態とヘリ形態で立体的な作戦を展開し、ソロの倍の戦力になる



ドムットリア

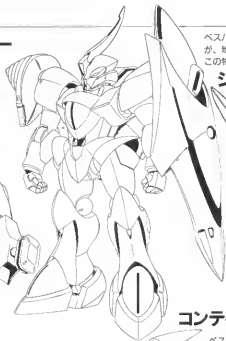
トムリアットを部分改修した地上戦闘用MSで、モトラッド隊の地球進攻作戦に合わせて急遽配備された。西中のローターが強化されヘリ形態での安定性が上がっている

ソロアット

ベスバの主力MS。その基礎設計の確かさが数々のMSを誕生させた。特殊センサーが独特のキツネ目状のフェイスを形作る。それがベスバMSの特色だ

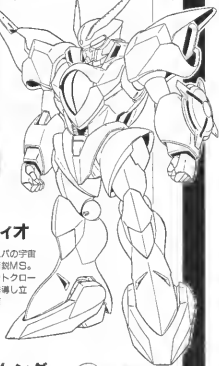
リグ・シャツコー

テスト結果が良好だった為に正式採用されたベスパの斬鋭MS。基本性能が高く、戦略別に特殊装備を追加して使用される



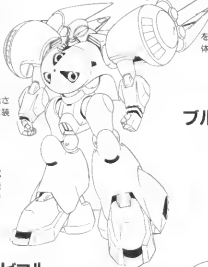
ベスパの地上戦闘用試作MS。クロノクルが、地上でテスト飛行中にウツツと遭遇しこの物語の発端となった

シャツコー



コンティオ

ベスパの宇宙用斬鋭MS。ショットクローを有線誘導し立体攻撃可



ゲドラフ

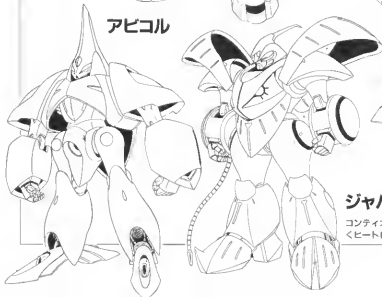
アインラッド専用に関発された量産MS。単体では装甲等に問題があった

新素材の開発を兼ねた試作MA。その圧倒的な機動力はV2ガンダムを苦戦させた

ブルッケング



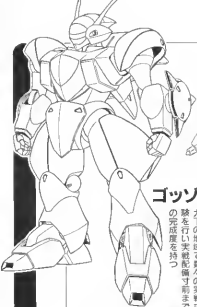
アビコル



サポートメカであるアインラッドを最初から背負ったMSで、敵にタイヤを奪われない

ジャバコ

コンティオの発展形MS。機動性能が高くヒートロッドで敵MSを捕獲する



ゴッソーラ

陸上用試作MS。ペイバ勢
以下の地域で数々の実戦試
験を行い実戦配備寸前まで
の完成度を持つ



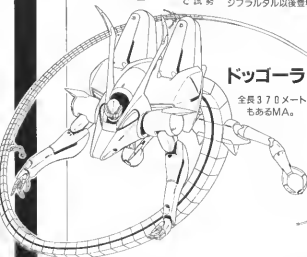
メツメドーサ

陸戦用試作MS。数々の新機
構を採用しながらアーティー
ジブラルタル以後登場しない

試作水陸両用可
変MS。コロニ
ーで開発したの
で水密が悪
く、漏水が多
発した



ガルグイユ

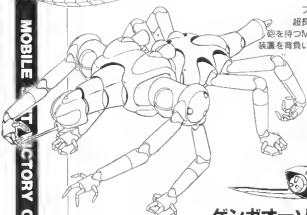


ドッグオーラ

全長37メートル
もあるMA。



ザンネック



サンドージュ

ザンスカールの民間企業が開発
したモビルワーカー。作業用の
くせに、妙に戦闘力があった

ファラ専用の
超長距離加粒子
砲を持つMS。加粒子
装置を背負い専用ベースで飛行

ゲンガオーソ



試作MS。もとのビームラ
ンチャーが自在に動く、強
化人間用のMS
だった

V
MOBILE SUIT VICTORY GUNDAM

機動戦士Vガンダム

総括



Vガンダムは、F91と同様、U.C.の世界観を継承しながらも、全く新しい物語をスタートさせた作品だ。だが、ガンダムのイメージの継承とリニューアルを狙ったF91とは対照的なことに、本作は富野監督の言葉を借りるなら「ガンダムを潰そうと思ってつくった」ガンダムであったのだ。

この「ガンダム潰し」とは一体どういうことだったのかを考える前に、まずドラマ面からVガンダムがガンダムシリーズの中で、どのような位置づけの作品であったかを見てみたい。

ガンダムシリーズの基本的な要素に、主人公の家族が離散している、という条件があることはF91の項でも書いた通り。これはウツソも例外ではない。だが、ここでもこのアイデアはひとひねりした形で使われる。

リガ・ミリティアの一員であったウツソの両親は、まだ子供だった彼にサバイバル技術などを教え込んだ後に、宇宙へと上がってしまった。ウツソはカサレリアで、お隣のシャクティと助け合いながら一人で暮らしていた。だがウツソの両親は、初代ガンダム、Zガン



ダムのように全く子供を構わない親でも、あるいはF91のように離れていても子供を思う親でもない。Vガンダムで描かれたのは、子供に期待しすぎる親の像である。

ウツソの両親は息子が生まれる以前からニュータイプだと決め、育児・教育のプランに従ってサバイバル術などを教え込んだ。それは、ウツソの身に着いてはいるものの、決して本人の意思ではなかった。

だが、ウツソはそうした技術を持っているが故に、子供にも関わらずMSに乗っても十分戦えてしまった。この技術と年齢のアンバランスが、彼の不幸の原因となった。

技術は本来、目的のためにある。例えば、クロノクルがMS戦にプライドを見せるのは、女王の弟というだけではない自分を見つけたいからである。カテナにしても、クロノクルが、ウーイック時代の自分の古い世界を変えてくれると信じたから、MSに乗ってみせるのである。ところがウツソはそうした目的から自由だ。唯一あるとすれば、周囲のみんなのために自分の技術を役立てたいというくらいだろうか。

だが、自分のための目的に縛られている2人は、ウツソと相對した時、その「目的」から自由な姿が、無自覚に見えて感情を逆撫でされるのである。これは、目的のないアムロと、恩のために戦うララァという初代ガンダムの構図のネガと捉えることも可能だろう。もつとも、ウツソが目的から自由でも、それが幸せとは限らない。ウツソは、ロブ・オレスケスに死んだ息子と同一視され「僕はウツソなのに」とつぶやき、拷問の名目で自分を風呂場に連れ込んだルベ・シノを撃墜する時には「お母さんをやりたければ、自分で子供を産んで下さい」と絶叫する。

この通りウツソは、望むと望むに関わらず、子供であるが故に大人の期待を背負わされる主人公であったのだ。その不幸を受け止めることができるのは、生身の人間ではなく、物語の最初から常に聖女でありつづけたシャクティイだけ、というのとは当然の帰結であろう。なお、主人公とヒロインが2人とも地球上で育っているというのは、ガンダムシリーズの中でも初めてである。

さて、このように親のプレッシャーにつぶ



されそうになりながらも持ちこたえるといふ非常に現代的な子供像を主人公に据えながら、富野監督は「ガンダムを潰す」ことを考えた。ここでガンダムというのはおそらく、「ガンダムはリアル」というイメージと、プラモデルをバックボーンとした商品価値のことではないだろうか。

例えば、車輪付き戦艦。こんな極端なデザインが堂々と登場するあたりに「ガンダムはリアルであらねばならない」という先入観を覆そうという意志がみえてとれる。敵MSは全般にミリタリー色は薄く、中にはあからさまに昆虫を思い起こさせるサンドージュや、巨大な尾を持つドッゴラといった、初代ガンダムでいうならザクレロ並に。ガンダムのリアル。から遠いメカも登場する。

加えて、これまで超能力は登場しなかったガンダムシリーズだが、エンジェル・ハイロウに「サイキッカー」(その能力は不明だが)という超能力者を思わせる名称の人々が集結しているのも意外な設定であった。

Vガンダムの運用方法も、従来のガンダムと大きく違う。Vガンダムの上半身や下半身

のパーツは、合体前に攻撃で壊れても、予備のパーツにすぐ交換される。だから、パーツをそのまま戦艦につけるという大胆な戦法も登場する。また、ガンダムのバリエーションが何機も登場するのも異色だった。こうなると、Vガンダムはフィルム上では目立っても、世界観の中では埋没してしまう。

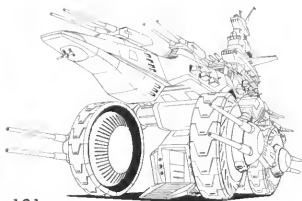
これらは確かにプラモデルとMS、あるいは作品の関係において、一定のスタイルを築いたガンダムZZと比べても、あまりにも違いすぎる方法論であった。

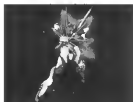
だが「ガンダム潰し」は失敗する。Vガンダム放送終了後も同じ放送枠で、U.C.世界ではない「機動武闘伝Gガンダム」「新機動戦記ガンダムW」「機動新世紀ガンダムX」が放送され、ガンダムの商品化がエスカレートしていくのは皮肉な流れである。

Vガンダムで印象的なシーンがある。それは、ハロがシャボン玉を吹き出し、そこにVガンダムの立体映像を投影するというシーンだ。この映像はザンスカールの兵士を惑わし、ウツソたちの危機を何度か救うことになる。シャボン玉という空洞に映し出された、虚像



のガンダム。そして、それを「本物」と誤解して大騒ぎする人々。ガンダムなんて所詮こんなものである……これこそ、ガンダムを潰そうと考えた富野監督が、Vガンダムに忍ばせた密かな毒のような気がするのだが。





機動戦士Vガンダム スタッフリスト

STAFF

企画 サンライズ

秘監督 富野由悠季

原作 矢立 肇

富野由悠季

音楽 千住 明

OP「STAND UP TO THE VICTORY〜トゥ・ザ・ヴィクトリー〜」 歌/川添智久

新OP「Don't Stop Carry On!」 歌/RO

ED「WINNERS EDOVER〜勝利者よ〜」 歌/INFIX

新EO「もう一度TENDERNESS」 歌/KIX▶S

キャラクターデザイン 達坂浩司

メカニカルデザイン 大河原邦男

カトキハジメ

石垣純哉

プロデューサー 小泉美明(テレビ朝日)

楠田益朗(サンライズ)

撮影監督 大神洋一

美術監督 池田繁美

アニメーター 達坂浩司 西村誠芳

村瀬修功 瀬尾康博

前田明寿 新保卓郎 ほか

編集 鶴岡友彰(鶴岡映画)

現像 東京現像所

音響監督 涌上靖夫

音響制作 オーディオ・プランニング・ユー

効果 松田昭彦(フィズサウンド)

調整 大城久典

録音 A.P.スタジオ

制作 テレビ朝日 サンライズ

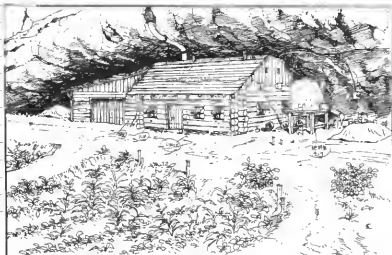
制作協力 電通・創通エージェンシー





CAST

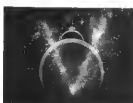
ウツソ・エヴィン 阪口大助
 シャクティ・カリン 黒田由美
 マーベット・フィンガーハット 白石文子
 オリファール・イノエ 園部啓一
 オデロ・ヘンリーク 中田雅之
 ウォレン・トレイス 松本梨香
 スーヰ・リレーン こおろぎさとみ
 トマーシュ・マザリク 関 一智
 ジュンコ・ジェンコ 小林優子
 カテジナ・ルース 渡辺久美子
 クロノクル・アシャー 榎 臣幸
 ファラ・グリフォン 折笠 愛
 マリア・ピア・アーモニア 篠原恵美
 ミューラ・ミゲル 兵藤まこ
 ハンゲルグ・エヴィン 堀内賢雄
 ルベ・シノ 伊藤美紀
 ケイト・ブッシュ 安達 忍
 ベギー・リー 荒木香恵
 ヘレン・ジャクソン 深見梨加
 マヘリア・メリル まるたまり
 ユカ・マイラス 田中敦子
 コニー・フランシス こおろぎさとみ
 フランチェスカ・オハラ 石川真美
 ミリエラ・カタン 日高奈留美





機動戦士Vガンダム 放映リスト

話	放送日	サブタイトル	脚本	絵コンテ	演出	作画監督	演 助	制作進行
1	'93 4/2	白いモビルスーツ	桶谷 顕	佐藤育郎	佐藤育郎	瀬尾康博	武井良幸	森 邦宏
2	'93 4/9	マシンと会った日	園田英樹	芹谷 稔	江上 潔	西村誠芳	武井良幸	吉田有美子
3	'93 4/16	ウッソの戦い	園田英樹	西森 章	高瀬節夫	前田明寿		浦崎宣光
4	'93 4/23	戦いは誰のために	神戸一彦	芹谷 稔	西森 章	西村誠芳	渡辺哲哉	村松孝次
5	'93 4/30	ゴッソーラの反撃	園田英樹	西森 章	玉田 博	谷口守泰 吉田 徹	渡辺哲哉	小原浩一
6	'93 5/7	戦士のかがやき	園田英樹	江上 潔	江上 潔	西村誠芳	武井良幸	塚田政宏
7	'93 5/14	ギロチンの音	桶谷 顕	高瀬節夫	高瀬節夫	前田明寿		浦崎宣光
8	'93 5/30	激斗/波状攻撃	富田祐弘	西森 章	西森 章	瀬尾康博 村瀬修功	渡辺哲哉	村松孝次
9	'93 5/28	旅立ち	園田英樹	佐藤育郎	佐藤育郎	谷口守泰 吉田 徹	渡辺哲哉	森 邦宏
10	'93 6/4	鮮烈/シュラク隊	富田祐弘	西森 章	玉田 博	西村誠芳	武井良幸	吉田有美子
11	'93 6/11	シュラク隊の防壁	桶谷 顕	加瀬充子	江上 潔	逢坂浩司	武井良幸	小原浩一
12	'93 6/18	ギロチンを粉砕せよ/	桶谷 顕	高瀬節夫	高瀬節夫	前田明寿		浦崎宣光
13	'93 6/25	ジブラルタル空域	富田祐弘	西森 章	西森 章	西村誠芳	渡辺哲哉	塚田政宏
14	'93 7/2	ジブラルタル攻防	桶谷 顕	佐藤育郎	佐藤育郎	西村誠芳	武井良幸	村松孝次
15	'93 7/9	スペースダスト	神戸一彦	西森 章	高瀬節夫	前田明寿		浦崎宣光
16	'93 7/16	リーンホース浮上	桶谷 顕	加瀬充子	江上 潔	新保卓郎	渡辺哲哉	小原浩一
17	'93 7/23	帝国の女王	(構成) 芹谷 稔	芹谷 稔	加瀬充子	西村誠芳	武井良幸	蜂岸 功
18	'93 7/30	宇宙艦隊戦	富田祐弘	西森 章	芹沢剛史	西村誠芳	武井良幸	塚田政宏
19	'93 8/6	シャクティを探せ	神戸一彦	加瀬充子	玉田 博	瀬尾康博	渡辺哲哉	森 邦宏
20	'93 8/13	決戦前夜	桶谷 顕	佐藤育郎	佐藤育郎	谷口守泰 吉田 徹	武井良幸	吉田有美子
21	'93 8/20	戦略衛星を叩け	富田祐弘	西森 章	西森 章	新保卓郎	渡辺哲哉	村松孝次
22	'93 8/27	宇宙の虎	園田英樹	加瀬充子	江上 潔	新保卓郎	武井良幸	塚田政宏
23	'93 9/3	ザンスカール潜入	桶谷 顕	芹沢剛史	芹沢剛史	西村誠芳	渡辺哲哉	小原浩一
24	'93 9/10	首都攻防	桶谷 顕	西森 章	玉田 博	村瀬修功	武井良幸	森 邦宏
25	'93 9/17	敵艦と敵地へ	桶谷 顕	西森 章	西森 章	新保卓郎 板倉和弘	渡辺哲哉	吉田有美子
26	'93 9/24	マリアとウッソ	園田英樹	加瀬充子	関田 修	西村誠芳	武井良幸	山洲 太



話	放送日	サブタイトル	脚本	絵コンテ	演出	作画監督	演出	制作進行
27	'93 10/1	宇宙を走る閃光	園田英樹	芹沢剛史	芹沢剛史	瀬尾康博	渡辺哲哉	小原浩一
28	'93 10/8	大脱走	桶谷 顕	杉島邦久	山本裕介	谷口守泰 吉田 徹	武井良幸	塚田政宏
29	'93 10/15	新しいスーツV2	桶谷 顕	福田巳津央	佐藤育郎	新保卓郎 板倉和弘	渡辺哲哉	森 邦宏
30	'93 10/22	母のガンダム	桶谷 顕	加瀬充子	玉田 博	西村誠芳	武井良幸	吉田有美子 喜多幡徹
31	'93 10/29	モトラッド発進	桶谷 顕	西森 章	藤本義孝	前田明寿		荒尾哲也
32	'93 11/5	ドッゴラ激進	神戸一彦	芹沢剛史	芹沢剛史	逢坂浩司	渡辺哲哉	小原浩一
33	'93 11/12	海に住む人々	園田英樹	西森 章	武井良幸	新保卓郎 板倉和弘		塚田政宏
34	'93 11/19	巨大ローラー作戦	桶谷 顕	山本裕介	山本裕介	西村誠芳	渡辺哲哉	吉田有美子
35	'93 11/26	母かシャクティカ	桶谷 顕	加瀬充子	佐藤育郎	瀬尾康博	武井良幸	森 邦宏
36	'93 12/3	母よ大地にかえれ	神戸一彦	西森 章	関田 修	谷口守泰 西田博光 森下博光		喜多幡徹
37	'93 12/3	逆襲ツインラッド	桶谷 顕	芹沢剛史	芹沢剛史	新保卓郎 板倉和弘	渡辺哲哉	小原浩一
38	'93 12/10	北海を炎にそめて	園田英樹	山口頼房	玉田 博	西村誠芳	武井良幸	塚田政宏
39	'93 12/17	光の翼の歌	桶谷 顕	加瀬充子	渡辺哲哉	逢坂浩司		森 邦宏
40	'94 1/7	超高空攻撃の下	桶谷 顕	西森 章	佐藤育郎	さとうけいち	武井良幸	喜多幡徹
41	'94 1/14	父のつくった戦場	園田英樹	芹谷 稔 山本裕介	山本裕介	新保卓郎 板倉和弘	渡辺哲哉	小原浩一
42	'94 1/21	鮮血は光の渦に	桶谷 顕	芹沢剛史	芹沢剛史	西村誠芳	武井良幸	吉田有美子
43	'94 1/28	戦場の彗星ファラ	桶谷 顕	西森 章	関田 修	谷口守泰 森下博光		森 邦宏
44	'94 2/4	愛は光の果てに	園田英樹	滝沢敏文	武井良幸	瀬尾康博		塚田政宏
45	'94 2/11	幻覚に踊るウッソ	(構成) 芹谷 稔	芹谷 稔	玉田 博	逢坂浩司	渡辺哲哉	喜多幡徹
46	'94 2/18	タシロ反乱	神戸一彦	加瀬充子	佐藤育郎	新保卓郎 板倉和弘	武井良幸	小原浩一
47	'94 2/25	女たちの戦場	桶谷 顕	西森 章	渡辺哲哉	西村誠芳		吉田有美子
48	'94 3/4	消える命 叫ぶ命	桶谷 顕	芹沢剛史	芹沢剛史	瀬尾康博	武井良幸	森 邦宏
49	'94 3/11	天使の輪の上で	桶谷 顕	西森 章	関田 修	西村誠芳		塚田政宏
50	'94 3/18	雲しみが呼ぶ対決	桶谷 顕	山本裕介	山本裕介	新保卓郎 板倉和弘	渡辺哲哉	喜多幡徹
51	'94 3/25	天使たちの昇天	園田英樹	西森 章	西森 章	逢坂浩司	武井良幸	小原浩一

機動戦士Vガンダム ビデオ・LDガイド

発売・販売 バンダイビジュアル (株)

※価格はすべて税抜です。



LD 2巻
7,573円
BELLE-698
©創通エージェンシー・サンライズ・テレビ朝日



LD 1巻
7,573円
BELLE-697
©創通エージェンシー・サンライズ・テレビ朝日



LD 4巻
7,573円
BELLE-699
©創通エージェンシー・サンライズ・テレビ朝日



LD 3巻
7,573円
BELLE-698
©創通エージェンシー・サンライズ・テレビ朝日



LD 6巻
7,573円
BELLE-802
©創通エージェンシー・サンライズ・テレビ朝日



LD 5巻
7,573円
BELLE-801
©創通エージェンシー・サンライズ・テレビ朝日



LD 8巻
7,573円
BELL-604
©創通エージェン
シー・サンライズ・
テレビ朝日



LD 7巻
7,573円
BELL-603
©創通エージェン
シー・サンライズ・
テレビ朝日



LD 10巻
7,573円
BELL-606
©創通エージェン
シー・サンライズ・
テレビ朝日



LD 9巻
7,573円
BELL-605
©創通エージェン
シー・サンライズ・
テレビ朝日



LD 12巻
7,573円
BELL-608
©創通エージェン
シー・サンライズ・
テレビ朝日



LD 11巻
7,573円
BELL-607
©創通エージェン
シー・サンライズ・
テレビ朝日



LD 13巻
7,573円
BELL-609
©創通エージェン
シー・サンライズ・
テレビ朝日



ビデオ 9巻
9,515円
BES-915
©創通エージェンシー・サンライズ・テレビ朝日



ビデオ 10巻
9,515円
BES-916
©創通エージェンシー・サンライズ・テレビ朝日



ビデオ 5巻
9,515円
BES-911
©創通エージェンシー・サンライズ・テレビ朝日



ビデオ 1巻
9,515円
BES-907
©創通エージェンシー・サンライズ・テレビ朝日



ビデオ 11巻
9,515円
BES-917
©創通エージェンシー・サンライズ・テレビ朝日



ビデオ 6巻
9,515円
BES-912
©創通エージェンシー・サンライズ・テレビ朝日



ビデオ 2巻
9,515円
BES-908
©創通エージェンシー・サンライズ・テレビ朝日



ビデオ 12巻
9,515円
BES-918
©創通エージェンシー・サンライズ・テレビ朝日



ビデオ 7巻
9,515円
BES-913
©創通エージェンシー・サンライズ・テレビ朝日



ビデオ 3巻
9,515円
BES-909
©創通エージェンシー・サンライズ・テレビ朝日



ビデオ 13巻
9,515円
BES-919
©創通エージェンシー・サンライズ・テレビ朝日



ビデオ 8巻
9,515円
BES-914
©創通エージェンシー・サンライズ・テレビ朝日



ビデオ 4巻
9,515円
BES-910
©創通エージェンシー・サンライズ・テレビ朝日

第7章 ● U.C.ガンダム総論

アニメック流ガンダム総括

小牧雅伸

ガンダム20周年にあたり、全てのガンダムを再評価してみたい。それが本シリーズの企画原案です。しかし、第一作「機動戦士ガンダム」が自分の中であまりにも重要な作品に育ってしまい、いつまで経っても前に進めなかったのも事実です。

今回は、氷川竜介氏の構成の妙と、藤津亮太氏の文章により、宇宙世紀に活躍したガンダムを総括することができました。特にZZに関しては、13年目にしてやっと正当な評価ができたかと感慨もひとしおです。

ガンダムは、すでにアニメーション作品の中に一ジャンルを築いています。100タイトルを超えるアニメーション作品を制作したサンライズが、いまも「ガンダムの」という枕言葉で語られるのも、その証拠のひとつではないでしょうか。

昨年夏に開催されたガンダム生誕20周年イベント「ビッグバンプロジェクト」で富野監督が「ガンダムの新作は、全てのガンダムを継承する作品である」と明言されました。

本シリーズの「歴史編」と「大事典編」の2冊を編集した直後でしたので、過去のガン

ダムを全て検証し、現在の評価を下す作業は必要なのではないかと強く感じたものです。

ガンダムはそれぞれが独立した作品であると同時に、全てを含んだ大きな流れがあるのも事実だからです。プラモデルからガンダムを認知した人もあれば、SDガンダムによってガンダム世界に入って来た人もいるのですから……。

こうして宇宙世紀に属する富野監督のガンダムストーリーを一冊の本にしてみると、ガンダムという作品が何であつたかが、明瞭になったような気がしています。

ガンダムは、その時代の空気が生み出した作品です。それは、けっして流行の物という意味ではありません。富野監督がアニメーションを通じて描こうとしている、望むべき未来、あるいは反面教師としての未来なのではないでしょうか？

この本に収録したガンダムは、「時代に負けるな」と「世の中甘くない」を若者に伝えようと賢明にメッセージを発信していました。

その時代の青年たちに向けられたメッセージ、それがガンダムなのではないでしょうか。

「世紀末ではなく、新世紀の息吹を伝えたい」次回作「Vガンダム」の抱負として、富野監督が語った言葉にも未来が感じられます。

この本を編集しているとガンダムの20年が一度バラバラになり、自分なりに再構築されていきました。初代ガンダムに受けた衝撃が強くて、Z以降のガンダムにフィルタがかけられていたのではないかと疑問も湧いてきました。たとえば、Zガンダムを最初に鑑賞した世代にとって、あの作品は続編ではなく「自分にとって原点のガンダム」になっているのですから。

スペースコロニーの浮かぶ未来世界で、試作品のスーパーロボットが、ニュータイプの少年に操縦され、大きな宇宙船で縦横無尽に飛び回る。ガンダムに対してこの公式を無理やり当てはめるのは間違っていたのかもしれない。ガンダムは、マニアの公式で見る必要はないのです。その時代に見た人の心の中に残るものが全てなのではないでしょうか。

ガンダムシリーズは、今も継続しています。この本を編集したメインスタッフ三人が、初代ガンダムに魂を引かれたように、それぞれ

の作品に魅力を感じる人がいるはずです。この本では、6作品を全て対等に扱いました。

未見のガンダムがある世代の人にとって、この本がある種の指針になれば望外の喜びです。

ニュータイプとは、未来に向かって、己の可能性を試そうとする全ての若者を対象にした概念です。人の認識力は、その努力の過程によって得られるのではないかと思います。

ガンダムを語り合える友がいるだけで、人生にとっての宝物になるはずです。40過ぎのオヤジが真剣にそう思うだけの作品なのです。「たかが、アニメじゃないか」と大人は言いますが、ガンダムを見た人が世代を越えてコミュニケーションを取れるのも事実です。

ガンダム放映開始からの20年を振り返ると、この大河ドラマの如きシリーズに最初から付合えたファンはそう多くはありません。逆に、幼少の頃からガンブラで育った人の方が多いくらいでしょう。各論も面白いですが、一人の作家が、これだけの長期に渡り、作り続けた作品群をもう一度鑑賞されてみてはどうでしょうか。また、新たな発見があるのではないかと思います。

「時とガンダムの流れを観るもの」

氷川竜介

ガンダム6作品は、アムロやシャアの世界を描いた4本と、その時代から後の2本に分かれる。その流れを駆け足で時系列的に追って、総覧を試みてみよう。

第一作は「君は生きのびることができるか」という切実な状況に、オタク的な気性を持つ主人公の行動、意識の変化を重ねた作品だ。戦闘主体のロボットアニメ文化を継承しつつ、様々な新規の概念を折りこみ、新たなアニメ文化の発信源となった。その人気は放映終了後1年たって発表された3本の再編集劇場映画で爆発した。

劇場映画時点の人気はガンダムプラモの人氣でもあった。正当な続編『機動戦士Zガンダム』が時間がたっても支持されたのは、ガンブラの世界が継続的に人氣を支えていたからである。オリジナル・フィルムよりプラモデルの作り上げた外伝的な設定の方が肥大する。その逆転現象は続編の出発点にすぎなかった。本作にはその状況でも新規にものづくりを考える監督の反逆の爪あとが見られる。他の歴代ガンダムとは異なった面長のZガンダムの面構えに、それはにじみ出ている。

続く三作目『機動戦士ガンダムZZ』の全体方針は、ガンダムの偶像破壊だった影跡がある。「Zを重ねました」という単純なタイトル、「アニメじゃない」という主題歌、「明るいガンダム」という当時の矛盾して聞こえた作風など……。しかし、ガンダムの持つパブリック・イメージが後半、またシリアス調へ軌道修正していき、ここでガンダムのテレビシリーズはいったん終了する。

シリーズ終了後、富野監督は継続的に初のオリジナル映画である『逆襲のシャア』の制作にかかった。ふくらみきつた富野監督の構想はフィルムを一眼では把握しづらくするまでになっていた。映画はヒットしたもの、観客の大半は真意がつかみかねていたのではない。ここでシャアとアムロの因縁の戦いに終止符が打たれ、完全に最初のガンダム世界にケジメがついた。

富野監督以外によるOVA『機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争』が続いて制作され、ガンダムは新局面を迎える。最初のガンダム「一年戦争」世界の奥深さに引かれた新世代が、それぞれのガンダムを欲し

永川竜介（ひかわ りゅうすけ）

1958年 兵庫県生まれ。アニメ・特撮関係の編集＆ライター。1997年に著書「20年目のザンボット3」（太田出版）を刊行。月刊アニメージュで「世紀末王道秘伝書」を連載中。

始めたのだ。

劇場映画『機動戦士ガンダムF91』は、そんな新展開を横目で見つつ、初心に戻ってオリジナル・メンバーを集めた。ガンダムを新生させようとした意欲的な作品である。当初テレビシリーズとして準備されたためか、再編集映画のようなテイストの急展開が多い。にもかかわらず、比較対象物や引きずるものがないところから始めた富野監督の語り口は、前向きで真摯であった。

富野監督はこの翌年、再びテレビシリーズに戻り、『機動戦士Vガンダム』に携わる。すでに若手が多くなっていた現場の混乱、スポンサーとの軋轢などから、富野監督のストレスは頂点に達していたのかもしれない。反面その中から、複雑な人間関係がたくみに絡み合ってハーモニーや不協和音をかなでながら全体でひとつの形を作るといって、真の大河ドラマ的なフォルムも、ここで完成を見た。しかし、続くテレビシリーズのガンダムは、富野監督以外の人選となってしまう。

以上、かけ足でガンダム6本の後を追ってみた。あらためて思うには、続編のどの作品

を追ってみても、ガンダムの看板にこびりついたイメージとの戦い、その中に新しいものづくりを試みる富野監督の姿勢がある。

この20年をフカンすると、中心に「ガンダム続編シリーズの10年」があり、前に「富野オリジナルの5年」、後ろに「ブランクの5年」というサンドイッチ構造になっている。1999年、新作「ターンエーガンダム」がハマると、完璧な対象形が完成する。Aに回帰してなおかつ転倒させた富野監督の気持ちが続いてくる。

設定や年表にこだわるファンには、ぜひひとつ大きな視点を持ってこういうことにも思いをはせて欲しい。きっと人間は、大きな時間の流れのようなものを認識できて、そこにこめられた人の意思やつながりのようなものが判って、自分自身の暮らしや精神の安定に役立てることの可能な、比類なき能力を持った生物なのだから。そして、こんな目に見えない事象を認知できるひとをガンダムでは仮に「ニュータイプ」と呼んだのだから。

20年もの時間をかけて全身で訴え続けた作品こそ、こう観て欲しいものである。

ガンダムを最後に完成させるモノ

藤津亮太

富野監督は、初代ガンダム以降の20年間に
ついて「後半15年間はひどい生き様をさらし
てしまった」と語っている。

この20年間に個人的に振り返って見ると、
ガンダムシリーズにまつわる思い出は、確か
に正直に言って複雑であった。

初代ガンダムに驚愕し、Zガンダムで頭を
抱えてしまい、ガンダムZZでは更に混乱し
た。逆襲のシャアの初見では本気で怒り、F
91では少しホッとして、Vガンダムでは困惑
の果てにきれいに背負い投げを決められて呆
然とした……。

ガンダムの新作を見るたびに一喜一憂して
きた一ファンとして、富野監督が発言に込め
たニュアンスは、多少なりとも感じ取れるつ
もりではある。では、その15年間に作られた
ガンダムは、果たして死んだ作品だったのか？
それについては、違うと明言できる。

今回の6作品を振り返る作業を行うにあた
って、自分に課したルールがある。

この本のコンセプトは、宇宙世紀の年表を
ベースに、年代記的に網羅するのではなく、
あくまでも、作品の内容に従ってそれぞれを

位置づけようというものだ。だからこそ、そ
こでは、おもしろい／つまらない、という判
断基準で語らないことが大切だと考えた。

確かに、作品を評価するには、おもしろい
／つまらない、という基準は分かりやすい。

例えば、「人類」という巨大なターゲットに向
けて映画を作っているハリウッドは、この一
番分かりやすい快感原則がいかにも生じるかを
分析し、作品に反映している。この傾向は、
70年代後半にアメリカン・ニューシネマのア
ンチテーゼとして拡大し、今や大作映画のほ
とんどは、この快感原則を最重要視して制作
されているといってもいいだろう。

この快感原則は娯楽としての映画を再生し
た。だがそうした映画は同時に、観客を迷わ
せないことに執着したため、観客の地位を、
単なる物語や映像の消費者に狭めてしまった
ことは否めない。

ハリウッド映画だけではない。日本のTV
ドラマもここ10年余りの間に、日本映画界へ
のコンプレックスを払拭し、映像、物語から
役者、小道具に至るまで「消費されるための
情報」として完成した。ここでも視聴者は「お

藤津亮太（ふじつ りょうた）

1968年 静岡県生まれ。月刊アニメージュなどでアニメ関係のライターとして活動している。「傑作アニメ100タイトル あのシーンを忘れない」（双葉社）にも寄稿。

もしろさ」をテコに、情報の消費者としてア
ラウン管に向かうのである。

もちろん私はそんな映画やドラマの在り方
を否定するつもりはない。でも、時には映像
作品を見ながら、混乱したり、考え込んだり
したい時もあるのではないだろうか。

芸術の目的の一つに「異化効果」がある。

例えばリングゴを表現するとしよう。この時、
ただリングゴを描くのではなく、絵画や文学の
さまざまなテクニクを凝らして、認識の経
路を複雑にしそれによって、人に初めてリン
ゴを見たような感興をもたらす——これが、
異化効果だ。映像作品を見ている時に経験す
る混乱の中にも、これに似たような効果があ
るのではないだろうか？ 意味の分からなか
ったセリフ、意図がつかめないアップや自然
描写のインサート……。これらの意味は、物
語を見ながら、あるいは再見した時に分かる
かもしれないし、あるいは、ずっとそのまま
かもしれない。

しかし、その意味を掴もうとして、思考を
巡らす時、あなたはもはや消費者ではなく、
最後のクリエイターである。観客。として、

作品に参加しているのである。観客がその作
品について、混乱・分析・解釈——言葉はな
んでもいい——する時、初めて作品は完成に
向かって進み始めるのである。

つまり、ガンダムシリーズはそんなアプロ
ーチが可能な作品群なのだ。傑作揃いの完全
無欠なシリーズなどと神格化するつもりはな
い。だが、ガンダムシリーズの最大の特徴は、
作品について考えざるを得ないよう、観客を
挑発し続けるところにあると断言できる。こ
れは別にニュータイプ論に限った話ではない。
細かな描写から、ストーリー展開にならざる
を得なかったかについて読みとることも含め
た、その作品の在りようそのものである。そ
して、その意味においてガンダムシリーズは
間違いなく生きている。

もちろんそんな作品はガンダムだけではな
い。だが、1本の作品だけではなく、各シリ
ーズを比較することで、より深く作品につい
て考えることができる。ガンダムシリ
ーズ以外に例はないであろう。その広がり
と深さが「映像で語られる物語」としてのガ
ンダムの魅力であると僕は考えている。

「デジタルはつらいよ」 小牧雅伸



ガンダム20周年にあたり、ガンダムとしてくれる作品を再度評価してみたい。それが本シリーズの発端でした。

アニメックの大事典シリーズには、富野監督作品が全て取り上げられていると思ってる人もいますが、ガンダムZZや逆襲のシャアは実は本になっていないのです。ZZは、どうしてもあの世界に入りきることができなかったからです。逆襲のシャアは公開当時の版權取得が難しかったからなのですが……。

今回は、初代ガンダムと同じ歴史を共有する『宇宙世紀のガンダム』を検証し直したい。そうは思うものの、どうしても自力で翔び上がれなかったのも事実でした。幸いなことにガンダム20周年イベントのおかげで、旧友たち次々に再会できました。アニメック流のガンダム論は、今も通用すると確信できたのは、放映当時にガンダムを熱く語った仲間との再会があったればこそでしょう。

今回は、テレビ4作品、劇場2作品を一挙に検証し宇宙世紀におけるガンダム論を構築してみました。作品単位に魂を引かれず、全てのUCガンダムを俯瞰する構成です。

その為には、アニメーションの面白さを徹底的に引き出せ、なおかつ資料の正確さを追求する氷川竜介氏に企画・構成を依頼しました。さらに、氷川氏の紹介により昨年のイベントで意気投合した藤津亮太氏に助っ人として加わっていただきました。

今回の収穫は、なんといっても藤津氏のネームでしょう。サンプルネームを買った段階でその力量に舌を巻いたものです。特にこれだけ傾向の違うガンダム論を均等な密度で執筆できるのは過去に例がないと思います。

しかし、構成とネームまでは順調だったのに後がいけなかった。氷川氏の繰り出す電子のワザは、添付メールすら解凍したことのない私を苦しめ、せっかく解凍された電子版組は手書きの版下に直されて印刷所に運ばれるのであった。お二人には無理な日程で働いていただいたのだが、このデジタル・アナログ転換で口スを出した点をお詫びしたい。

20年前には電子編集など存在しなかったものである。もう、MSの活躍に時代が変わったと実感するレビル將軍の心境であった。

「いつだってガンダムは本気だった」 氷川竜介



今回、私は文章書きは「ガンダムの黒帯」として信頼できる藤津さんにお任せして、突貫工事の総指揮兼ページづくりの具体作業——どちらかというと黒子のようなことをやらせていただいた。それが「構成・監修」という名前の実態で、エラそうに名前だけ貸す世間一般の「監修」とはちよっと違う。

20年前、小僧っ子であったときにおぼえた編集の必殺ワザ、デジタル社会になっておぼえた電子のワザをジョイントした総力戦だ。

台割づくりのワザ、素材集めのワザ、集まらないときの指定手配ワザ、電子化した版組みのワザ、手書きのラフ切りのワザ、ダミーで進めてタイミングを見て差しかえるワザ、CDの自作ワザ、Eメールでカラー含めて大量の構成を送るワザ、それを日本のどこからでも追っかけられるモバイルのワザ……。

ギネスブックに挑戦級、これ以上「効率的に」(笑)本づくりを進める方法があったら教えて欲しい、というレベルだ。

このワザのせめぎあいから、新しいものが見えるか見えないか。顔の見えない読者と気持ちを通じることが通じないか。

不安と期待の混じった感覚。本気の感覚。ああ、そうだ。ガンダムはいつでも本気だったんだよね。その手触りがする。

富野さんも、ずっとこの感覚と隣り合わせにいたんだ。本づくりの作業の中から、取り上げた作品を通して思える。その感覚が感触となって、不安を解消していく。

そんな作家を知ることができたのは、幸福以外の何ものでもない。

20年という年月は半端ではない。

もちろん、あるキャラクターが20年30年と歳月を経て生き延びることはある。しかし、個人作業の小説家・マンガ家ならいざ知らず、フィルムメーカーでオールタイムを通じて一人の作家が買っているというのは、極めて稀有なケースではないか。

しかも、その作家はまた創作の荒波に乗り出そうとしているのだ。また持てるワザを駆使して、さらなる遠くへ。

でも大丈夫。DNAのように気持ちの鎖が連なって、螺旋を描くようにめぐりめぐって前へ進むだけなんだから。

富野さん、どうか……ご自愛を！

「ガンダム」という大河の前で 藤津亮太



手のひらから水がこぼれていくように、一度はすくったつもりでも、すくいきれないものがある……。

それが今回、富野由悠季監督が携わったガンダムシリーズを総覧した感想です。

私はこの本の総括の中で、いろいろな物差しを使って、それぞれのガンダムの素顔と、互いの相関関係に迫ろうと考えました。その物差しとは、例えば、ロボットアニメのお約束であったり、映画という表現であったり、あるいはプラモデルを含めたビジネスの枠組みであったわけですが、こうやって書き終えてみると、本当のガンダム像は、まだどこかにあるような気がしてなりません。

例えるなら、ガンダムシリーズは川のようなものでした。川とは水の流れている状態そのものです。だから、どんなにあがいても「川」をすくうことはできません。手元にあるのは「水」だけです。そして、その水も手のひらから逃げていきます。でも、私はきっと、今後「川」を捕まえようと、無謀な試みを何度か繰り返すでしょう。

ガンダムシリーズのビデオは、ちょっとし

たレンタルビデオ店ならほとんど揃っています。この本を読まれた方が、それぞれの作品についてこんな見方もあるのかと感じ、改めて見直してみようか、と思っただけはこれほど嬉しいことはありません。ガンダムの本当の姿は本来こうしたムックではなく、フィルムの中にこそあるものだから。

最後に、経験の浅い私にこのような機会を与えてくださった、氷川竜介氏、小牧雅伸氏に深く感謝します。また、この原稿を書くために多くの資料に当たらせていただきました。そんな資料に関係された方々に敬意を表しつつ、以下参考文献を挙げます。

『ガンダム神話』「ガンダム神話Z」（猪俣謙次、ダイヤモンド社）、「まるごと富野」（ニュースタイプ'98年6月号付録）、「機動戦士ガンダム逆襲のシヤア友の会」（庵野秀明責任編集、同人誌）、「機動戦士ガンダムMS大図鑑PART5 Q・パビロニア建國戦争編」（バンダイ）、「機動戦士ガンダム記録全集」（日本サンライズ）、「機動戦士ガンダム大事典（一年戦争編）」、「機動戦士ガンダム大事典（機動戦士Vガンダム大事典）（レポート）（順不同）

ラポートデラックス

機動戦士ガンダム 宇宙世紀vol.4

総括編

©創通エージェンシー・サンライズ・テレビ朝日

STAFF

構成・監修／氷川竜介
本文メイン執筆／藤津亮太
編集／小牧雅伸 千手孝一 穂波優子 賀屋聡子
レイアウト／北の湖角子
Special thanks／飯塚正夫&サンライズ資料室

1999年4月25日 初版発行

編集人 小牧雅伸
発行人 海野榮一
発行 ラポート株式会社
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-1-1
TEL03(3354)3851 FAX03(3354)1368
©RAPPORT K.K.1999
印刷所 株式会社 美研
凸版印刷株式会社

景無断転載 Printed in Japan
定価は表紙に表示しております
乱丁・落丁がありましたら、おとりかえます

ISBN4-89798-390-3

機動戦士
ガンダム
生誕20周年
特別企画

機動戦士ガンダム宇宙世紀

各巻A5判 カラー16頁・白黒128頁 定価：本体1800円＋税

VOL.1 歴史編

一年戦争の多面的な内容と歴史を包括して、ファーストガンダムの興奮を当時の資料で再現するスペシャル企画。アニメック独自のガンダム解説と、サンライズ・オフィシャル資料が融合した最高のガンダム本。

機動戦士ガンダム
宇宙世紀vol.1
歴史編



VOL.2 大事典編

一年戦争に関連するスペックをリニューアルして編集した究極のガンダム事典編。キャラクター・メカニックはオフィシャルに統一され、20年来の大胆な解説と詳細な説明に磨きをかけたメモリアルブック。

機動戦士ガンダム
宇宙世紀vol.2
大事典編



VOL.3 伝説編

ガンダムフリークたちの実況放送とも言える、当時のノリが再現される。1978年放送時の感動と興奮が今ここに!

機動戦士ガンダム
宇宙世紀vol.3
伝説編



機動戦士ガンダム 【一年戦争編】

復刻版

B5判/カラー8頁・白黒128頁 定価：本体1800円＋税

読者の皆様のご要望により文字解説中心の歴史編&大事典編の原型となった『一年戦争編』を完全復刻しました。全話カラーフィルム、イラスト満載の豪華永久保存版。伝説のビジュアルムックです。

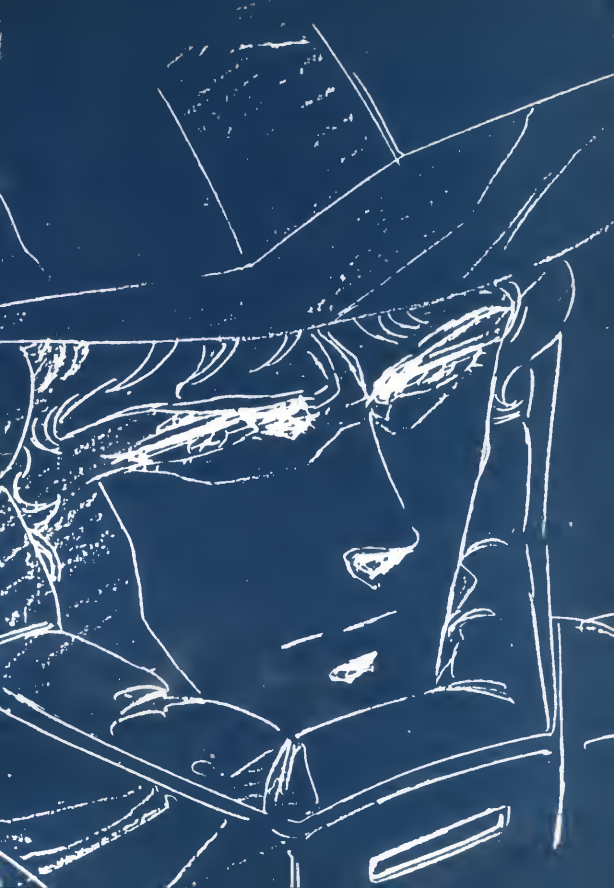
増刷出来!!
好評発売中

富野語録

好評発売中

A5判/カラー8頁・白黒192頁 定価：本体1143円＋税

機動戦士ガンダムからブレンパワードまでの20年間に、富野監督の語ったアニメーションの世界。最先端アニメーションを送り続けるクリエイターの心情を吐露した白熱のインタビュー集。





機動戦士ガンダム 宇宙世紀vol.4

総括編



MOBILE SUIT GUNDAM



ISBN4-89799-390-3

C9474 ¥952E

雑誌69160-67

レポート

定価：本体952円 + 税



9784897993904



1929474009526



RAPPORT
DELUXE

昭和

40

年代

日本

社会

の

発展

と

変遷

社会

生活

第一

集

第一

集

第一

集

第一

集

第一

集

第一

集

第一

集

第一